

エジプト・アラブ共和国
教育・技術教育省

エジプト国学びの質向上のための 環境整備プロジェクト

事業完了報告書

2021年11月

独立行政法人
国際協力機構（JICA）

株式会社パデコ
株式会社国際開発センター

人間
JR
21-054

エジプト・アラブ共和国
教育・技術教育省

エジプト国学びの質向上のための 環境整備プロジェクト

事業完了報告書

2021年11月

独立行政法人
国際協力機構（JICA）

株式会社パデコ
株式会社国際開発センター

目 次

要旨	xi
第1章 プロジェクトの概要	1
1.1 プロジェクトの背景	1
1.2 プロジェクト概要	1
1.3 PDMの改定	2
1.4 受益者	4
1.5 プロジェクトの投入実績	5
1.5.1 日本側投入実績	5
1.5.2 エジプト側投入実績	6
第2章 プロジェクトの活動実績	8
2.1 活動実施スケジュール（実績）	8
2.2 活動内容	8
2.2.1 成果1 「全人的教育（特活プラス）」モデル導入・普及のためのガイドライン文書・教材が開発される	8
2.2.2 成果2 「全人的教育（特活プラス）」モデルを実践する行政官、校長、教員が育成される。	24
2.2.3 成果3 「全人的教育（特活プラス）」モデルを新設校から既存校に普及するシステムが、試行される。	36
2.2.4 成果4 「特活プラスの研修・認証システム（以下、TTCS）のパilotプロジェクトの実施をとおして得られた教訓や提案をまとめ、TTCSプロポーザルが作成される。	45
第3章 プロジェクトの成果	53
3.1 プロジェクト目標と指標	53
3.2 成果と指標	54
3.3 その他	58
3.3.1 環境および社会的配慮	58
3.3.2 ジェンダー／平和構築等に対する配慮	58
第4章 共同レビューの結果	60
4.1 DAC項目評価の観点からの考察	60

第5章	プロジェクト実施運営上の工夫、教訓	65
5.1	プロジェクトの実施に影響を与えた主な課題と運営上の工夫.....	65
5.2	教訓	66
第6章	プロジェクト終了後の上位目標達成に向けた提言	67
6.1	上位目標達成の見通し	67
6.2	上位目標を達成するためのエジプト側の活動計画と実施体制.....	69
6.3	エジプト側への提言事項	74
6.4	プロジェクト終了後から事後評価までのモニタリング計画.....	75



図 2-1 : EDU2.0 の時間割 (小学校 1-3 年生)	9
図 2-2 : Epicollect5 の入力画面	15
図 2-3 : EDU2.0 における特活に関するリーフレット (折り込み式)	15
図 2-4 : 動画 (遊びを通じて学ぶ幼稚園)	19
図 2-5 : 特活研修パッケージ教材の例 (ビデオ教材)	20
図 2-6 : 算数ワークシート	21
図 2-7 : EJS 施設利用ガイド	22
図 2-8 : 全国的な普及のための戦略	23
図 2-9 : 児童の非認知能力向上に向けたロジックモデル.....	25
図 2-10 : 成果が確認されたロジックモデル	29
図 2-11 : パイオニア校の研修とワークショップの写真.....	31
図 2-12 : 新設校 (EJS) のための研修とワークショップの写真	32
図 2-13 : ムディリヤ (左) とイダラ (右) の関係者に対する活動の写真.....	33
図 2-14 : MT/TO の研修とワークショップの写真	38
図 2-15 : 3 種類の学校の全人的教育活動 (ディスカッションペーパー)	39
図 2-16 : 普及戦略に設定された TOR 案.....	43
図 2-17 : 経験共有セミナー (パイオニア校) の写真	44
図 2-18 : アインシャムス大学との共同セミナーの写真.....	44
図 2-19 : 年度末経験共有セミナー (ウェビナー) の写真.....	45
図 2-20 : TO 評価の写真	51
図 6-1 : 後継プロジェクトの PO 案 (1 ページ目/3 ページ)	70
図 6-2 : 後継プロジェクトの PO 案 (2 ページ目/3 ページ)	71
図 6-3 : 後継プロジェクトの PO 案 (3 ページ目/3 ページ)	72
図 6-4 : 後継プロジェクトの実施体制	73
図 6-5 : 実施体制	74

表

表 1-1：本プロジェクトの概要	1
表 1-2：本プロジェクトの PDM の改定	2
表 1-3：日本側投入実績の概要	5
表 1-4：エジプト側投入の概要	6
表 2-1：EJS のキーコンセプト	8
表 2-2：「ミニ特活」および「特活プラス」の活動内容	9
表 2-3：ループリックの項目とステップ 5 の記述例	11
表 2-4：全人的教育の導入ガイドライン及び関連文書	15
表 2-5：教員ガイド（特活プラス）	16
表 2-6：教員ガイド（幼稚園）	17
表 2-7：学校運営マニュアル	18
表 2-8：研修教材	18
表 2-9：EDU2.0 の全国カリキュラム研修における特活研修パッケージ案	20
表 2-10：普及戦略（ワーキングドラフト）の概要	23
表 2-11：特活プラスの実践によって育成が期待される児童の非認知能力	24
表 2-12：当初の評価スケジュールとサンプル校（計画）	26
表 2-13：効果測定調査のスケジュールとサンプル校数（実績）	26
表 2-14：調査ツール	27
表 2-15：パイオニア校向けの研修及びワークショップ	30
表 2-16：新設 EJS 向けの研修及びワークショップ	31
表 2-17：MOETE 職員向けの研修及びワークショップ	33
表 2-18：TO 向けの研修及びワークショップ	36
表 2-19：採用後の TO に対する研修	39
表 2-20：既存校（候補）向けの研修及びワークショップ	40
表 2-21：全人的教育の全国普及のための MOETE 職員の TOR 案	41
表 2-22：国内セミナー・広域セミナー	43
表 2-23：TTCS パイロットプロジェクト JC メンバー	45
表 2-24：EJS スーパーバイザー	46
表 2-25：ILO（学校運営・学級経営）	46
表 2-26：ILO（特活）	47
表 2-27：ILO（幼稚園）	47
表 2-28：1 年目の TO の研修カリキュラム（一部抜粋）	48
表 2-29：1 年目の TO の研修スケジュール案	48
表 2-30：TO 研修実施機関に対する認証基準案	49
表 2-31：TO 評価のための教材及びツール	50
表 2-32：TO 評価の実際のスケジュール	51
表 3-1：プロジェクト目標の達成度	53
表 3-2：プロジェクトの成果	54

表 3-3 : 成果 1 の達成度	55
表 3-4 : 成果 2 の達成度	56
表 3-5 : 成果 3 の達成度	56
表 3-6 : 成果 4 の達成度	57

添付資料一覧

添付資料 1	プロジェクトによる投入
添付資料 2	技術協力成果品一覧
添付資料 3	PDM の全バージョン
添付資料 4	R/D、M/M、EC1 議事録 (内部資料)
添付資料 5	Project Monitoring Sheet (内部資料)
添付資料 6	Plan of Operation (version 8)
添付資料 7	Media Appearances Archives
添付資料 8	MOETE 省令 2019 年 8 月 8 日付第 17 号
添付資料 9	Google フォトアルバム一覧

略 語

略称	英語	和訳
CCIMD	Center for Curriculum and Instructional Materials Development	カリキュラム・教材開発センター
C/P	Counterpart	カウンターパート
CPD	Continuous Professional Development	継続的現職教員研修
EC1	Executive Committee 1	MOETE・JICA 合同委員会
EDU2.0	Education 2.0	Education 2.0（新教育システムの名称）
EJEP	Egypt Japan Education Partnership	エジプト・日本教育パートナーシップ
EJS	Egyptian Japanese School	エジプト日本学校
GAEB	General Authority for Educational buildings	教育・技術教育省施設局
HRDP	Human Resource Development Program	エジプト日本教育パートナーシップ 人材育成事業
IEC	Information, Education and Communication	情報教育コミュニケーション
ILO	Intended Learning Outcomes	想定される学習成果
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
JC	Joint Committee	合同委員会
KG	Kindergarten	幼稚園
LMS	Learning Management System	学習管理システム
MOETE	Ministry of Education and Technical Education	教育・技術教育省
MT	Master Trainer (This term was used until 2018/19)	マスタートレーナー（2018/19 学校年度まで使われていた用語）
ODA	Official Development Assistance	政府開発援助
OJT	On-the-Job Training	現任訓練
OVI	Objectively Verifiable Indicators	客観的に検証可能な指標
PAT	Professional Academy for Teachers	教員専門アカデミー
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス

PMU	Project Management Unit	事業管理部
R/D	Record of Discussion	基本合意文書
R&D	Research and Development	研究開発
SC	Steering Committee	エジプト・日本合同委員会
SOP	Standard Operating Procedure	執務要領
TO	Tokkatsu Officer	特活オフィサー（2018/19 学校年度からこの用語を使用）
TTCS	Tokkatsu Training and Certifying System	特活研修・認証システム

本報告書で使用する用語の定義

特活関連の用語

用語	定義・説明
特活	<ul style="list-style-type: none"> 日本の学習指導要領に「特別活動」として領域が定義されている各種教育活動の略称。
特活プラス (Tokkatsu+)	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営、学級経営、幼稚園での遊びを通じた学びなど、日本の学校で一般的な学校文化や習慣、教育活動などのうち、エジプトに適用可能なものも、特活に加えて提供していくため、それらを統合して呼ぶ際に使うためエジプトで生まれた呼称。
ミニ特活 (Mini-Tokkatsu)	<ul style="list-style-type: none"> 上の「特活プラス」の中から中心的な活動である「学級会」「学級指導」「日直」が、エジプトの EDU 2.0 に取り入れられ、全国の一般校で実施することが決まった際に生まれた呼称。 ただし、「ミニ」の表現は、学級会や学級指導の活動を量的にも質的にも正しく表現できておらず、かつその重要性も伝えられないため、名称変更を提案している。
日本式学校教育活動	<ul style="list-style-type: none"> 特活に加えて、日本の学校で一般的に行われている教育活動の総称。
Tokkatsu	<ul style="list-style-type: none"> 2018/19 学校年度にエジプトの新カリキュラムに導入された授業の科目名。

学校の種類

名称	校数	定義・説明
パイオニア校 (旧称：パイロット校)	12校	<ul style="list-style-type: none"> 2015年に実施された情報収集・確認調査において、試験的に特活が導入された公立学校2校及びその後教育・技術教育省(MOETE)が独自に普及した10校の計12校。当初はパイロット校とされていたが、パイロット期間は終了したことから、エジプト側が名称をパイオニア校に変更した。 本報告書では、原則的にこの呼称を使用する。
モデル実践校 (新設校)	計画：100校 建設済：48校 実践校：43校	<ul style="list-style-type: none"> エジプト政府が本プロジェクトのモデル実践校として設立する学校。 職員室や一定の広さの校庭、理科実験室を有し、可動型の椅子と机といった備品を伴い、日本式学校教育活動の実践がしやすいよう施設の整備された学校。 教員も生徒も公募する形式で開校。 日本・エジプト両政府間の合意文書では「Egypt-Japan School」と記載されていたが、第1バッチのEJS開校時に、エジプト政府が決定したアラビア語名は「マドラサ・マスリーヤ・ヤバニーヤ」、英語名は「Egyptian Japanese School」(下図の公式ロゴを参照)となった。

名称	校数	定義・説明
		<ul style="list-style-type: none"> 本報告書での英語表記は Egyptian Japanese School、略称は EJS を使用。 
モデル実践校 (既存校)	計画：100校 実施：0校	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトのPDMが示す、公立校からエジプト側が選定し、本プロジェクトの介入のある学校。 本プロジェクトの終了時において、選定プロセスは進んだが、コロナ禍で活動導入までには至っていない。 将来的に名称変更の可能性がある。
一般校	MOETE 傘下の全 国の小学校約 19,000校	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトのPDMが示す、プロジェクトの直接の介入のない公立校。 ただし、MOETEにより、本プロジェクトで開発した教員ガイドの配布と、その際と同じく本プロジェクトで開発した学級会を説明するビデオの視聴が行われた。 本プロジェクトの後継プロジェクトの対象となる学校。

トレーナーの種類

用語	定義・説明
特活オフィサー (Tokkatsu Officer : TO)	<ul style="list-style-type: none"> 本プロジェクトが開発するモデルの指導員 2017/18 学校年度においては主に研修業務を担当した（当時は Master Trainer: MT と呼ばれていた）。 2018/19 学校年度に各県教育事務所所属の MOETE 職員から 40 名増員され、研修に加えてモニタリングも担当することになり、名称も「特活オフィサー」に変更。

エジプトの新教育システムと新カリキュラム

用語	定義・説明
新教育システム (EDU 2.0)	<ul style="list-style-type: none"> • 2018/19 学校年度から導入された新しい教育システム Education 2.0 <主な特徴> ✓ 学級担任 2 人制 ✓ 学期末学年末試験の廃止及び形成的評価の採用 ✓ 主要教科の総合化 • 初学校年度 (2018/19) には幼稚園 2 学年と小学校 1 年生を対象とし、以後、毎年 1 学年ずつ対象を増やしていく計画。
新カリキュラム (EDU 2.0 カリキュラム)	<ul style="list-style-type: none"> • EDU 2.0 のもとで導入されたカリキュラム <主な特徴> ✓ 主要教科を総合学習 (Multidisciplinary) として統合 ✓ 教科全体の構成は、総合学習、英語、体育、宗教、特活 (ただし週 15.5 コマを配分した総合学習に「Window」という時間枠を設け、その中からアラビア語と算数にそれぞれ 5 コマと 4 コマを充当) ✓ 幼稚園から英語の学習を開始 ✓ 英語に普通レベルの教科書 (Connect) とアドバンスレベルの教科書 (Connect plus) が作られ、学校によって教科書の選択が可能となった ✓ それまで図工や音楽といっしょに選択科目「Activities」としてまとめられていた体育が、単独科目として時間割にコマが振り分けられた ✓ 「ミニ特活」の導入

エジプトの年度

用語	定義・説明
学校年度	<ul style="list-style-type: none"> • 9 月から翌 8 月
予算年度	<ul style="list-style-type: none"> • 7 月から翌 6 月

要旨

「エジプト国学びの質向上のための環境整備プロジェクト」は、エジプト国教育・技術教育省と国際協力機構との間で、2016年11月に結ばれた基本合意文書に沿って実施された技術協力プロジェクトである。2020年11月に改訂されたPDMに設定されたプロジェクト目標は、「選定された学校で全人的教育（特活プラス）モデルが活用される」である。

プロジェクト期間は当初2017年2月から2021年2月までの4年間とされたが、エジプトの2020/21学校年度が終了する2021年9月まで7か月間延長された。プロジェクトの介入の多くは、エジプトにおける全人的教育（特活プラス）モデルの指導員である特活オフィサーの能力強化に向けられた。次に、彼らを通じてエジプト日本学校を含む対象学校55校の教員約1,400人が同モデルの実践方法を学び、そこで学ぶ園児や児童約13,000人と共にそれを実践した。加えて、エジプト日本学校での授業研究会に、近隣の学校から参加した約500人の教員が、エジプト日本学校での全人的教育モデルの実践に触れた。

プロジェクトは、PDMに設定された4つの成果の大部分を達成したが、コロナ禍の影響で、成果3の既存校への普及モデルの試行は限定的となった。またプロジェクトの終盤に追加された成果4の活動、特活研修・認定システムのパイロット実施は、2つの活動が本報告書提出の時点でまだ継続中である。前述のプロジェクト目標は、パイオニア校とエジプト日本学校では達成された。

責任者の辞職に加え、職員不足や活動資金不足など、プロジェクトの初期の段階では様々な困難に直面した。さらに終盤はコロナ禍に見舞われ、対象学校を含む全国の学校が3回閉鎖されたことにより、その間は全人的教育モデルの実施は限定的であった。

DAC項目評価の観点では、6つの項目の内4つで非常に高い評価となり、1つが高低入り混じった結果で、残りの1つがあまり高くない結果となったが、それはコロナ禍の影響であり、プロジェクトでは対処できない外部要因によるもので、不可抗力だと言える。

プロジェクトが得た教訓は、適切に研修が行われて情報が教員に伝達されれば、EJSに限らず一般校でも学校に正の変化を生む可能性は非常に高いと言えることである。

本プロジェクト終了後、上位目標を理由で達成できる見込みは、次の4つの理由から高いと言える。1) 教育・技術教育省は、EJS、パイロット校・パイオニア校、既存校に限らず、全国の一般校へ全人的教育モデルを普及させるために重要な役割を担う関係機関を示した省令を発出している。2) 同省は、全国の一般校の学校数目標も含む普及戦略を持ち、それを目的とする後継プロジェクトを、既にJICAと合意している。3) 同省は、新カリキュラムにおいて、少なくとも小学校高学年までは特活を導入する方針を維持している。4) ベースラインとエンドライン調査の結果から、一般校の教員は特活に関する十分な研修を受けていないことから特活を実践できていないことが分かったのに対し、特活に関する適切な研修を受けたEJSの教員は、特活を実践するレベルが高いことが明らかになっている。このことから、一般校の教員も適切な研修を受ければ、全人的教育モデルを実践できる可能性が高いと言える。

第1章 プロジェクトの概要

1.1 プロジェクトの背景

エジプト・アラブ共和国（以下「エジプト」という。）政府は、チュニジア革命に触発された2011年のエジプト革命後、暫く混乱が続いたが、2014年1月の新憲法制定、同年6月のエルシーシ大統領選出以降、安定を取り戻しつつある。一方、元々の革命の原因である失業率の高さ（2014年は13.37%）や都市と地方の格差は依然として深刻であり、これらの改善には教育分野を含む広範な分野での対策が必要である。

エジプト政府は「持続可能な開発戦略：エジプトビジョン2030」で「良質な教育の万人への提供」を、また「教育開発戦略2014-2030」で「若年層の全人的育成」を謳い、上記課題への取り組みの重要性を明示している。初等教育純就学率が97.1%（2012、大学前教育戦略2014-2030）と一見良好であるが、15歳以上の識字率は75.8%（2015、世銀）に留まり、男性83.6%、女性68%（2015、世銀）と、男女格差も顕著であり、都市部と地方の地域間格差も大きいと言われている。また、人口増加率は2.1%（2015、世銀）と高く、増え続ける児童を受け入れるために校舎を増築し、学校敷地内の運動場面積が十分に確保できない。さらに、地方は人口密度が低いことに加え、十分な教育行政が整備できていないことから、教育の質は低く、地域間格差を生む原因の1つとなっている。加えて、エジプト国教育の特徴である厳格な進級・卒業試験は、高い失業率（少ない雇用数）と相まって試験熱を加速し、学校での社会性醸成という機会が生かされていない。

かかる背景を受け、2015年1月の安倍首相とエルシーシ大統領との会談で、同大統領より、日本式教育に関する支援の可能性に関心が示され、2015年9月、エジプト政府は日本政府に対し、エジプトにおける日本式の学校（Egyptian Japanese School。以下「EJS」という。）の実現を目的とする「学びの質向上のための環境整備プロジェクト」（以下「本プロジェクト」という。）を要請した。本要請を受け、2015年8月～2016年7月にかけてJICAは「基礎教育分野に係る情報収集・確認調査」を実施の上、詳細計画案を策定し、2016年11月に技術協力プロジェクトにかかる基本合意文書（Record of Discussions：R/D。以下「R/D」という。）が署名され、同R/Dは2020年11月に改訂された。なお、本協力は2016年2月に日本、エジプト両政府が合意した「エジプト・日本教育パートナーシップ（Egypt Japan Education Partnership：EJEP。以下「EJEP」という。）」の枠組みの下で実施された。

1.2 プロジェクト概要

プロジェクト・デザイン・マトリックス（Project Design Matrix、以下「PDM」という。）の最新版（2020年11月版 Ver. 001）に基づく本プロジェクトの概要を表1-1に示す。

表 1-1：本プロジェクトの概要

項目	内容
プロジェクト名称	学びの質向上のための環境整備プロジェクト
実施機関	教育・技術教育省（Ministry of Education and Technical Education。以下「MOETE」という。）
プロジェクト期間	2017年2月～2021年9月

項目	内容
対象者	パイオニア校・新設校・既存校の計約 90 校を管轄する MOETE・ムデイリア・イダーラ関係者、及び学校関係者 (PMU、特活 6 つ、校長、教員)
対象地域	- (パイオニア校) : カイロ県、ギザ県、カリオビア県 - (新設校、既存校) : エジプト全土
上位目標	エジプトの公立学校が、「全人的教育」(特活プラス) モデルを採用する。
プロジェクト目標	選定された学校で「全人的教育」(特活プラス) モデルが活用される。
期待される成果 1	「全人的教育 (特活プラス)」モデル導入・普及のためのガイドライン文書・教材が開発される
期待される成果 2	「全人的教育 (特活プラス)」モデルを実践する行政官、校長、教員が育成される。
期待される成果 3	全人的教育 (特活プラス) モデルを新設校から既存校に普及するシステムが、試行される。
期待される成果 4	「特活プラスの研修・認証システム (以下、TTCS) のパイロットプロジェクトの実施をとおして得られた教訓や提案をまとめ、TTCS プロポーザルが作成される。

1.3 PDM の改定

本プロジェクトの初版 PDM (2016 年 11 月版 Ver.000) は、2020 年 11 月に改定が行われた。主な改定内容を以下の表に示す。

表 1-2 : 本プロジェクトの PDM の改定

	初版	第 1 回改定版
Version	Version 000	Version 001
署名日	2016 年 11 月 1 日	2020 年 11 月 9 日
協力期間	2017 年 2 月～2021 年 1 月	2017 年 2 月～2021 年 9 月
対象者	MOETE 担当者、パイロット校とターゲット校を担当するイダーラの担当者、パイオニア校 12 校、ターゲット校 200 校	<u>パイオニア校・新設校・既存校の計約 90 校を管轄する MOETE・ムデイリア・イダーラ関係者、及び学校関係者 (プロジェクト・マネジメント・ユニット、特活オフィサー、校長、教員)</u>
対象地域	- パイロット校 : カイロ県、ギザ県、カリオビア県 - 対象校 : 調整中	- <u>パイオニア校</u> : カイロ県、ギザ県、カリオビア県 - <u>新設校、既存校</u> : エジプト全土
成果 4		<u>「特活プラスの研修・認証システム (以下、TTCS) のパイロットプロジェクトの実施をとおして得られた教訓や提案をまとめ、TTCS プロポーザルが作成される。」</u>
成果 1 の活動	1-1. プロジェクト活動の詳細、成果指標を決定し、特活プラスを実践する EJS のコンセプトを策定する。	1-1. プロジェクト活動の詳細、成果指標を決定し、特活プラスを実践する EJS のコンセプトを策定する。 1-2. エジプトでの「全人的教育」

	初版	第1回改定版
	<p>1-2. エジプトの「全人的教育」(特活プラス)実践の基準及び成果測定ツールを開発する。</p> <p>1-3. 「全人的教育」(特活プラス)導入ガイドライン及び研修教材を開発・改定する</p> <p>1-4. 「全人的教育」(特活プラス)実践にかかる追加資料・教材を開発する。</p> <p>1-5. 「全人的教育」(特活プラス)実践の方針を踏まえた学校施設・機材等の標準仕様を開発する。</p> <p>1-6. 「全人的教育」(特活プラス)モデル普及ガイドラインを開発・改定する。</p>	<p>(特活プラス)実践の基準及び成果測定ツールを開発する。</p> <p>1-3. 「全人的教育」(特活プラス)導入ガイドライン及び研修教材を開発・改定する。</p> <p><u>1-3-2. 国の新カリキュラム研修内の「Tokkatsu」の研修教材を開発する</u></p> <p>1-4. <u>補足的な指導・学習教材を開発する。</u></p> <p>1-5. 「全人的教育」(特活プラス)実践の方針を踏まえた学校施設・機材等の標準仕様を開発する。</p> <p>1-6. <u>「全人的教育」(特活プラス)モデル展開の普及戦略を開発する。</u></p>
成果2の活動	<p>2-1. ベースライン調査を実施する。</p> <p>2-2. パイロット校を対象にした研修・ワークショップを実施する。</p> <p>2-3. 教育・技術教育省行政官に対する研修・ワークショップを実施する。</p> <p>2-4. パイロット校で、「全人的教育」(特活プラス)に基づく授業・活動を実施する。</p> <p>2-5. エンドライン調査を実施する。</p>	<p>2-1. ベースライン調査を実施する。</p> <p>2-2. <u>パイロット校と新設校</u>を対象にした研修・ワークショップを実施する。</p> <p>2-3. 教育・技術教育省行政官に対する研修・ワークショップを実施する。</p> <p>2-4. <u>パイロット校と新設校</u>で、「全人的教育」(特活プラス)に基づく授業・活動を実施する</p> <p>2-5. エンドライン調査を実施する。</p>
成果3の活動	<p>3-1. モデル実践校を所轄する県教育局(Mudirriahs)¹及び教育・技術教育省地区事務所(Idara)²職員に対する研修・ワークショップを実施する。</p> <p>3-2. モデル実践校の校長及び教員に対する研修・ワークショップを実施する。</p> <p>3-3. 選定されたモデル実践校におけるベースライン調査を実施する。</p> <p>3-4. モデル実践校で「全人的教育」(特活プラス)モデルに基づく授業・活動を実施する。</p>	<p><u>3-1. 県教育局(Mudirrya、以下ムディリア)及び区事務所(Idara、以下イダーラ)職員(TOs=特活オフィサー)に対する研修・ワークショップを実施する。</u></p> <p><u>3-1-2. 教育・技術教育省職員が、選定された既存校に対し「全人的教育」(特活プラス)を導入する計画を開発する。</u></p> <p><u>3-2. 選定された既存校の校長や教員に対し、研修・ワークショップを実施する。</u></p> <p><u>3-2-2. 選定された既存校のため、新設</u></p>

¹ 「県教育局」のアラビア語での呼称

² 「MOETE 地区事務所」のアラビア語での呼称

	初版	第1回改定版
	3-5. 選定されたモデル実践校でエンドライン調査を実施する。 3-6. 国内及び広域セミナーを開催する。	<u>校で、経験共有セッションが実施される。</u> 3-3. <u>ベースライン調査を実施する。</u> 3-4. <u>既存校で、「全人的教育」(特活プラス)の授業や活動を実施する。</u> 3-5. <u>エンドライン調査を実施する。</u> 3-5-2. <u>「全人的教育」(特活プラス)の実施における、教育・技術教育省職員のTORを開発する。</u> 3-6. <u>セミナーを開催する。</u>
成果4の活動		4-1. <u>TTCS パイロットプロジェクトの合同委員会(JC)が組織される。</u> 4-2. <u>ILO が、JC により検討され、承認される。</u> 4-3. <u>研修カリキュラムが、JC により検討され、承認される。</u> 4-4. <u>研修実施者になる条件が、JC により検討され、承認される。</u> 4-5. <u>開発された認証のクライテリアを使い、選定されたTOを評価した結果が、JC により承認される。</u> 4-6. <u>TTCS パイロットプロジェクトの実施をとおして得られた教訓や提案をまとめ、TTCS パイロットプロジェクトの報告書が作成される。</u> 4-7. <u>TTCS を構築するためのプロポーザルを作成する。</u>

出典：R/D（2020年11月9日付）

1.4 受益者

本プロジェクトの介入による、受益者数は以下のとおりとなった。

- 直接的受益者
- TO (77名)
 - パイオニア校 (12校)
 - パイオニア校の児童 (約 5,300名)
 - パイオニア校の教員 (約 120名)
 - 上記の「対象校」は EJS 43校
 - EJS の児童 (約 7,900名)
 - EJS の教員 (約 1,200名)
 - 授業研究ワークショップに参加した EJS 周辺の一般校の教員 (約 500名)

1.5 プロジェクトの投入実績

1.5.1 日本側投入実績

日本側の投入の実績を表に示す。短期専門家の要員配置の実績や機材リストは添付資料1に示す。

表 1-3：日本側投入実績の概要

専門家 専門家総数 16名 (長期：合計 28MM) (短期：合計 215.MM)	<長期専門家> PMU 教育アドバイザー (中島基恵氏、2019年5月26日～2021年9月30日) <短期専門家> - 総括・教育企画1 (加藤徳夫／相馬敬) - 副総括・教育企画2・学校運営3 (瀬戸口暢浩) - 学校運営1・モニタリング3 (田中清文) - 学校運営2 (南雲達也) - 全人的教育 (特別活動) 1 (杉田洋) - 全人的教育 (特別活動) 2 (齋藤健二) - 教育評価・モニタリング1 (渡辺真美) - 教育評価・モニタリング2 (菊池美帆子、佐藤幸司) - 学校施設・機材 (磯野哲郎) - 幼児教育 (関根令子) - 研修計画1 (都甲貴廣) - 業務調整／研修計画2 (鈴木加奈子／北林真弓／大橋由紀) - 研修計画3 (高木宏美) - 教育政策・普及 (北館尚子) - 業務調整／研修計画4 (岸本紗希)
プロジェクト・ナショナルスタッフ	- プロジェクト・コーディネーター - プログラム・オフィサー (ガイドライン作成／研修／モニタリング) - プログラム・オフィサー (幼児教育) - 通訳・翻訳者 (英語-アラビア語) / 調査アシスタント - 通訳・翻訳者 (英語・アラビア語) / プロジェクトスタッフ (研修) - プロジェクトスタッフ (モニタリング)
機材投入	- ノートパソコン (5台) - オールインワン複合機 (1台) - デュプリケーター (1台) - 同時通訳セット (1)
その他	- MOETE 大臣訪日団 (大臣1名、アドバイザー4名、計5名) - エジプト日本教育パートナーシップ人材育成事業 (EJEP-HRDP) 研修プログラムへの参加および見学 (3名)

	<ul style="list-style-type: none"> - 本邦研修（PMU2名、マスタートレーナー／特活オフィサー（Tokkatsu Officer：TO。以下「TO」という。）³54名）、カリキュラム・教材開発センター（Center for Curriculum and Instructional Materials Development：CCIMD。以下「CCIMD」という。）2名、教育部2名、計60名） - TOの出張手当（一部の期間）⁴ - 長期専門家在外事業強化費：500万円 - コンサルタント契約一般業務費：8,300万円
--	---

出典：モニタリングシート

1.5.2 エジプト側投入実績

エジプト側からの投入は次表に示すとおり。

表 1-4：エジプト側投入の概要

MOETE アドバイザー・PMU スタッフ	<p><EJS プロジェクト アドバイザー／スーパーバイザー></p> <ul style="list-style-type: none"> - EJS プロジェクト担当大臣補佐官 - 大臣補佐官（国家プロジェクト担当）兼 EJS プロジェクトスーパーバイザー - 財務・総務担当大臣補佐官 - 戦略問題担当大臣補佐官 - 大臣顧問 <p><PMU></p> <ul style="list-style-type: none"> - 次長代理 - PMU ディレクター - 研修担当 - IT オフィサー - 計画担当 - フォローアップ・活動担当 - 小学校担当 - 幼稚園担当 - 事務担当 - 財務担当 - 特活関連研修・フォローアップ担当 - 教育フォローアップ担当 - フォローアップ・モニタリング担当 - 特活チームリーダー - 特活専門家1 - 特活専門家2 - 特活専門家3 - 財務・事務担当
-----------------------	--

³ 第1期研修生の本邦渡航当初は「マスタートレーナー」と称していたが、2018/19 学校年度に「特活オフィサー（Tokkatsu Officer：TO）」に改称。本報告書では、特段の理由がない限り、「マスタートレーナー」ではなく「特活オフィサー」またはその略称の「TO」を使用する。

⁴ コンサルタント契約一般業務費で支出

	<ul style="list-style-type: none">- ファイナンシャル・コントローラー- 法務担当- 用務- 通訳
TO	約 60 名
プロジェクト事務所	<ul style="list-style-type: none">- MOETE 本省内 2 部屋 (2017 年 2 月～2021 年 4 月)- Hadaek El Quobba の事務所内 2 部屋 (2021 年 5 月～現在)- プロジェクト事務所の設備・什器
設備	<ul style="list-style-type: none">- 水道代、電気代、インターネット代、メンテナンス代など
その他	<ul style="list-style-type: none">- 研修プログラムの運営費- EJS の建設費と運営費

出典：モニタリングシート

第2章 プロジェクトの活動実績

2.1 活動実施スケジュール（実績）

本プロジェクトの活動実施スケジュールの実績を添付資料6に示す。

2.2 活動内容

2.2.1 成果1 「全人的教育（特活プラス）」モデル導入・普及のためのガイドライン文書・教材が開発される

活動 1-1. プロジェクト活動の詳細、成果指標を決定し、特活プラスを実践する EJS のコンセプトを策定する。

EJS のコンセプトに関して PMU と協議し、合意した内容を含むプロジェクト文書を MOETE・JICA 合同委員会（Executive Committee 1：EC1。以下「EC1」という。）に提出し、2017年6月に承認された。承認された EJS のキーコンセプトを次図および表に示す。

表 2-1：EJS のキーコンセプト

項目	概要
基本哲学	全人的教育
主な取り組み	1. 特活（小学校段階） 2. 遊びを通じた学び（幼稚園段階） 3. 日本式学校運営 上記3点に加え、日本の学校で一般的に見られる学校文化や慣習のうち、エジプトで適用可能なものを「全人的教育モデル（特活プラス）」と称する。
カリキュラム	エジプトの標準カリキュラムに特活などの日本式教育の特徴を追加する。
対象校	全人的教育モデルの実証校として新設する学校（100校） 一般校への普及の実証をするための既存校（100校）
将来的な普及対象校	エジプトの私立学校 エジプトの既存校以外の全ての一般校
開発フェーズ	～2021年： 小学校段階における全人的教育モデルの開発 対象校（全212校）への同モデルの展開 ～2030年： スケールアップの段階

出典：EC1 提出プロジェクト文書

2018/19 学校年度から始まった新カリキュラム導入（EDU2.0）の準備過程において、本プロジェクトでは PMU とともに、MOETE 大臣の EDU2.0 担当の特別顧問や、新しいカリキュラム開発を行っていた CCIMD との一連の協議を行った。この準備過程に当たる 2018年2月に、MOETE 大臣および特別顧問が日本へ招聘され、日本の学校での特活の実践状況を視察する機会があった。その結果、2018/19 学校年度から小学校1年生のカリキュラムに「ミニ特活」が導入されることとなった。具体的には、週に45分の特活の授業時間が確保

され、①学級会、②学級指導、さらに③日直といった3つの活動が小学校低学年の新カリキュラムの時間割の中に導入された。

この3つの活動は、準備段階では「ミニ特活」という愛称で呼ばれていたが、公式に時間割に導入するにあたり、「Tokkatsu」という教科名が使われることとなった。加えて、CCIMDと協力し、小学校低学年用の特活のカリキュラムフレームワークと児童の評価フレームワークを策定した。EDU2.0は、2018/19学校年度に幼稚園年中（以下「KG1」という。）、年長（以下「KG2」という。）、及び小学校1年生の3学年で開始され、特活は小学校1年生のカリキュラムに導入された。EDU2.0の導入は1年ごとに対象学年を1学年ずつ拡大していき、2019/20学校年度には小学校2年生、2020/21学校年度には小学校3年生に導入された。

日/時間	8:00-8:45	8:45-9:30	9:30-10:15	10:15-11:00	11:00-11:30	11:30-12:15	12:15-13:00	13:00-13:45	13:45-14:30
日曜日	総合学習としてのアラビア語	英語		休み時間	総合学習としての算数	総合学習			
月曜日	総合学習としての算数	総合学習		休み時間	総合学習としてのアラビア語	体育			
火曜日	総合学習としてのアラビア語	総合学習としての算数		休み時間	英語	総合学習としてのアラビア語			
水曜日	総合学習	特活	総合学習	休み時間	総合学習としてのアラビア語	総合学習			
木曜日	宗教	総合学習としてのアラビア語		休み時間	総合学習	総合学習としての算数			

出典：MOETE

図 2-1：EDU2.0の時間割（小学校1-3年生）

「ミニ特活」、「特活プラス」と称される特活の主な内容は以下のとおり。

表 2-2：「ミニ特活」および「特活プラス」の活動内容

日本	ミニ特活	特活プラス
学級活動 (1) 学級や学校における生活づくりへの参画 (2) 日常の生活や学習への適応と自己の成長及び健康安全 (3) 一人一人のキャリア形成と自己実現	学級会 学級指導 日直	学級会（小学校） 学級指導（小学校） 清掃 日直 朝の会・帰りの会 課題設定
児童会活動		小学校高学年で検討
クラブ活動		活動のメリット・デメリットを慎重に検証
学校行事		体育祭（JICA ボランティアにより開催、ただしコロナの影響により教材化はしていない。）
その他		少人数算数習、朝自習、お便り帳、遊びを通じた学び（幼稚園）、砂場遊び（幼稚園）、自由遊びと計画的遊び（幼稚園）、教員会議、校務分掌、行内研修（授業研究）、翌日の授業準備、保護者の参画、廊下右側通行、上履き、下履き制、昼食を学級全員で食べる、手洗い、歯磨き、学校内菜園、動物飼育、遠足、身長・体重測定、健康診断、環境教育（JICA ボランティア）、その他

2015年の本プロジェクトの設計段階では、特活をはじめとする日本式教育モデルの試行（特活プラス）は、一般校で行われることが想定されていたが、その後、同モデルを実践するために特別な学校（EJS）を設立する案がエジプト側から提案されたことから、2017年に本プロジェクトが開始された直後に作成された業務計画書では、一般校（100校）に加えてEJS（100校）も対象とすることに変更された。

さらに、MOETEは本プロジェクトに先立つ2016年に、プレ・パイロット校（2校）だけでなく、追加のパイロット校（10校）も同モデル導入対象校として独自に活動を開始していたことから、プロジェクト・ドキュメントには、時系列でプレ・パイロット校、パイロット校、EJS、既存校という複数のタイプの学校が示され、それぞれ2校、10校、100校、100校、合計で212校が導入対象校として予定された。しかし結果的に、エジプト政府の強い意向によりEJSにおける介入を優先させることになったこと、また2020年初めに新型コロナウイルスがエジプトで流行し、既存校100校への導入開始が困難となったことにより、本プロジェクト期間中に介入が可能であった対象校は55校（プレ・パイロット校2校、パイロット校10校、EJS43校）に留まることとなった。

2018年にMOETEがEDU2.0の導入を開始し、特活が新カリキュラムの中に公式に取り入れられることになるにあたり、PMUはプレ・パイロット校とパイロット校は、既に特活の試験的実践を終えたこととし、「パイオニア校」と改称することを決定した⁵。それ以降、これらの学校に対する本プロジェクトの介入は非常に限定的となっている。

本プロジェクトでは当初、パイオニア校の研修として、本プロジェクト専門家がTO（当初のマスタートレーナー）を研修し、TOが学校の代表者に対して研修を行い、同代表者が学内で研修するというカスケードモデルを採用していたが、2018年にEJSが新設される際に、PMUは同カスケードモデルを継続せず、特活プラスへの理解の質を確保するため、EJSにて新たに採用された教員は全員、ムバラク・エデュケーション・シティの研修センターにて、本プロジェクト専門家とTOによる研修を直接受講させることを決定した。

本プロジェクトでは、プロジェクトの初期段階より、TOによる授業研究を活用した学校ベースの継続的な能力開発を推進している。

活動 1-2. エジプトでの「全人的教育」（特活プラス）実践の基準及び成果測定ツールを開発する。

(1) 標準評価ツールとしてのルーブリック

EJSにおける特活プラスの実践状況を評価するために、標準化したモニタリングツールを本プロジェクトで開発した。同ツールは「ルーブリック」と称され、2017/18学校年度にパイオニア校で試行されたのち、2018年9月からEJSでのモニタリングに適用された。このルーブリックは、1) 学級会、2) 教員による学級指導、3) その他特活、4) 幼稚園での

⁵ 本報告書では、「プレ・パイロット校」、「パイロット校」と記載する特段の理由がない限り、「パイオニア校」の呼称を使用する。

活動、の4項目から構成される⁶。これらのルーブリックは、活動の進捗状況进行评估し、TOが各EJSでの特活の実践の改善方法を見出すことを目的としている。

小学校レベルのルーブリックでは、5つのステップ（導入初期レベルのステップ1から最高レベルのステップ5まで）が設定されており、幼稚園レベルのルーブリックは、4つのステップ（導入初期レベルのステップ1から最高レベルのステップ4）が設定されている。

TOは、学校でのモニタリングの際、各モニタリング項目の「ステップ1」に記載されたレベルから確認を始め、ルーブリックのステップ1の状態を達成していることを確認にしたのちに次のステップに記載されたレベルの確認に移ることになっている。例えば、ステップ4に記載されたレベルの状態に達していないと判断される場合は、TOはその項目の評価を「ステップ3」のレベルであると判断する。

ルーブリックへの記載項目は次表に示すとおり、30以上の項目があり、各項目に5つのステップがあるため、ルーブリック全体では150以上の項目が含まれていることになる。EDU.2.0担当指導主事は、全国の一般校で特活のモニタリング業務に従事することが期待されているが、同指導主事には、本来業務である低学年向けの「Discover」⁷のモニタリング業務もあり、EJSの数と比較しても著しく数の多い全国の学校への普及を考えると、150項目の評価はEDU.2.0担当指導主事にとって負荷が大きすぎると考えられ、今後、項目やステップの数を減らす検討が必要である。

表 2-3：ルーブリックの項目とステップ5の記述例

ルーブリック項目	ステップ5の状態
1) 学級会	
学級会の目的	学級会は、児童が学級生活をより良いものにするための役割を果たす姿勢を身に付けるために行われている。
議題の決定	適切な議題を、事前に児童が教員の助言と指導を受けて選んでいる。
教員のファシリテーション	教員は、学級会の話し合いを通して児童に習得してほしいスキルについて明確なビジョンを持っている。
合意形成のための児童の興味とコミュニケーション・スキル	児童は、自分の個人的な意見を主張することなく、クラス全体にとって何が最善かを考えて、自分の意見を表明することができる。
合意形成のために他の人の意見に耳を傾ける児童の能力	児童たちは他の児童の考えを聞き、自分の意見の長所と短所について考え、クラス全体にとって何が最善かを考えている。
合意形成の方法	児童は皆から最善の意見を集め、多数決によらずに合意形成を通じて決定に達している。
決定と実行計画	児童たちは現実的な意思決定を行い、それを実現する方法と役割分担について合意し、進んで取り組んでいる。
合意したことの実践	合意の実施は、学級会での決定に応じて、児童自身によってのみ実現されている。

⁶ 幼稚園の活動のルーブリックに先立ち、「遊びを通じた学び」活動の実践状況を確認するために、17項目のチェックリストを作成した。チェックリストの項目はルーブリックに組み込まれた。

⁷ EDU.2.0に基づく新カリキュラムとして、小学校低学年の段階に導入された教科横断的な総合学習。活動1-3-2で後述。

ループリック項目	ステップ5の状態
振り返り	ステップ4に加えて、児童が自分の活動成果を確認できるように、児童が実施した活動に関する写真やコメントを教室の壁に掲示している。
2) 教員による学級指導	
教員による学級指導の目的	児童が日常生活の改善目標を自分で設定し、取り組むことを目的に学級指導が行われている。
テーマ決定	教員は、年次計画に基づいた適切なテーマを選択して学級指導を行っている。また、教員は児童のニーズや状況に応じて適切なテーマを選択している。
教員のファシリテーション	教員は、学級指導の授業目標を明確に持っており、適切に進めている。
意思決定したことのその実践	教員は、児童一人ひとりが自分の目標に向かって努力できるように、励ましやアドバイスをしている。
3) その他特活	
日直	児童たちは良いフォロワーシップを示し、日直をサポートしている。
清掃	教員や児童は学校に愛着を感じ、自分たち自身で学校を片付け、学校の施設を大切に使用し、道具を清潔に保とうという意識を持っている。清掃活動は、その意義を理解した上で自立的に実行されている。
朝自習	児童は、教員の監督なしに自立的に自習を行っている。
学校を継続的に改善する能力	学校は、すべての関係者（校長、教員、保護者、地域社会の代表者）が参加する、毎年の計画-実施-モニタリング-評価（PDCA）のサイクルを実施することにより、継続的に改善する能力を有している。
教員の知識とスキルを向上させる能力	研修の成果は教員と児童の両方に対して測定され、研修の成果は教員と児童のパフォーマンスに反映されている。
保護者と地域社会との相互に有益な関係を発展させる能力	地域社会と学校の協力が進み、学校は、学校の図書館を地域社会に開放したり、児童が学校で学んだことを分かち合ったりするなど、様々な形で地域社会に貢献している。
学級経営におけるEJS教員基準の5つの領域の定期的なモニタリング	校長/副校長による「学級経営に関するEJS教員基準」の5つの領域を定期的にモニタリングした結果が全学級に関して記録され、学級経営の改善状況を記録から見るができる。
学級担任の教員による学級経営	教員は、すべての児童がそれぞれの個性と特徴を活かして貢献できる機会やグループを作っている。
特活に対する校長の理解とリーダーシップ	校長は、特活の各活動の教育的意義を理解し、全ての教員との連携を通じて、児童中心の教育を実施している。
4) 幼稚園	
朝の会	教員は児童たちがその日の概要を理解するために朝の会を計画している。
帰りの会	帰りの会では、教員はその日の振り返りを行うために児童をサポートしている。
安全で快適な教室環境	児童の活動に合わせて机や椅子を配置し、教室は安全と動きやすさを考慮して配置されている。
外遊びや砂場の使用	児童の自由遊びに加えて、児童が園庭を利用して決まりに従い、協力する必要がある遊びを紹介している。

ルーブリック項目	ステップ5の状態
お当番	児童はお当番の役割を理解し、進んで順番にタスクを満たすことを楽しんでいる。
片付けと清掃	児童は、使用後に道具を元に戻したり、ゴミ箱にゴミを入れたり、注意して道具を使ったりすることに慣れている。
補助教員の役割	補助教員は、その日の活動について担任の教員と話し合い、明確な役割を持ち、児童たちと交流している。
おたより帳の利用	おたより帳は、教員と保護者の間で共通のツールとして使用され、児童の様子や心理的・身体的な状態などの情報を共有して児童を見守っている。
遊びを通じた学び	教員は、遊びの中に児童に必要な学びが組み込めるよう自由遊びを開発している。
子どもの存在を尊重する	教員は児童に注意を向け、児童が理解したり質問をしたりするのが簡単な例を挙げ、児童自身が問題を考えたり解決したりする能力を引き出そうとしている。

(2) ルーブリックに基づくモニタリング

TOがルーブリックを十分に理解し、学校のモニタリングに活用できるよう、モニタリング・マニュアルを作成した。また、毎年 TO を対象とした研修を実施し、フィードバックと振り返りのセッションを行い、TOは評価ツール「ルーブリック」を使用して学校のモニタリングを行うことができるようになった。

特活のモニタリングは、以下の目的を有する。

- 各学校での特活の実践の進捗状況や質を把握する
- 特活の質の向上と、特活を実践のための教員と児童のスキルの向上を図る
- 学校、イダラ、ムディリヤ、TO、PMU が各学校での特活の進捗状況を把握できるようにモニタリング結果を蓄積する
- 各学校の特活を向上させるためのさらなる支援の必要性を理解する

TOはモニタリング終了後、3)で示すとおり、校長、教員、児童がルーブリックのステップに基づいて活動を改善する方法のアドバイスを行う。このように、モニタリングは現状を把握するだけでなく、各校の特活の実践を改善するためのフィードバックやアドバイスも行うこととなっている。

PMUは、EJSを持つ各県毎に数名のTOを配置しており、各県のEJSの数は、1校から3校まで様々である。これまでほとんどのTOは、TOとしての責任に加えて従来の職務も遂行しなければならないという二重の職務を負っていたことから、新型コロナウイルス流行前の2019年10月から2020年1月の間、TOのEJSへの平均訪問回数は、1学期あたり5.9回、最も多い回数は12回で、最低回数は1回であった。コロナ禍で学校が閉鎖されている間、TOは状況に応じてオンラインまたは学校における対面で教員研修プログラムを提供した。

(3) 学校でのフィードバック・セッション

学校でのモニタリング終了後、TOはフィードバック・セッションを開催し、ループリックに基づき各活動項目がどのステップの段顔にいるかなどを、校長と教員にモニタリングの結果とともに共有し、評価理由を説明するほか、各活動を次のループリックのステップに改善するための提案やアドバイスを行ってきた。

TOが実施するフィードバック・セッションの焦点は以下に示すとおりである。

- 学校での特活の実践および幼稚園における遊びを通じた学びの実践における主要な課題に焦点を当てる
- ループリックに基づいた具体的な例を示すことで、校長や教員が何をすべきか、何を変えるべきかを正確に理解してもらう
- 校長や教員たちと対話をしながら、自主的に対策を考えてもらう

後述の報告システムで得られた約 350 件のデータによると、TOが1回のフィードバック・セッションに費やした平均時間は32分であった。TOは、モニタリング研修において、学校を訪問してモニタリングを行う際には、少なくとも30分間のフィードバックを行うように指導されており、フィードバック・セッションの達成目標は、量的な面では達成されているといえる。コロナ禍により、TOがモニタリングとフィードバック・セッションを実施する際に、PMUメンバー、本プロジェクト専門家、TTCS合同委員会⁸の日本人専門家が学校を訪問することができなかったことにより、質の面での情報収集は十分ではない可能性がある。

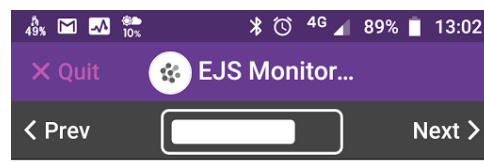
(4) モニタリング結果の報告

本プロジェクト開始当初、モニタリングの報告書はExcelファイル形式で作成され、電子メールで送信されていたが、のちに、スマートフォン・アプリの1つを使用したツール「Epicollect5」を開発した。モニタリングを行なうたびに、各TOは、モニタリング結果を、すべてのループリックのステップの数値としてEpicollect5を介して入力し、スマートフォン経由でPMUに送信する。TOから送信されたデータは、Epicollect5のデータベースに保存され、そのデータベースを調べることで、PMUは各学校のループリック値を確認することができる。Epicollect5は、すべての学校データを集計し、各活動の平均ループリック値とループリックのステップの分散を確認することも可能である。したがって、PMUは、モ

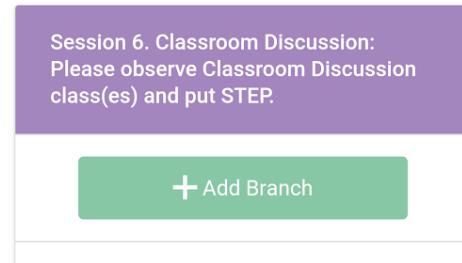
⁸ TTCSパイロットプロジェクトの実施のために設立された、エジプトと日本の専門家で構成された合同委員会。活動4-1で後述。

モニタリングデータに基づいて、学校の現在の状況、および幼稚園を含む学校のニーズを把握し、これに基づき、PMU は将来的なTOのリフレッシュ研修を計画することができる。

現段階では、本プロジェクトチームにてモニタリングデータを抽出して分析し、モニタリング報告書を作成しているが、今後はPMUの研究開発チーム（以下「R&D チーム」という。）がそれを参考に、学校の弱点を改善するための解決策を提案していくことが想定されている。なおR&Dチームは、コロナ禍において、オンラインまたは直接現地でTOに対して研修プログラムを提供した。



EJS Monitoring Sheet



出典：本プロジェクトチーム

図 2-2：Epicollect5 の入力画面

活動 1-3. 「全人的教育」（特活プラス）導入ガイドライン及び研修教材を開発・改定する。

本プロジェクトでは、日本型全人的教育の3大要素である「特活」「幼稚園での遊びを通じた学び」「日本で一般的に行われている学校運営・学級経営」を網羅した「特活プラス導入ガイドライン」を作成した。その後、「特活プラス導入ガイドライン」は内容を編集し、「EDU2.0における特活実施のためのハンドブック」へと発展した。

表 2-4：全人的教育の導入ガイドライン及び関連文書

タイトル	バージョン	学校年度
特活プラス導入ガイドライン	N/A	2017/18
EDU2.0における特活実施のためのハンドブック	N/A	2020/21
EDU2.0における特活に関するリーフレット	N/A	2021/22



出典：本プロジェクトチーム

図 2-3：EDU2.0における特活に関するリーフレット（折り込み式）

MOETE は、EDU2.0 の新カリキュラムにおいて非常に重要な活動として特活を取り上げることを選んだため、おっ、これらの 3 つの文書は教員ガイドの別冊として、それぞれ別巻として分けられた。

教員ガイド（特活プラス）については、対象校での特活導入の発展段階に応じて、2017 年から 2021 年にかけて 5 種類のバージョンが順次作成された。各プロセスでは、まず EJS での使用を想定した教員ガイドが作成され、そこから EDU2.0 カリキュラムに基づき一般校での使用を想定した各部分が抽出され、まとめられた。また必要に応じて、EDU2.0 カリキュラム用の教員ガイドでも補足説明を行った。

第 1 版では、特活の 5 つの主要な活動である「学級会」「学級指導」「日直当番」「朝の会／帰りの会」「清掃」について詳細が説明された。

第 2 版では、「朝自習」を活動として追加し、各活動の説明の分量を減らし簡素化することで、読者が理解しやすいように工夫した。一方、この第 2 版では、45 分間の特活の効果が高めるために、当時の EDU2.0 の小学校 1 年生を対象とした年間計画と各授業のモデル指導案のサンプルを付録として提供した。その後、EDU2.0 の対象学年が上がってからも、年間計画とモデル指導案のサンプルが付録として提供されている。

第 3 版では、「特定課題への活動」「学校行事」「身の回りの健康・衛生」が EJS の特活として追加された。本プロジェクトチームによるドラフト原稿では、同版では数点微修正が加えられていただけであったが、印刷直前に CCIMD によるドラフト原稿への大幅な修正が入った結果、最終的に印刷された教員ガイドに適切でない内容や誤解を招くような表現が含まれていたため、R&D チームと協力し、この第 3 版の不適切な情報を修正した第 3 版改訂版（Version 3-2）を開発した。

第 4 版では、本プロジェクトチームと R&D チームにより、特活と他のテーマや活動との関係について記述する新たなセクションのドラフトを作成中である。2021 年 11 月現在、R&D チーム及び PMU と共同で最終的なレビューが行われている。

表 2-5 : 教員ガイド（特活プラス）

タイトル	版	年度
特活プラス導入ガイドライン（表 2-6 に記載した、導入ガイドラインの一部として本プロジェクト開始直後に作成されたもの）	1	2017/18
EJS のための特活教員ガイド	2	2018/19
EDU2.0 国定カリキュラムに向けた特活教員ガイド	2	2018/19
EJS のための特活教員ガイド	3	2019/20
EDU2.0 国定カリキュラムに向けた特活教員ガイド	3	2019/20
EJS のための特活教員ガイド	3-2	2020/21
EDU2.0 国定カリキュラムに向けた特活教員ガイド	3-2	2020/21

出典：本プロジェクトチーム

幼稚園に関しては、活度事例を幼稚園の箇所でも補強し、別冊として発行した。

表 2-6 : 教員ガイド (幼稚園)

タイトル	バージョン	年
特活プラス導入ガイドライン (表 2-6 に記載した、導入ガイドラインの一部として本プロジェクト開始直後に作成されたもの)	1	2017/18
児童の人格形成のための日本式教育の教員ガイド (幼稚園)	2.15	2018/19
教員ガイド：遊びながら学ぶ幼稚園ライフ	3	2020/21
教員ガイド：遊びながら学ぶ幼稚園ライフ	4	2021/22

出典：本プロジェクトチーム

幼稚園教員ガイドの第 1 版は、パイオニア校の幼稚園の授業の見学に基づき作成した。同学校では、子どもたちが遊ぶ時間や、絵を描いたり工作をする道具が少ないうえ、遊び場が整備されておらず、また教員資格を持っていない教員もいたため、子どもたちの遊びの一般的な理論を説明するためのガイドになっており、活動事例のサンプルは多く掲載していない。

2.15 版は、当時新設された EJS の実態を反映したものである。EJS の 4 時間目には、遊びを通じた学びの活動の時間が設けられ、EJS に通う児童のための独立した遊び場が確保され、幼児が遊ぶための休み時間が時間割に組み込まれた。また同校で新しく採用された教員は、原則として全員が資格を保有していたため、幼児教育理論についての説明は最小限にとどめ、朝の会／帰りの会、日直当番、清掃、お弁当、連絡帳など EJS で導入する日本式幼稚園多くの活動・遊びの例の紹介が多く含まれるものを作成した。

第 3 版の開発に向けて、EJS を訪問し研修をする機会が増えたことにより、EJS からの要望を的確に捉えることができ、前バージョンから大幅な修正が加えられた。具体的には、幼児にとって遊びがなぜ重要なのか、幼児の遊びの時間への教員の対応などの説明が追加された。また、日本で行われている集団行動や個人行動の例を紹介した。なお、同開発段階においては、活動中に男児と女児が近づきすぎないようにするなどの配慮がなされた。

第 4 版の作成にあたっては、PMU や R&D チームからのインプットを増やし、よりエジプトでの運用がしやすくなるように改訂した。また、PMU は、EJS の日常生活に根付きつつある日本式の幼稚園の実践をさらに向上させることを希望し、幼児の「遊びを通じた学び」だけでなく、日本の幼稚園全般を紹介したいとの意見に応じ、園内研修や幼稚園での行事に関する情報も本改訂時に追加された。

今後、幼児向けの遊びだけでなく、日本の幼稚園で一般的に行われているその他の教育方法（例：社会教育学的教育や全人的教育）を紹介する必要もあると考えられる。また、幼稚園教諭の資格を持つ教員であっても、非認知能力開発に関する知識はまだ限られており、この点についても今後の強化が必要である。

表 2-7 : 学校運営マニュアル

タイトル	バージョン	作成年
特活プラス導入ガイドライン（表 2-6 に記載した、導入ガイドラインの一部として本プロジェクト開始直後に作成されたもの）	N/A	2017/18
新設 EJS の学校運営マニュアル	1	2018/19
新設 EJS の学校運営マニュアル	2	2019/20
日本式教育のための学校運営・学級経営ガイド	3	2020/21

出典：本プロジェクトチーム

学校運営マニュアルは当初、パイオニア校での特活の導入経験に基づき開発されたが、本プロジェクト専門家がこれらの学校を訪問し、授業を観察したところ、多くのパイオニア校で、日本式教育や、特活の基本である児童中心の教育概念を理解せずに、形式だけ特活を模倣して実施している様子がうかがえた。また、多くのパイオニア校において、他の教員との相談や協力なしに校長だけが学校運営の課題を決定していると感じられたため、EJS の校長に児童中心の教育の重要性に関する理解を促し、全教員との協力的な学校運営を確立するために、学校運営ガイドの第 1 版が開発された。

第 2 版では、様々な学校計画の例を日本の学校からエジプトの学校に置き換えて更新した。

第 3 版は、教員がより児童中心の授業を行うための実践方法である「学級経営」の章が追加されたことから、「学校運営・学級経営ガイド」と改名し、EJS だけでなく、一般校でも使用できるように若干の改訂を行った。

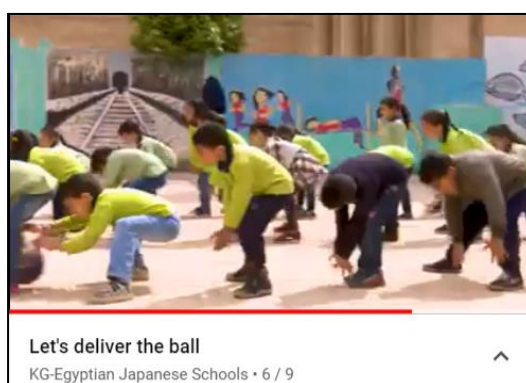
第 4 版は、PMU の R&D チームが総合的に検討し、PMU 主導で更新した最初のガイドであり、学級担任についての新しいセッションも追加されている。担任の役割と責任を明確にすることで、児童一人ひとりの人格形成や児童間の人間関係の面で、担任が学級の児童に対して責任を感じることを期待される。総合学習を教える教員は、他の教科や活動を担当する教員が教科ごとにクラスを移動するものと異なり、勤務時間のほとんどを 1 つのクラスで過ごすことになるため、この学級担任制の文化が将来的に EJS から他校の小学校低学年で総合学習を教える教員、ひいてはその他の教科の教員にも受け継がれることが期待される。

表 2-8 : 研修教材

タイトル	種類	使用目的
小学校での特活－日本での事例	ビデオ	日本の学校で特活の様々な活動を実際に行っている様子を撮影した 19 分の短編動画。同ビデオは本プロジェクトチームの TO 研修で初めて使用された。現在は、毎年 EJS の教員を研修している TO の手に渡っている。
遊びながら学ぶ幼稚園－エジプトでの事例	ビデオ	パイオニア校で撮影された 9 分の短編動画。同ビデオは本プロジェクトチームの TO 研修で初めて使用された。現在は、PMU の公式 YouTube チャンネルで公開され、TO の EJS 教員研修に使用されている。

タイトル	種類	使用目的
EJS（小学校）の一日	ビデオ	早朝に教員が到着してから退社するまでの EJS の 1 日を紹介している 9 分の短編動画。同ビデオは、新しく採用された EJS の教員が EJS での一日を理解するのに適したものとなっている。現在は、PMU の公式 YouTube チャンネルで公開されており、43,000 回以上再生されている。
EJS（幼稚園）の一日	ビデオ	同上
EJS の普及	ビデオ	PMU が MOETE の公式 Facebook アカウントで、一般の人々に子供を EJS に通わせることを促すために使用した、上記 2 つのビデオの短縮版。

出典：本プロジェクトチーム



出典：PMU

図 2-4：動画（遊びを通じて学ぶ幼稚園）

活動 1-3-2. 国の新カリキュラム研修内の「Tokkatsu」の研修教材を開発する。

MOETE は、EDU2.0 に基づく新カリキュラムとして、小学校低学年の段階では「Discover」と呼ばれる教科横断的な総合学習を導入することとし、EDU2.0 導入を開始した年（2018/19 学校年度）に、KG1、KG2、及び小学校 1 年生の教員向けにこの「Discover」に関する全国カリキュラム研修を実施したが、この研修プログラム中、特活に関する内容は短いビデオ視聴のみに留まっていた。

これを受け、教員が特活についてより理解を深めるため、PMU はコア TO⁹と本プロジェクト専門家と協力し、全国カリキュラム研修プログラムの特活に関する部分を強化するための特活研修パッケージを開発した。3 時間半のプログラムがパワーポイント形式で作成され、研修資料とともに提供された。その後、PMU は教員専門アカデミー（以下「PAT」という。）との複数回の協議を経て、全国の教員養成プログラムでこの特活研修パッケージを活用するための認証を得る手順を確認していたが、EDU2.0 の全国カリキュラム研修は PAT ではなく、総合学習教育の現地法人が担当していることが明らかになった。現地法人が行う全国カリキュラム研修プログラムでは、本稿執筆時点までに特活研修パッケージは使用されていない。

⁹ 経験を積んだ TO のうち、特に優秀な TO に対して PMU が用いるようになった呼称。活動 2-2 で後述。

表 2-9 : EDU2.0 の全国カリキュラム研修における特活研修パッケージ案

時間	セッション タイトル	タイプ	利用可能なリソース
25分	1. 特活の理念	講義	<ul style="list-style-type: none"> 教員ガイド（特活プラス）の第1章、第2章、第3章 要点を解説したパワーポイント資料
20分	2. 日直	講義&ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> 教員ガイド（特活プラス）第4章の第3節 要点を解説したパワーポイント資料 映像素材（https://youtu.be/m_RtKoxBIJ8）
30分	3. 学級会（講義）	講義&ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> 教員ガイド（特活プラス）第4章の第1節 要点を解説したパワーポイント資料 映像素材（https://youtu.be/4VJJb8xvdEM）
25分	3. 学級会（実践）	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 同上
10分	休憩		
30分	4. 学級指導（講義）	講義&ビデオ	<ul style="list-style-type: none"> 教員ガイド（特活プラス）第4章の第1節 要点を解説したパワーポイント資料 映像素材（https://youtu.be/90ILN3AP11c）
25分	4. 学級指導（実践）	グループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 同上
20分	5. 健康・衛生に関する活動	講義	<ul style="list-style-type: none"> 教員ガイド（特活プラス）の第4章第4節 要点を解説したパワーポイント資料 映像素材（https://youtu.be/WeSQ5c0oAls）
20分	ラップアップセッション	ディスカッション	
10分	評価		

出典：PMU



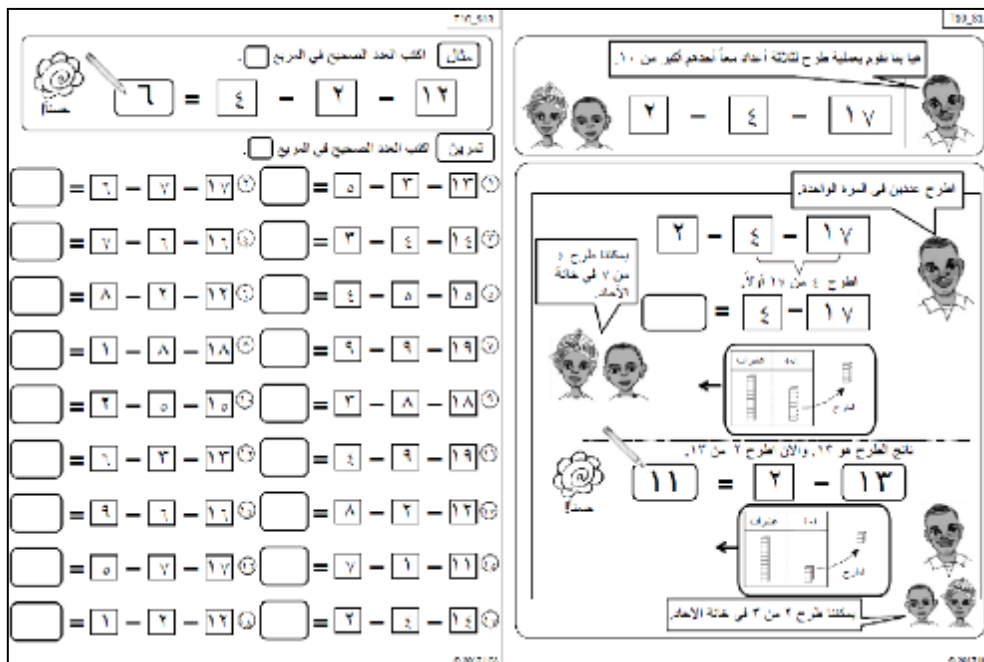
出典：PMU

図 2-5 : 特活研修パッケージ教材の例（ビデオ教材）

活動 1-4. 補足的な指導・学習教材を開発する。

本プロジェクトでは、JICA 本部より、他 JICA プロジェクトで開発された算数ワークシートのデータを入手してアラビア語に翻訳し、MOETE 本省の算数教科審議官と協力して、エジプトの新カリキュラムで使用できるように見直しを行った。

同審議官と合同でワークショップを開催し、パイオニア校と EJS 代表者に教材を紹介した。同教材は、EJS の時間割に設けられている 10 分間の朝自習の時間に使用された。



出典：本プロジェクトチーム

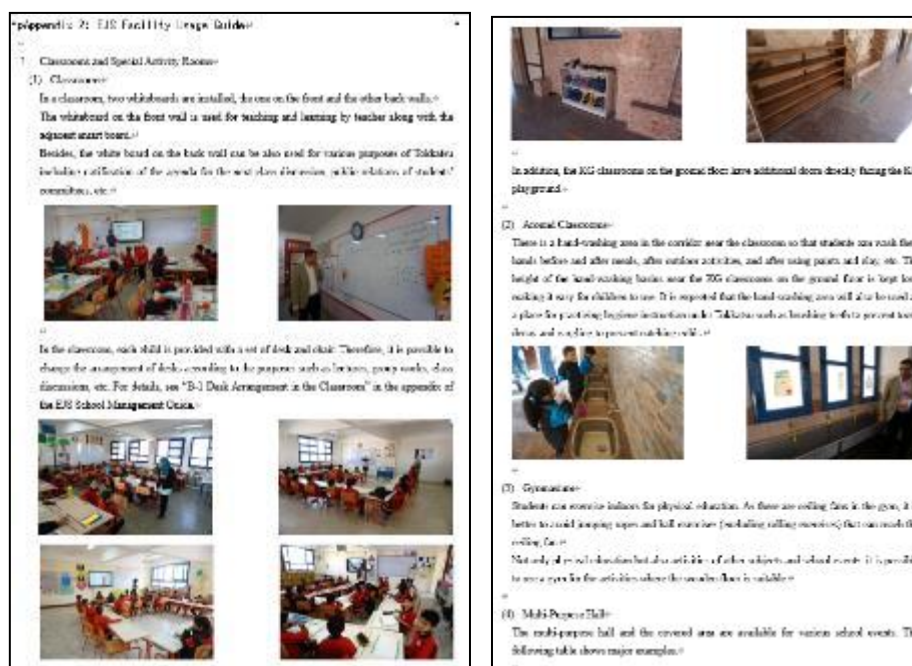
図 2-6：算数ワークシート

活動 1-5. 「全人的教育」（特活プラス）実践の方針を踏まえた学校施設・機材等の標準仕様を開発する。

本プロジェクト開始に先立ち、2016年5月に行われた招聘プログラム「基礎教育における特別活動（特活）に関する本邦スタディ・ツアー」に、MOETE 施設局（以下「GAEB」という。）の職員2名が参加し、GAEBと共同で以下の文書を作成した。詳細は技術協力成果品25から30を参照。

- 新設 EJS100 校のデザイン案
- EJS 標準設計図
- 42 学級・22 学級タイプの校舎 3D イメージ
- 設備・備品リスト

さらに、本プロジェクトチームにて施設や設備の仕様状況を確認するために行った EJS の調査に基づき、優良事例がサンプルケースとして作成され、「EJS の施設利用ガイド」に使用された。このガイドは、「日本式教育のための学校運営・学級経営ガイド」の付属文書の一つとして提供された。



出典：本プロジェクトチーム

図 2-7：EJS 施設利用ガイド

活動 1-6. 「全人的教育」（特活プラス）モデル展開の普及戦略を開発する。

EDU2.0 改革の一環としての、EJS 以外の学校での全人的教育（特活プラス）の実践・普及については、2017 年 11 月 1 日付の初版 PDM で記された「1-6. 特活プラスの実践・普及ガイドラインの開発・改訂」にかかる活動として、本プロジェクトの初期段階より PMU と一連の議論を行ってきた。

主に EJS での全人的教育（特活プラス）の実践を通して本プロジェクト活動から得られた経験や教訓を得ていく中で、PMU でも特活を国内のすべての学校に普及させるための具体的な方策への関心は高まっていた。2020 年 11 月 9 日付で変更 R/D（PDM の改訂を含む）が合意された際、新型コロナウイルスの流行により本プロジェクトの残りの期間に行う予定であった普及活動自体が制限されることを考慮し、同期間を普及戦略の作成に充てる方針に変更された。

この変更を受けて、本プロジェクトは PMU に対して、一般校への全人的教育（特活プラス）の効果的かつ効率的な普及のためのシナリオを提案し、計画案を作成する技術的支援を行った。

普及戦略ワーキングドラフトの第 1 版は、2021 年 9 月に PMU によって承認され、本報告書に技術協力成果品 31 「全人的教育（特活プラス）普及のための戦略」として添付されている。下表は同戦略の概要を示したものである。なお、MOETE は、EDU1.0 から EDU2.0 への移行に関する全国的な普及計画の策定に取り組んでおり、その中で、研修講師、指導主事、教員など、EDU2.0 のすべての主要な担い手について定量的な指標とともに言及される予定である。この計画では、特活は EDU2.0 の科目や活動の主要な構成要素として扱わ

れることが想定されている。そのため、全国的な計画が明らかになった後に、普及戦略ワーキングドラフトの再度見直しを行うことでPMUと合意している。

表 2-10：普及戦略（ワーキングドラフト）の概要

タイムフレーム	普及戦略のタイムフレームは、EDU2.0の全体的な普及計画に従い、2018/19 学校年度から 2029/30 学校年度までとする。
目的	忍耐力、自制心、自己効力感、問題解決能力、帰属意識、合意形成力、協調性などの向上により、児童のライフスキルと人格の総合的かつバランスのとれた発達を支援するために、全人的教育（特活プラス）の実践をすべての小学校と中等学校に普及させる。
対象校 ¹⁰	あらかじめ定められた基準に従い、全人的教育（特活プラス）を実践する学校数の目標は、小学校では 2027 年末までに 5,000 校、2030 年末までに 8,000 校、予備校では 2027 年末までに 200 校、2030 年末までに 800 校とする。
成果 ¹¹	1. PMU 内に全人的教育（特活プラス）の全国的な実践を管理する人材を育成する。 2. 全人的教育（特活プラス）実施に必要なカリキュラム、教員ガイド、その他の教材の充実・拡大する。 3. 学校レベルで全人的教育（特活プラス）を実践する人材を育成する。

出典：本プロジェクトチーム



出典：本プロジェクトチーム

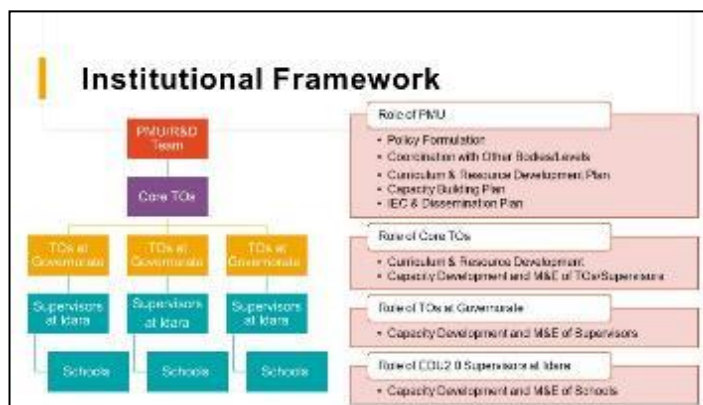


図 2-8：全国的な普及のための戦略

¹⁰ これらの数値は暫定値であり、EDU2.0の全国的な普及計画の策定後に見直しを行うことが合意されている。

¹¹ 本プロジェクトの後継プロジェクトのPDMと同じ構成となっている。

2.2.2 成果2 「全人的教育（特活プラス）」モデルを実践する行政官、校長、教員が育成される。

活動 2-1. ベースライン調査を実施する。

活動 2-5. エンドライン調査を実施する。

(1) 効果測定調査の枠組み

PDM には、本プロジェクトの目標を「選定されたモデル実践校で「全人的教育（特活プラス）」モデルが実施される。」と明記されているが、全人的教育（特活プラス）の最終目標は、導入・実践をするだけでなく、児童が認知・非認知スキルを身につけることであり、各学校で実施される特活プラスの活動が、実際に児童に期待される変化をもたらす活動である必要がある。よって、特活プラスの活動の成果に関する評価は非常に重要となる。

本プロジェクトでは、PMU と共同で、特活プラスによって育成されることが期待される7つの非認知スキルを設定した。下表は、7つの非認知スキルの指標と、それに対応する児童の能力、そして本プロジェクトが設定した特活プラスの活動を示している。

表 2-11 : 特活プラスの実践によって育成が期待される児童の非認知能力

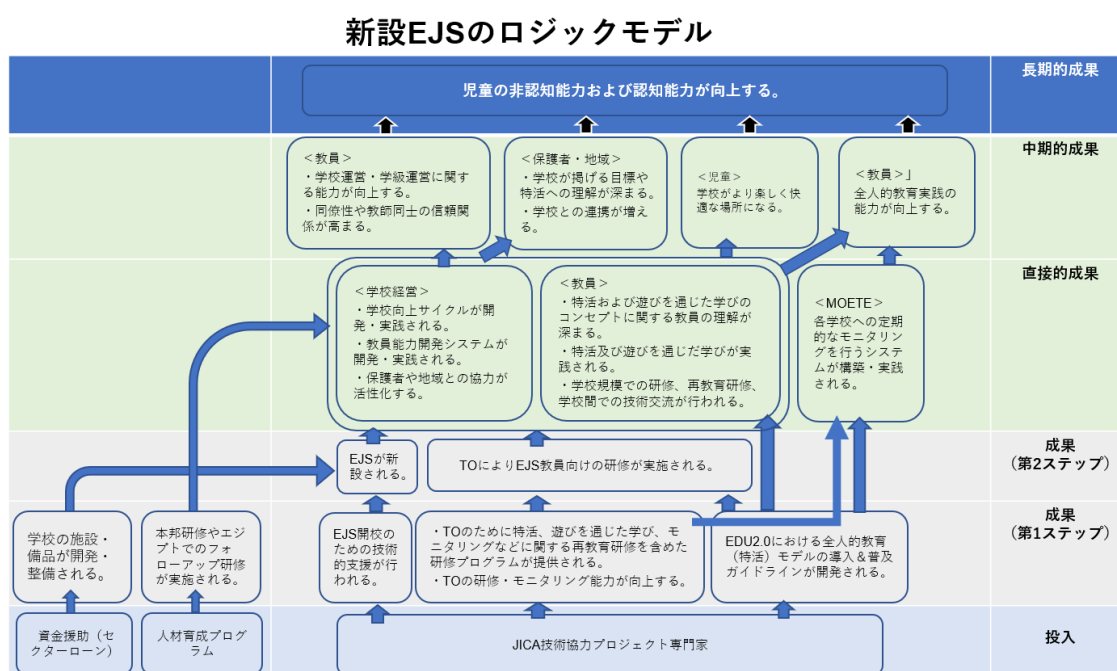
7つの非認知的スキル	期待される児童の能力	各スキルに対応する特活の活動
粘り強さ	自分で目標を設定し、それを達成するために努力することができるようになる。	学級会 学級指導 日直 算数ドリル
自律性	感情をコントロールし、自分の価値観に従って行動しつつ定められたルールを尊重することができるようになる。	学級会 学級指導
自己肯定力	目標を達成するために自分の能力を信じていることができるようになる。	日直 班活動 クラブ活動 学校行事 係活動
問題解決能力	慣れない問題に直面したとき、情報を分析し、従来の方法と新しい方法の両方を用いて、自由に創造的な思考ができるようになる。	学級会 クラブ活動 学校行事 係活動
帰属感	児童はクラスや学校の一員であることを楽しみ、楽しい学級や学校生活を作り、維持するために、学級や学校の活動に積極的に参加することができるようになる。	学級会 日直 清掃 係活動
合意形成能力	自分の意見を、理由をつけて表現したり、他の児童の意見を聞いたり、異なる選択肢を比較して一緒に考えたり、話し合いで合意を得ることができるようになる。	学級会 学校行事 係活動

7つの非認知的スキル	期待される児童の能力	各スキルに対応する特活の活動
共にやり抜く力	完成するまで協力してタスクを実行することができるようになる。	学級会 学校行事 クラブ活動 係活動

出典：本プロジェクトチーム

また、本プロジェクトを通じた投入と成果を説明するロジックモデルを作成し、2018/19 学校年度に新たに設立された EJS にて効果測定調査を実施した。

以下の図に示すように、児童の非認知能力の育成など、期待される成果を実現するための、いくつかの条件がまとめられた。



出典：本プロジェクトチーム

図 2-9：児童の非認知能力向上に向けたロジックモデル

当初の計画では、3つのカテゴリーの学校（パイオニア校、新規 EJS、既存校）で特活プラスの活動を実践した成果を、一般校と比較するために、以下のように特活導入の有無の比較と導入前後比較を行う予定であった。

表 2-12：当初の評価スケジュールとサンプル校（計画）

調査名	実施時期	パイオニア校	第1回対象校		第2回対象校		一般校	全サンプル校
			EJS	既存校	EJS	既存校		
BS1	2017年10月	2	6	6	0	0	12	26
ES1	2018年5月	2	6	6	0	0	12	26
BS2	2018年10月	0	0	0	6	6	12	24
ES2	2020年5月	2	6	6	6	6	12	38

（BS＝ベースライン調査、ES＝エンドライン調査）

出典：本プロジェクトチーム

しかし、2017年10月にEJSの開校が2018/19学校年度に延期されることが決まり、一部の既存校への特活導入も延期されたことにより、初年度の調査では12校のパイオニア校の導入成果に焦点を当てることとし、2017/18学校年度は12校のパイオニア校のみを対象としてBSとESを実施した。

2018年9月に、MOETEは新しく35校のEJSを開校したが、既存校への介入はさらに延期されることとなったため、2018/19学校年度には、新設EJSとその比較対象校である同じ地域の一般公立校（以下「一般校」という。）を対象にBSとESを実施した。BSとESの間の介入期間が5か月しかなかったため、第1回ESから1年後の2020年3月に第2回ESを実施することになったが、新型コロナウイルスの影響により、2020年3月は学校が休校となり、最終的に2回目のESは2021年3月に実施されることとなった。

本プロジェクトで実施された全5回の効果測定調査の実際のスケジュールとサンプル校の数は下表で示すとおり。

表 2-13：効果測定調査のスケジュールとサンプル校数（実績）

調査名	実施時期	パイオニア校	EJS	一般校	全サンプル校
PS1（パイオニア校12校BS）	2017年10月～11月	12 (小学校3年生と 中学校1年生)	0	0	12
PS2（パイオニア校12校ES）	2018年4月	12 (小学校3年生と 中学校1年生)	0	0	12
PS3（EJS BS）	2018年10月	0	6 (KG1、KG2、 小学校1年生)	6 (KG1、KG2、 小学校1年生)	12
PS4（EJS 第1回ES）	2019年4月	0	6 (KG1、KG2、 小学校1年生)	6 (KG1、KG2、 小学校1年生)	12
PS5（EJS 第2回ES）	2021年3月	0	6 (小学校1・2・3年 生)	6 (小学校1・2・3年 生)	12

注：PS＝プログレス・スタディ、BS＝ベースライン調査、ES＝エンドライン調査

出典：本プロジェクトチーム

また、上記の調査において回答者からの情報収集のために、以下のような調査ツールを開発した。

表 2-14 : 調査ツール

研究	校長	教員	保護者	児童
PS1	質問紙	質問紙	面接チェックリスト	質問紙
PS2	質問紙	質問紙	面接チェックリスト	質問紙
PS3	質問紙	質問紙	質問紙	-
PS4	質問紙	質問紙	質問紙	-
PS5	質問紙	質問紙	質問紙	-

出典：本プロジェクトチーム

(2) パイオニア校の効果測定調査から得られた主な知見と考察

最初に行われた PS1 と PS2 の主な結果は以下のとおりである。PS1 と PS2 の間の期間がわずか5か月であり、主な介入は各学校を担当する TO が行う定期モニタリングとフィードバック・セッションであった。

● 非認知的スキル

PS1 と PS2 の回答を分析した結果、特に小学校3年生の児童については、自己評価によるアンケートで子どもの非認知能力を測定することは困難であることが判明した。小学校3年生と中学校1年生の児童の回答を比較すると、小学校3年生の児童は中学校1年生の児童よりも自分を高く評価しており、小学校3年生の児童が自分を客観的に見ることはまだ難しいことが分かった。また、児童の非認知能力に関する質問に対する教員の回答が、児童から得られた回答と一致しておらず、児童の非認知能力を測定するより良い方法を開発する必要があるといえる。

しかし、PS2 の「年度初めと比べた現在の状況」についての質問に対する児童の回答（「はい」「いいえ」「わからない」）を見ると、小学校3年生では約9割、中学校1年生では約6割の児童が「クラスや学校が好きになった」「人の意見をよく聞けるようになった」「クラスメートとよく協力できるようになった」と答えている。これらの結果から、学級や学校への親近感や社会性が以前よりも向上したと感じていることが推測される。

● 児童の全人的教育をサポートする教員の能力

当初の想定では教員の全人的教育のサポート能力が児童の非認知能力に影響を与えると推測していたが、調査結果によると、教員の全人的教育支援能力に有意な改善が見られたのは、12校中3校のみであった。前述のとおり、PS1 と PS2 の間に行われた主な介入は、TO による定期モニタリングとフィードバック・セッションであったが、モニタリングの報告書や本プロジェクトチームの学校訪問時の TO の観察の様子から、モニタリングとフィードバック・セッションの質は TO によってかなり異なることが明らかになった。これらの報告や観察結果と合わせて、教員の能力を高めるためには、TO の特活に対する理解度の向上やモニタリング、フィ

ードバック・セッションの質改善など、さらなるインプットが必要であることが示唆された。

- **学校での肯定的な変化**

本プロジェクトの目的である「選ばれた学校で全人的教育（特活プラス）モデルが運用されている」ことに対して PDM で示された客観的に検証可能な指標（Objectively Verifiable Indicators : OVI。以下「OVI」という。）は、学校で肯定的な変化が確認できた児童の数と教員の数であった。調査の結果、小学校 3 年生の児童の 91%、中学校 1 年生の児童の 61%が、年度初めに比べて「自分の学校が良くなっている」と考え、校長の 100%、教員の 91%が、「学校で肯定的な変化が見られた」と回答した。これらの結果は、パイオニア校における本プロジェクトの目的が達成されたことを示している。

(3) EJS に関する効果測定調査から得られた主な知見と考察

EJS と一般校の調査対象学年は、2018/19 学校年度から始まった新カリキュラムである EDU2.0 の対象学年から抽出した。新カリキュラムでは、ミニ特活の「学級会」、「教員による学級指導」、「日直」の 3 つの活動が小学校で導入されており、特活プラス活動を実施する EJS（介入群）と EDU2.0 の下でミニ特活を実施する一般校（統制群）の比較となった。

PS3 と PS4 は新型コロナウイルス流行前の 2018/19 学校年度初めと終わりに実施されたのに対し、PS5 については、2020 年 3 月から学校環境が大きく変化し、学校が数週間連続で休校となり、学校が再開した後も、ウイルス感染を恐れて子どもを自宅に留め置くことを望む保護者がいたため、多くの児童が定期的に学校に戻ってこない、という特殊な状況で、2021 年 3 月に実施されたことには留意が必要である。

特に EJS 以外の地域では、PS5 に参加した教員や保護者の数は PS3 や PS4 に比べて非常に少なく、EJS と EJS 以外の地域の PS5 の結果を比較しても、PS5 の結果と PS3 や PS4 の結果を比較しても、信頼性は高くなかった。

PS3、PS4、PS5 での EJS と一般校に関する調査結果の主な内容は以下のとおり。

- **非認知能力とそれに影響すると考えられる要因**

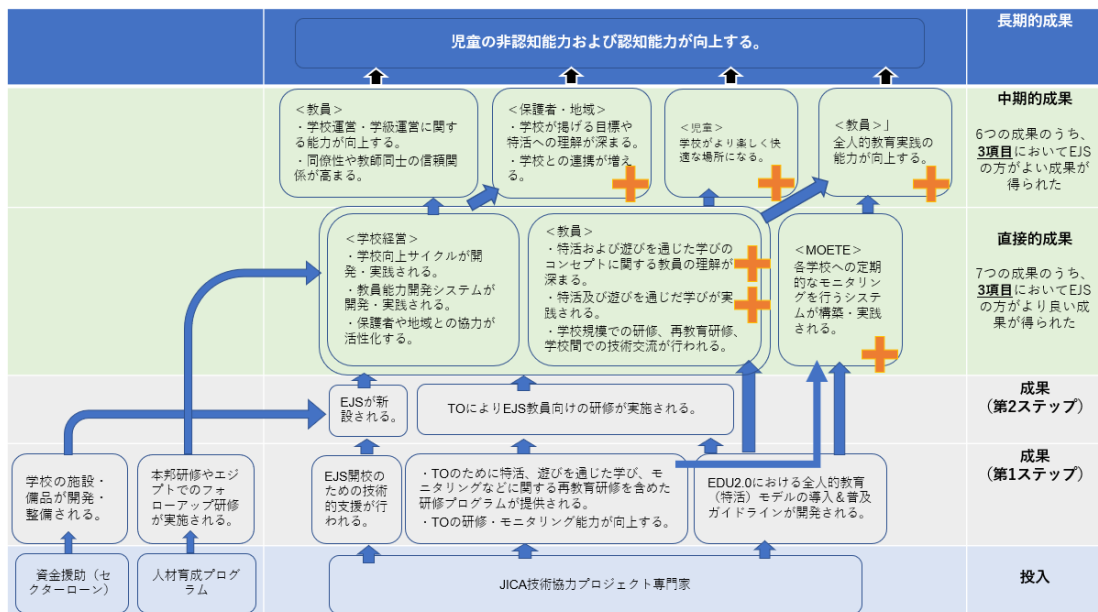
- PS3 と PS4 の結果を比較すると、EJS では一般校に比べて、児童の非認知能力（度胸・忍耐力、自制心、自己効力感、問題解決能力、帰属意識、合意形成力、協調性など）が大きく向上していることが明らかになった。本調査では、特活の導入と児童の非認知能力の向上との間に直接的な因果関係を断定することはできないが、調査結果とロジックモデルから、本プロジェクトの介入、直接的・中期的な成果の達成と児童の非認知能力の向上との間に強い関連性があることが示された。
- PS5 の結果を PS3、PS4 の結果と比較すると、EJS では、児童の総合的な非認知能力、自制心、問題解決能力、協調性が向上し、ベースライン調査当初同

様、良い結果が維持された。一方、調査に参加した保護者の数が少なく、回答が対象グループを代表していない可能性があるため、一般校では教員と保護者のPS5の結果にばらつきがあり、教員と保護者の両方が有意な向上を示したスキルは問題解決スキルのみであった。

- 調査結果とロジックモデルによると、本プロジェクトの介入、直接・中期的な成果の達成、児童の非認知能力の向上の間には、以下のような強い関連性があることが示された。

ロジックモデルに対してプラスの変化が起こったもの

✦ 一般校と比較しEJSにてより良い成果が得られたもの



出典：本プロジェクトチーム

図 2-10：成果が確認されたロジックモデル

- 児童の非認知能力に影響を与えたと思われる要因としては、「特活」や「遊びを通じた学び」に対する教員の理解、学校での特活の定期的な実践、特活に関する定期的なモニタリングと教員へのサポート、校長や教員の学校・学級経営能力、教員の全人的教育能力、学校のミッションや特活に対する保護者の理解、保護者やコミュニティの学校への協力などが重要であると考えられる。
- 一般校で実践されていないミニ特活
 - ミニ特活が新カリキュラムに導入され、すべての一般校の小学校1年生から3年生までの児童に週に45分の特活の時間が公式には割り当てられているが、多くの一般校ではまだ実践されていないということが明らかになった。これらの活動を学校で完全に取り入れるには、MOETE、ムディリヤ、イダラ、学校など、それぞれのレベルでの特活に関する適切な研修が必要である。また、教

員をサポートすることで活動の質を維持するために、他の教科と同じレベルで特活のモニタリングシステムを開発する必要がある。

● コロナ禍での学習

- PS5はコロナ禍で実施されたため、学校閉鎖中の学習に関するいくつかの質問が追加された。調査の結果、EJSの教員は一般校の教員よりも頻繁に児童と連絡を取り合っており、また、EJSの教員は一般校の教員よりもオンライン授業を提供、EJSの児童は一般校の児童よりもオンライン授業を受けていることが分かった。
- しかし、休校期間中の家庭での児童の生活に関する保護者への質問については、勉強に積極的であること、部屋を自発的に片付けること、手を自発的に洗うことなどは、EJSの児童とそうでない児童の間にそれほど大きな違いはなかった。これらの結果は、児童の年齢の低さを考慮すると妥当なものと思われ、この発見は、低学年の児童が学校と家庭の両方で指導を受けることが重要であることを示唆していると考えられる。

活動 2-2. パイロット校と新設校を対象にした研修・ワークショップを実施する。

(1) パイオニア校

2015年から2016年にかけてのプレ・パイロット段階を経て、本プロジェクト期間初期は12校のパイロット校（後にパイオニア校と呼ばれる）を対象としていたが、本プロジェクト期間後期では、徐々にEJSに焦点が移り、パイロット校への介入は少なくなった。

パイオニア校の研修では、本プロジェクト専門家がTOを研修し、TOが学校の代表者を研修し（学校トレーナー研修）、代表者が学校の残りの教員を研修する（学校研修）というカスケードモデルが採用された。

表 2-15：パイオニア校向けの研修及びワークショップ

年	月	プログラム	参加人数の目安
2017年	4月	学校研修（TOのOJTの一環）	60
2017年	8月	スクール・トレーナー研修	100
2017年	8月	学校研修	400
2017/18 学校年度		TOによるモニタリングとフィードバック	N/A
2018年	7月	経験共有ワークショップ ¹²	120
2019年	2月	ミニ特活研修（国定カリキュラム研修の試み）	55
2019年	7月	経験共有ワークショップ ¹³ （英語）	30
2019年	8月	学校トレーナー研修（2019/20 学校年度版教員ガイド使用）	30
2019年	9月	学校研修（学校運営・学級経営）	36

出典：本プロジェクトチーム

¹² 本ワークショップはパイオニア校12校の経験を共有するセミナーの一部として行われたもの。

¹³ 本ワークショップはパイオニア校とEJSの経験交流会の一環として行われたもの。



出典：本プロジェクトチーム

図 2-11：パイオニア校の研修とワークショップの写真

(2) 新設校（EJS）

2017年の新設 EJS にて最初に採用された教員に対しても、上述のカスケードモデルの研修が適用することが計画されていたが、エジプト政府の決定により、EJS 設立は翌年に延期されることになった。

その後、EJS はすべて新しい学校であり、校長や副校長含め教員は、公立学校や私立学校の現役教員の中から採用されたこと、また、他の学校で働いている教員に比べて比較的若いことから、この研修をチームビルディングの機会とするために、PMU は EJS の教員研修はカスケードモデルは採用せず、教員全員をギザ（ムバラク・エデュケーション・シティ）にある MOETE の研修センターに招集し、原則夏季休暇期間中に研修に参加させることに決定した。

特活プラスの理念や実践内容を紹介するこの学校研修は、通常夏季休暇中に開催され、本プロジェクトチームと TO が直接研修を行うことで特活プラスの理解度の質を高めていった。当初は本プロジェクトチームがメインで講師の役割を担っていたが、徐々に優秀な TO（コア TO）が担うようになっていき、PMU にコア TO が配属されてからは、完全にコア TO がこの役割を担うようになった。

学校年度の 2 学期に TO は EJS のモニタリングを行うこととなり、TO は、EJS の能力開発の一環として、特活に関する時間、遊びを通じた学びの時間、その他の特活プラスに関連する活動の時間を観察し、フィードバック・セッションを行っている。

表 2-16：新設 EJS 向けの研修及びワークショップ

年	月	プログラム	参加人数 の目安
2017年	8月	学校研修（設立予定の EJS13校）*	260
2017年	9月	学校研修（設立予定の EJS2校）*	40
2017年	10月	校長研修（設立予定の EJS8校）*	8
2018年	9月	学校研修（EJS34校、校長、教員）	700
2018年	10月	学校研修（EJS1校）	13
2018/19 学校年度		TO によるモニタリングとフィードバック（EJS35校）	N/A

年	月	プログラム	参加人数 の目安
2018年	11月	第1回校長会議・研修会	35
2018年	12月	EJSを対象とした授業研究ワークショップ	100
2019年	1月	第2回校長会・研修会	35
2019年	3月	第3回校長会・研修会	35
2019年	3月	EJSと近隣の学校を対象とした授業研究ワークショップ	500
2019年	7月	年度末経験共有ワークショップ	300
2019/20	学校年度	TOによるモニタリングとフィードバック ¹⁴	N/A
2020年	1月	学校研修（2019/20学校年度）に募集した教員	270
2020年	10月	学校研修（2020/21学校年度）に募集した教員	300
2020/21	学校年度	TOによるモニタリングとフィードバック ¹⁵	N/A
2021年	8月	第4回学校長・副校長研修	94
2021年	9月	学校研修（EJSで2年以上の経験を持つ教員）	230
2021年	9月	学校研修（採用直後のEJS教員）	175

出典：本プロジェクトチーム



出典：本プロジェクトチーム

図 2-12：新設校（EJS）のための研修とワークショップの写真

¹⁴ 新型コロナウイルス流行とそれに伴う学校閉鎖により、2 学期のモニタリングとフィードバックに支障が出た。

¹⁵ 2020/21 学校年度のモニタリングとフィードバックは、新型コロナウイルス第 2 波と第 3 波の影響で学校が 2 回閉鎖されたため、大規模な混乱が生じた。

TOによるEJSへの定期的なモニタリングとフィードバックに加えて、エジプト側からは本プロジェクト専門家による同様のインプットを求められていた。しかし、新型コロナウイルスの流行により同計画の実施が中断され、さらに、大学教授等の特活の有識者による授業研究会をEJSにて開催し、既存校の候補者を含む近隣の一般校を招待する計画も同様の理由で中止となった。

その他EDU2.0の新カリキュラムに加え、EJSへの研修として、ヤマハによる音楽教員のためのリコーダー指導講習、国際交流基金による美術教員のための折り紙講習等が行われた。

活動 2-3. 教育・技術教育省行政官に対する研修・ワークショップを実施する。

ムディリヤとイダラの関係者からは、本プロジェクトの初期段階から関心を示されており、MOETEが週45分の特活の時間を割り当てられた新教育制度に向けて準備をしていた2018年に、本プロジェクトではムディリヤとイダラの関係者に対する働きかけに関して、継続的にCCIMDと協議を行った。また、本プロジェクトの後半では、既存校への導入が始まることを見越して、ムディリヤ関係者を再び研修の対象とすることにした。

表 2-17 : MOETE 職員向けの研修及びワークショップ

年	月	プログラム	参加人数の目安
2017年	3月	イダラ関係者への啓発活動（パイオニア校12校対象）	N/A
2017年	4月	MOETE職員とムディリヤの役員を対象としたセミナー	N/A
2018年	4月	CCIMDへの特活の紹介	10
2019年	10月	CCIMDとの意見交換（福井大学のミッションを受けて）	10
2020年	11月	ムディリヤ関係者へのオリエンテーション	N/A

出典：本プロジェクトチーム



出典：本プロジェクトチーム

図 2-13 : ムディリヤ（左）とイダラ（右）の関係者に対する活動の写真

活動 2-4. パイロット校と新設校で、「全人的教育」（特活プラス）に基づく授業・活動を実施する。

新型コロナウイルス流行のため、EJS は 2020 年 11 月までの 1 学期間、学校を閉鎖しており、以下のモニタリングデータの分析は、2020 年 12 月から 2021 年 5 月までに TO から送られてきたルーブリック平均値をもとに幼稚園を含む EJS 全 43 校の特活の状況について集計・分析したものである。データ等の詳細は、技術協力成果品 33 のとおり。

(1) モニタリングデータの全体的な分析結果

導入初期レベルのルーブリック項目では、「合意形成の方法」と「意思決定と実行計画」を除くすべての項目で、「特活実施に十分なレベル」として位置づけられているステップ 3 が最大の割合となっており、EJS 全体としては、すべての活動に求められる基本的なレベルを十分に満たしていることになる。同様に、幼稚園では、ステップ 4 がすべてのルーブリック項目で最も多くの割合を占めており、基本水準に完全に達していることが分かる。

一方、ステップ 2 が 2 番目に大きな割合となっている項目が 9 項目あり、この傾向は、特に「学級会」に顕著である。したがって、今後の課題として、学級会の質を向上させる方法につき、TO と教員の間で議論する必要があると考えられる。

幼稚園では、「屋外での遊びと砂場の使用」と「補助教員の役割」が、他の項目に比べてステップ 1 とステップ 2 の割合が高い。よって TO はこの 2 つの項目に特に焦点を当てて教員と話し合い、適切なアドバイスを行っていくことが重要と考えられる。

ルーブリックの各項目の成果と、今後取り組むべき課題は以下に示すとおり。

<特活>

特活には、1) 日直、2) 清掃、3) 朝自習の時間があり、3 つの活動すべてにおいて、「特活実施に十分なレベル」として位置づけられているステップ 3 の割合が一番多くなっているため、良い兆候にあるといえる。中でも朝自習においてはステップ 4 がステップ 3 に次いで高い割合を示しており、これは、朝自習より高いレベルに移行していることが分かる。

<学校運営>

ルーブリックにおける学校運営は、1) 学校を継続的に改善する能力、2) 教員の知識・技術を向上させる能力、3) 保護者や地域社会との互恵的な関係を構築する能力、で構成されており、3 つの活動すべてにおいて、「特活実施に十分なレベル」として位置づけられているステップ 3 の割合が一番多くなっているため、良い兆候にあるといえる。しかし、「保護者や地域社会との互恵的な関係を築く能力」では、ステップ 3 は他の項目と比較し、ステップ 3 が 50%を超えておらず、ステップ 2 が 3 番目に高い割合（20%）で、ステップ 1 も 2 ケタ台、と依然多い状態である。これにより、保護者や地域社会との関係が良好な学校もあれば、そうでない学校も一定数あるということが分かる。

<学級経営>

学級経営には、1) 学級経営に関する EJS 教員基準の 5 分野の定期的なモニタリングと 2) 学級担任による学級経営 "があり、いずれの活動も、「特活実施に十分なレベル」として位置づけられているステップ 3 の割合が一番多くなっている。「クラス運営に関する EJS 教員基準の 5 分野の定期的なモニタリング」では、ステップ 4 とステップ 2 の割合がかなり高くなっている。これは、一部の EJS ではステップ 4 レベルに移行できているが他の EJS はまだステップ 2 に留まっていることを意味している。

<校長のコミットメント>

同項目において注目すべきは、EJS43 校のうち 15%の学校がステップ 5 に到達していることである。これは同調査においても非常に評価ができる点である。一方で、20%の校長がまだステップ 1 とステップ 2 に留まっており、これらの EJS に対しては、更に個別の働きかけを行っていくことが必要である。

<学級会>

学級会には 1) 学級会の目的、2) トピックの選択、3) 教員のファシリテーション、4) 合意形成のための児童の関心とコミュニケーション・スキル、5) 合意形成のための児童の傾聴力、6) 合意形成の方法、7) 決定と実行計画、8) 決定したことの実行、9) 振り返りの 9 つのルーブリック項目がある。

うち、最初の 3 つ、1) 学級会の目的、2) トピックの選択、3) 教員のファシリテーションは、それぞれステップ 3 が最も大きな割合を占めている。これは、これらの活動の質が基本レベルを十分に満たしていることを意味する。しかし、そのうちステップ 4 のレベルに移行している項目もあれば、ステップ 2 のままの項目もあり、「教員のファシリテーション」については、ステップ 1 の値が 14%であることに留意が必要である。今後は TO と相談し、ステップ 3 に達していない EJS には、個別のサポートを行っていくことが必要である。

次に 4) 合意形成のための児童の関心とコミュニケーション能力、5) 合意形成のための児童の傾聴能力、6) 合意形成の方法の 3 項目に共通する特徴として、ステップ 2 の割合とステップ 3 の割合にあまり差がないことであり、全体的に状況があまりよくないことを示している。TO は、同 3 項目について、今後さらなる技術的支援及びアドバイスをする必要がある。

最後に、7) 決定と実行計画、8) 決定事項の実行、9) 振り返りの 3 項目について、「決定と実行計画」についてはステップ 2 がまだ高く (40%)、同項目の質が依然低いことが明らかになった。今後、TO は同項目について教員と話し合い、課題を抽出、対策を講じる必要がある。一方で、「決定事項の実行」においてはステップ 4 の値が高い傾向が見られ、現段階で同レベルに達していることは、非常に良い兆候と言える。「振り返り」については、ステップ 1 の値が 2 番目に高く、他のルーブリック項目と異なる特徴が見られた。同項目においてステップ 1 の値の比率が高い EJS は認識されており、TO は本件について教員と話し合い、対策を講じる必要がある。

<学級指導>

学級指導には、1) 教員による授業の目的、2) トピックの選択、3) 教員のファシリテーション、4) 意思決定とその実行の4項目があり、最初の2つ、1) 教員による授業の目的、2) トピックの選択のルーブリック結果は、いずれもステップ3が最も高い割合を示しており、これらの活動の質は基礎レベルを十分に満たしていると言える。また残りの2項目、3) 教員のファシリテーション、4) 意思決定とその実行も、いずれもステップ3の値が高くなっている。

<幼稚園>

幼稚園のルーブリックは1) 朝の会、2) 帰りの会、3) 安全で快適な教室環境、4) 外遊びと砂場の使用、5) 日直、6) 片付けと清掃、7) 補助教員の役割、8) 連絡帳の使用、9) 遊びを通じた学び、10) 幼児一人一人の存在の尊重、の10項目で、4つのステップで評価される。

上述のとおり、全10項目のうち、「外遊びや砂場の利用」では、ステップ1が15%、ステップ2が30%となっており、この活動がまだ十分に根付いていないことが分かる。TOは、同活動に関して、教員にさらなる技術的支援する必要がある。また、「補助教員の役割」のルーブリック値を見ると、ステップ3が最も高い値を示している一方で、19%がステップ1にとどまっている。これは、補助教員をうまく活用する方法を知らないEJSが一定数いることを示しており、TOはこのようなEJSに対して特に支援を行う必要があるといえる。

2.2.3 成果3 「全人的教育（特活プラス）」モデルを新設校から既存校に普及するシステムが、試行される。

活動 3-1. 県教育局（Mudirrya、以下ムディリア）及び区事務所（Idara、以下イダーラ）職員（特活オフィサー、以下TO）に対する研修・ワークショップを実施する。する。

本プロジェクト開始時にPMUとの間で合意されたワークプランでは、本プロジェクトチームがTOに研修を行い、研修を受けたTOが学校の校長や教員に研修を実施することになっており、同計画に基づきPMUと協力し、TOに対して下表の研修を実施した。

表 2-18 : TO 向けの研修及びワークショップ

年	月	プログラム	参加人数 目安
2017年	4月	TO 研修（特活入門）	40
2017年	4月	TO OJT（パイオニア校12校の学校研修）	12
2017年	5月	TO 研修（カイロ日本人学校の見学）	8
2017年	6月	TO 研修（幼稚園）	20
2017年	6月	TO 本邦研修（日本での特活の実践）	20
2017年	7月	TO 研修（特活プラス導入ガイドライン）	30
2017年	8月	TO OJT（パイオニア校12校の学校研修）	27
2017年	10月	第1回 TO モニタリング研修（OJT含む）	25

年	月	プログラム	参加人数 目安
2017年	12月	第2回 TO モニタリング研修	27
2018年	3月	第3回 TO モニタリング研修	27
2018年	7月	TO 研修 (特活プラス導入ガイドライン)	70
2018年	10月	第4回 TO モニター研修	60
2018年	11月	TO OJT (第1回校長会議・研修)	60
2018年	12月	TO OJT (授業研究)	60
2019年	1月	第5回 TO モニタリング研修	60
2019年	1月	TO OJT (第2回校長会議・研修)	60
2019年	6-7月	TO OJT (研修教材の開発)	10
2019年	7月	TO 研修 (特活プラス入門) の候補者	45
2019年	8月	TO 研修 (2019/20 学校年度版教員ガイド)	50
2019年	9月	TO 研修 (学校運営と授業計画に関する研修)	50
2019年	9月	第6回 TO モニタリング研修	60
2019年	9月	TO TOT 研修 (2019/20 学校年度版教員ガイド) 第2期 EJS 用 (5校)	30
2019年	10月	TO 本邦研修 (カリキュラムの枠組と EJS の現在の課題)	20
2020年	通年	コア TO OJT (教員ガイドの開発など)	10
2020年	1月	TO の候補者 (特活プラスの紹介)	45
2020年	1月	TO OJT (教員ガイド研修)	60
2020年	1-2月	TO 本邦研修 (特活による児童の成果など)	20
2020年	2月	第7回 TO モニタリング研修	45
2020年	4月	第8回モニタリング研修 (オンライン)	60
2020年	4-5月	TO 研修 (2019/20 学校年度の優良事例 (オンライン))	60
2020年	10月	TO 研修 (2020/21 学校年度版教員ガイド) TO 候補者 40 名 を含む	90
2020年	10月	TO 研修 (2020/21 学校年度版教員ガイド (オンライン)) TO 候補者 40 名を含む	90
2020年	10月	第9回モニタリング研修 (オンライン)	90
2020年	11-12 月	TO 候補者向け研修 (2020/21 学校年度版教員ガイド、モニ タリング・マニュアル、ルーブリック、他)	40
2021年	1-6月	TO OJT (教員ガイドなどの開発)	10
2021年	8月	TO 研修 (2021/22 学校年度版教員ガイド)	65

出典：本プロジェクトチーム

エジプトにて特活プラスを導入する際の課題の一つは、教員の意識を「教員がどのように教えるか」という視点から「児童が何を学ぶか」という視点に変えることであり、2019年10月に日本で20名の参加者（TO16名、CCIMDのカリキュラム専門家2名、アインシヤムス大学教授2名）を対象に行われた研修では、この点が大きなテーマの一つとなった。



出典：本プロジェクトチーム

図 2-14：MT/TO の研修とワークショップの写真

本プロジェクト開始当初は、研修に参加していた TO（当時はマスタートレーナーと呼ばれていた）が 40 名いたが、2017 年 6 月の日本での研修の直後には、その半分に減っていた。その後、2018/19 学校年度に EJS35 校が開設される前に EJS の校長や教員に直接研修を行いたいという MOETE の要望に合わせて、2 回目の本邦研修は中止になり、TO の数は 2018 年 7 月に約 40 名増加した。2020/21 学校年度現在、現役の TO の総数は約 60 名となっている。

2018/19 学校年度末までに、一部の TO が本プロジェクトを離脱し、一部の地域の TO が不在となったことから PMU では新たな TO 候補者を募集した。本プロジェクトチームの協力のもと、コア TO 数名によって、TO 候補者のための導入研修が行われ、2018/19 学校年度頭に採用された TO もリフレッシュ研修としてこの研修に参加した。

2019/20 学校年度は、学校年度が始まる前に、本プロジェクトチームの協力のもと、コア TO が以下の 4 つの研修を実施した。

- 1) 2019/20 学校年度版のガイドライン/マニュアルに関する研修では特に前年度と比較して新規／改訂された内容に焦点を当てて実施。
- 2) 学校運営・学級経営に関する理解不足を補うために、追加的研修を実施。
- 3) モニタリング研修（TO によるガイドライン・マニュアルに基づいて学校の実施状況をモニタリングし、フィードバックする方法の研修）を実施。
- 4) 第 2 陣 EJS の講師となる TO に対して、研修教材の TOT 研修を実施。

また学校年度が始まってから、本プロジェクトから TO に対して以下のような支援が行われた。

- 必要に応じて、TO のモニタリングレポートに基づきアドバイス
- TO がモニタリングを行っている学校に本プロジェクトチームが訪問する際の現地研修

一般的に、TO 採用後には以下のとおりの順序で研修等が実践されている。

表 2-19 : 採用後の TO に対する研修

研修	時期
• 特活プラス教員ガイドの紹介	夏休み
• モニタリング研修	夏休み
• 先輩 TO との EJS モニタリング実習	第 1 学期
• モニタリング研修	冬休み
• 先輩 TO との EJS モニタリング実習	2 学期目
• 再研修 (第 2 サイクル開始)	夏休み

活動 3-1-2. 教育・技術教育省職員が、選定された既存校に対し「全人的教育」（特活プラス）を導入する計画を開発する。

2017年4月に策定されたワークプランでは、2017/18 学校年度に EJS とともに既存校へ特活プラス導入を開始する予定であったが、EJS 開設にかかる PMU の負担が重く、計画通りには進まなかった。本プロジェクト期間の延長が合意された際、全人的教育モデルの活動を EJS から学ぶために、2020/21 学校年度に既存校への導入を開始することとした。

2019/20 学校年度に既存校への導入に向けた準備行われ、既存校の追加活動を選択するために以下の図を使用し、PMU は、過去に EJS で開催された授業研究ワークショップに参加した学校の中から、34 校を既存校として導入先の対象することに決定した。この一連のプロセスには各地域の TO と EJS の校長が参加した。

日本	特活プラス	基本の特活 (既存校/バイオニア校)	ミニ特活
学級活動	学級会 (小) 学級指導 (小) 清掃 日直 朝の会・帰りの会 課題設定	学級会 学級指導 (衛生教育に焦点をあてたもの) 日直 清掃 (メリット・デメリットを検証) 朝の会・帰りの会 (メリット・デメリットを検証)	学級会 学級指導 (衛生教育に焦点をあてたもの) 日直
児童会活動	小学校高学年で検討		
クラブ活動	活動のメリット・デメリットを慎重に検証		
学校行事	運動会 (JICA ボランティアにより開催、ただしコロナの影響により教材化はしていない。)		
その他	班学習、朝自習、お便り帳、遊びを通じた学び (幼稚園)、砂場遊び (幼稚園)、自由遊びと計画的遊び (幼稚園)、教員会議、校務分掌、行内研修 (授業研究)、翌日の授業準備、保護者の参画、廊下右側通行、上履き、下履き制、昼食を学級全員で食べる、手洗い、歯磨き、学校内菜園、動物飼育、遠足、身長・体重測定、健康診断、環境教育 (JICA ボランティア)、その他	お便り帳 (幼稚園)、遊びを通じた学習 (幼稚園)、身体測定 (SHP)、健康診断 (SHP) ※SHP=JICA エジプト国学校保健プロジェクト (2008-2012 年)	

出典：本プロジェクトチーム

図 2-15 : 3 種類の学校の全人的教育活動 (ディスカッションペーパー)

PMU の R&D チームは、本プロジェクトチーム協力のもと、年間研修スケジュールのドラフトを作成した。その後、計画に沿って 2019 年 11 月から既存校のタスクに関わるムディリヤの職員にオリエンテーションを実施していたが、この計画は新型コロナウイルス流行により中断を余儀なくされた。

活動 3-2. 選定された既存校の校長や教員に対し、研修・ワークショップを実施する。

本邦研修に参加した TO の中には、日本で参観した授業を参考に、担当する地区で自主的に特活の実践を始めた例もあり、本プロジェクトチームではこの取り組みを活用し、特に大学教授等の特活の有識者陣がエジプトを訪れるタイミングを利用し、EJS 全体に広めることとした。本プロジェクトチーム及び大学教授等の特活の有識者陣の支援を受けて EJS が「授業研究ワークショップ」を開催した際には、EJS の近隣の一般校も招待した。PMU は、このワークショップに参加した一般校の中から 34 校を、全人的教育モデルを 2020/21 学校年度に導入開始する既存校として選ぶことにした。しかし、新型コロナウイルス流行によりこの計画は中断を余儀なくされ、既存校での介入は現在まで開始されていない。なお、既存校 34 校は、EJS の授業研究ワークショップに参加しているため、全人的教育の活動については何らかの知識を持っている状態である。

表 2-20：既存校（候補）向けの研修及びワークショップ

年	月	プログラム	参加人数の目安
2018	12 月	EJS の授業研究ワークショップ	100
2019	3 月	EJS と近隣学校を対象とした授業研究ワークショップ	500

出典：本プロジェクトチーム

活動 3-2-2. 選定された既存校のため、新設校で、経験共有セッションが実施される。

上表のとおり、EJS が過去に 2 度開催した授業研究ワークショップへは既存校となる学校が参加しており、ワークショップにて EJS の経験共有が行われた。

2020/21 学校年度は、既存校が EJS で実施される経験共有会に参加する年と考えられていたが、新型コロナウイルス流行に伴う 2020 年 3 月から全 3 回の学校閉鎖により実現が叶わず、後に正式に既存校が選ばれた際に、同様の経験共有会が行われることはなかった。

活動 3-3. ベースライン調査を実施する。

活動 3-5. エンドライン調査を実施する。

(1) 既存校

既存校 35 校のベースライン状況を評価するために、2020 年 10 月から 11 月にかけて、データ収集ツールである「学校情報シート」「校長アンケート」「教員アンケート」を作成した。「学校情報シート」には、学年別・男女別の児童数、段階別・男女別の教員数、施設が含まれ、「校長アンケート」と「教員アンケート」には、個人情報（性別、年齢、教職経験）、学校での特活実践、特活への理解に関する設問が含まれた。

データ収集は各地域に割り当てられた TO が行うことになっており、35 校の異なる学校で均一なデータ収集プロセスを行うためにデータ収集ガイドが作成された。2019 年 12 月 1 日にアンケートとデータ収集ガイドを使い、1 日オリエンテーションが行われ、その翌週からデータ収集を開始することになっていたが、PMU の決定により既存校からのデータ収集は実施時期を延期することになった。

活動 3-4. 既存校で、「全人的教育」（特活プラス）の授業や活動を実施する。

2020/21 学校年度の新型コロナウイルス流行により、既存校の正式な開始が遅れており、これまでの全人的教育モデルに関する活動やそこから得られた教訓等の情報を確認することができなかった。

活動 3-5-2. 「全人的教育」（特活プラス）の実施における、教育・技術教育省職員の TOR を開発する。

「活動 1-6. 「全人的教育」（特活プラス）モデル展開の普及戦略を開発する。」で述べたように、全人的教育（特活プラス）の実践を全国の公立校に普及させるための方法と目標をまとめた普及戦略の策定を支援した。

この普及戦略を策定する過程で、全人的教育の普及プロセスにおける MOETE 関係者の役割と責任についても議論され、下表に示すとおり MOETE の主要関係者の TOR 案が作成された。

表 2-21 : 全人的教育の全国普及のための MOETE 職員の TOR 案

MOETE 内の 部署・ユニット	役割と責任
PMU	<ul style="list-style-type: none"> 全人的教育（特活プラス）の普及と実施に関わる全ての活動の方針、基準、計画の策定 全人的教育（特活プラス）の普及と実施に係る様々な機関や省庁の関係者とのパートナーシップ構築 カリキュラムフレームワーク、評価フレームワーク、教員ガイド、研修教材、モニタリング・評価ツールなど、全人的教育（特活プラス）に関連する教育・学習リソースの開発 全人的教育（特活プラス）の普及と実施のための様々な研修活動の計画、委任、監督 全地域のモニタリング・評価データとりまとめ、全人的教育（特活プラス）実施の進捗状況の定期的なレビュー 全人的教育（特活プラス）に関する意識向上のための情報・教育・コミュニケーション（IEC）活動の企画・監修
CCIMD	<ul style="list-style-type: none"> PMU が作成したカリキュラムフレームワーク、評価フレームワーク、評価ガイド、その他の教育・学習教材のドラフトのレビュー、フィードバック、提案 カリキュラムフレームワーク、評価フレームワーク、教員ガイドの MOETE の公式文書としての承認・認可、すべての学校への配布
基礎教育局 (Department of General Education)	<ul style="list-style-type: none"> 様々な研修や経験の共有を計画・実施するための各県の教育局との調整・連携 基礎教育局傘下の各ムディリヤ監督下のイダラおよび学校を対象とした様々な研修および経験共有活動の計画・実施、進捗モニタリング 各イダラ監督下の学校を対象とした様々な研修や経験共有活動の計画・実施、進捗モニタリング
印刷局	<ul style="list-style-type: none"> 承認された教員ガイドの印刷、すべての学校への配布
GAEB	<ul style="list-style-type: none"> EJS を含む新設校の計画と建設

出典：本プロジェクトチーム作成

より詳細な TOR は、本プロジェクトの後継プロジェクトで作成される執務要領 (Standard Operating Procedure : SOP。以下「SOP」という。) で改めて定義される予定である。

さらに、MOETE 省令 2019 年 8 月 8 日付第 17 号¹⁶の第 5 条では、EJS、PMU とそのサブユニットであるムディリヤとイダラ、中央情報システム局の役割を以下のように規定している。

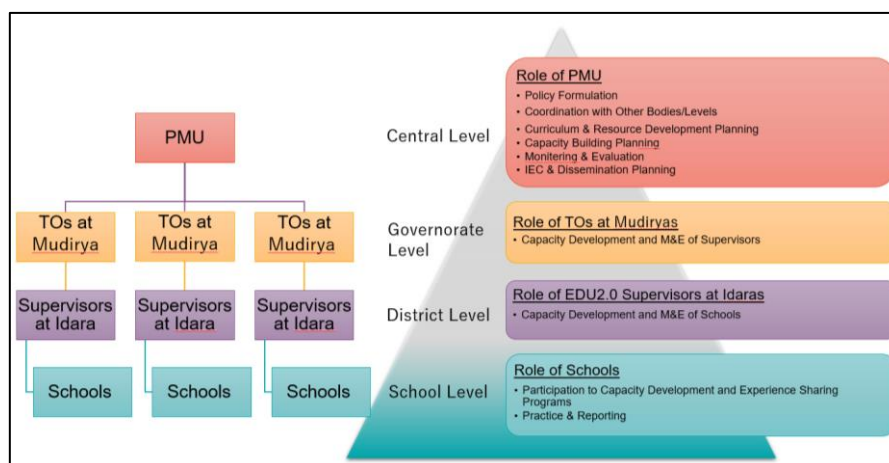
MOETE 省令 2019 年 8 月 8 日付第 17 号の暫定的な翻訳

EJS、PMU、およびムディリヤレベルのすべての関連ユニットは、次のような役割を担う。

1. 日本側と調整し、日本式特活を実施する学校を、管轄当局の承認を得て定められた基準に従って、ムディリヤとイダラの協力のもとに選定すること。
2. 各県のムディリヤ、イダラ、および活動実施の成功と持続性に必要な手続きに関わる省内事務局の他の部署に指導を行い、特活を導入する学校における実践方法と作業プロセスを統一し、意思決定の重複を防ぎ、日本式導入の目的の遂行に関して共通の理解を得られるよう努めること。
3. PMU とムディリヤ傘下の機関の業務に必要なプログラムやアプリケーション (例：ウェブサイトの作成、データベースの作成、プログラムの作成等) のを設定すること。ただしインフラの提供と様々な障害等は中央情報システム・テクノロジー局が支援する。
4. PMU が学校レベルでのタスクや様々な活動を持続的に実施するために、候補者に対して必要な試験や個人面接を行った上で、PMU と各機関に必要な職員を推薦し、所轄官庁の承認後を得る。
5. 日本側と協力し、PMU、その他機関、学校の従業員に必要な研修プログラムを提案、準備、実施すること。
6. 日本による奨学金を受ける候補者の基準を設定し、日本側との調整し、候補者に対する必要な評価や個人面接を行った上で、候補者を選定すること。
7. この目的のために設定された規則に従って、PMU、その傘下の機関及び学校の職員のパフォーマンスの定期的なフォローアップと評価を行い、各職員に設定されたインセンティブに結びつける。
8. EJS への支援に関係する機関や省庁など、さまざまな関係機関とのパートナーシップを構築すること。
9. 日本の特活を正しく理解してもらい、全国の一般校に普及させること。

PMU と普及戦略を作成した際に、下図のように関係機関・担当者に、コア TO、各地域の TO、EDU2.0 担当指導主事等の追加人員が挙げられた。この戦略では、現在、KG1 から小学校 3 年生までの学年のモニタリングを行っている EDU2.0 担当指導主事が、普及活動のキーパーソンになると考えられている。

¹⁶ 添付資料 89 を参照。



出典：本プロジェクトチーム

図 2-16：普及戦略に設定された TOR 案

活動 3-6. セミナーを開催する。

表 2-22：国内セミナー・広域セミナー

年	月	プログラム（および対象者）	参加人数 目安
2017年	7月	経験共有セミナー（パイロット校・パイオニア校・TO）	120
2019年	7月	年度末経験共有セミナー（EJS、TO）	300
2019年	9月	アインシャムス大学との共同セミナー（EJS、TO、アインシャムス大学教育学部）	250
2019年	12月	アスワン現地セミナー（EJS、TO、ムディリヤ関係者、現地メディア）	200
2019年	12月	ハルガダ現地セミナー（EJS、TO、ムディリヤ関係者、現地メディア）	150
2021年	8月	年度末経験共有ウェビナー（EJS、TO）	230
2021年	8月	年度末経験共有国際ウェビナー（EJS、TO、インドネシアを中心とした海外の参加者）	190

出典：本プロジェクトチーム

本プロジェクトでは、2018年7月に現地セミナーを開催し、パイオニア校12校が2017/18年の特活実践の成果を発表し、PS1とPS2の成果が報告された。また、以下の3テーマでのパネルディスカッションを開催した。

- 児童の人格形成（非認知能力の発達）における、学級会や学級指導とその可能性について紹介
- 特活と学校運営の改善への可能性（保護者を学校改善への参画を含む）について紹介
- 特活での児童による日直、清掃の活動及びその可能性について紹介



出典：本プロジェクトチーム

図 2-17：経験共有セミナー（パイオニア校）の写真

2018/19 学校年度終了後、第 1 陣の EJS35 校とパイオニア校 12 校を対象に年末セミナーを開催した。初日は、6 グループに分かれ、それぞれのテーマで、この 1 年間の活動内容を振り返り、特活プラスの実施で得られた教訓を協議した。2 日目には、各グループの協議結果を参加者全員で共有した。

2019 年 9 月にアインシャムス大学の協力を得て、教員、政府関係者、研究者、地元メディアなどを対象としたセミナーを開催し、上記の年度末セミナーでの調査結果、及びベースライン調査とエンドライン調査の結果を公開し、本プロジェクトの認知度向上を図った。



出典：本プロジェクトチーム

図 2-18：アインシャムス大学との共同セミナーの写真

アスワンとハルガダでのセミナーは、全人的教育モデル活動（特活プラス）の質の向上、および保護者やムディリヤ担当者への意識啓発を目的として、日本から大学教授等の特活の有識者陣を招いて実施した。2020 年 3 月にも日本の有識者陣と協力し、EJS で国内セミナーの開催を予定していたが、新型コロナウイルス流行により実現しなかった。

2021 年 8 月、本プロジェクト終了に向けて、国内向けと海外向けに 2 回のウェビナーを開催した。国内ウェビナーでは、TO が過去 2 年間に収集した事例が発表された。国際ウェビナーでは、日本側の TTCS 合同委員会メンバー陣が講演を行った。またインドネシアからは、幼稚園での特活実践の事例が紹介された。



出典：本プロジェクトチーム

図 2-19：年度末経験共有セミナー（ウェビナー）の写真

2.2.4 成果4 「特活プラスの研修・認証システム（以下、TTCS）のパイロットプロジェクトの実施をとおして得られた教訓や提案をまとめ、TTCS プロポーザルが作成される。

成果4のTTCSパイロットプロジェクトについては、2020年11月9日付R/DによりPDM改訂時に追加された。同制度は主に、同制度を通じて認証されたTOが研修プログラムを実施することで、本プロジェクトの持続可能性を強化するためのものであると同時に、正しい研修を受けていないTOが出現するのを防ぐことを目的としている。また、認証されたTOは今後、現在本プロジェクトで行っている教員ガイドやその他の教材の開発などの役割も担うことになっている。

活動 4-1. TTCSパイロットプロジェクトの合同委員会（JC）が組織される。

PMUに設置されたTTCS事務局が、下表に示すエジプトと日本の専門家で構成されるTTCSパイロットプロジェクト合同委員会（以下「JC」という。）のTORを作成した。JCは、1) 想定される学習成果（Intended Learning Outcomes：ILO。以下「ILO」という。）2) 研修カリキュラム、3) 研修実施者の条件、4) TOの評価・認証、という4つの主要コンポーネントに関する技術的な専門知識を提供するだけでなく、準備段階や報告段階でのアドバイザーパネルとしての役割も期待されている。詳細はTTCSレポート（技術協力成果品34）を参照。

表 2-23：TTCSパイロットプロジェクトJCメンバー

名前	ポジション
Malek Ahmed 氏	EJSプロジェクトPMUディレクター
Esam R Hamza 教授	E-JUSTリベラルアーツ&カルチャーセンター（LACC）理事・会長
Enas Farahat 博士	ダミエッタ大学教育学部カリキュラム&インストラクション講師
杉田 洋 教授	國學院大學教授
黒木 義成 教授	沖縄大学教授
安部 恭子氏	国立教育政策研究所主任研究員
恒吉 僚子 教授	東京大学教授（当時）
橋谷 由紀 教授	日本体育大学教授
脇田 哲郎 教授	福岡教育大学教授

新型コロナウイルスの影響により、日本の JC メンバーがエジプトを訪問できなくなったことから、PMU は以下の表に示す EJS の日本人スーパーバイザー¹⁷を数名手配し、JC メンバーに代わって TO の評価を実施した。

表 2-24 : EJS スーパーバイザー

名前	担当 EJS
鈴木純一郎氏	EJS ニューカイロ校
阿部勇知氏	EJS ポートサイド校、ニューダミエッタ校、カフルエルバティーク校
川越豊彦氏	EJS アスワン校

活動 4-2. ILO が、JC により検討され、承認される。

日本の JC メンバーによる技術的インプットを受け、TO の ILO ドラフトを作成し、2020 年 12 月に開催された第 2 回 JC にて承認された。ILO は、特活プラスの 3 つの主要な技能分野ごとに以下の表で示すとおり。

表 2-25 : ILO (学校運営・学級経営)

ILO	知識	スキル	態度
専門領域			
日本語教育のための学校運営・学級経営 (EJS 学校運営)	<ul style="list-style-type: none"> 日本語教育のための基本的な学校運営・学級経営のコンセプト (在り方) や組織を生かした取組について理解し、説明することができる。 日本語教育のための学校運営・学級経営の基本的な手法を理解し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営や学級経営の実践事例を分析することができる。 日本語教育のための学校運営・学級経営の教材開発をすることができる。 MOETE、教育事務所、学校や教員と意思疎通することができる。 学校や学級の実態に合わせて指導・助言することができる。 日本語教育のための学校運営・学級経営の基本的な手法を理解し、説明することができる。 日本語教育のための学校運営・学級経営に関する人材育成をすることができる (成果と課題を踏まえた研修・指導等)。 各自の課題に合った指導や助言をすることができる。 日本語教育のための学校運営・学級経営のモニタリングをすることができる (目標の達成度)。 学校や個々の教職員に寄り添うことができる。 日本語教育のための学校運営・学級経営の成果と課題を見極めるための評価をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童生徒と教職員を支える仕事に誇りを持つことができる。 学校や個々の教職員に寄り添うことができる。 礼節のある態度で相手に接することができる。 モニタリングの結果に基づき、適切なアドバイスをすることができる。 課題点だけでなく、よさを評価し、意欲を高めることができる。 子供の実態、発達段階を考慮し、柔軟な態度で接することができる。 地域や各学校の特色に応じた指導を行うことができる。

出典：TTCS 報告書

¹⁷ エジプト大統領の招待を受け、日本で校長を務めた経験のある日本人教員が「EJS スーパーバイザー」と呼ばれる EJS の校長のアドバイザーとして活躍している。2020/21 学校年度には 10 名、2021/22 学校年度には 12 名の EJS スーパーバイザーがエジプトに赴任した。

表 2-26 : ILO (特活)

専門領域	ILO	知識	スキル	態度
			<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動の実践事例を分析することができる。 ・特別活動の研修教材の開発をすることができる。 ・特活の指導案を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒と教職員を支える仕事に誇りを持つことができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・小学校での特別活動の全体目標と指導理念を理解し、説明することができる。 ・小学校での特別活動の各活動・学校行事の目標や内容、特質を理解し、説明することができる。 ・学級会と学級指導の指導内容や指導方法を理解し、必要に応じて示範することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MOETE、教育事務所、学校や教員と意思疎通することができる。 ・学校や学級の実態に合わせて指導・助言することができる。 ・特別活動に係る人材育成をすることができる(研修・指導案や授業の指導等)。 ・各自の課題に合った指導や助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や個々の教職員に寄り添うことができる。 ・礼節のある態度で相手に接することができる。 ・モニタリングの結果に基づき、適切なアドバイスをすることができる。 ・課題点だけでなく、よさを評価し、意欲を高めることができる。
			<ul style="list-style-type: none"> ・特別活動を学校や学級でモニタリングして、成果と課題を明確にすることができる。 ・学校としての特別活動の取組や児童の変容を評価することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の実態、発達の段階を考慮し、柔軟な態度で接することができる。 ・地域や各学校の特色に応じた指導を行うことができる。

出典：TTCS 報告書

表 2-27 : ILO (幼稚園)

専門領域	ILO	知識	スキル	態度
			<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での遊びを通した学びの実践事例を分析することができる。 ・幼稚園での遊びを通した学びの研修教材の開発をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒と教職員を支える仕事に誇りを持つことができる。
		<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での遊びを通した学びの基本的なコンセプトを理解し、説明することができる。 ・幼稚園での遊びを通した学びの手法を理解し、説明することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・MOETE、教育事務所、学校や教員と意思疎通することができる。 ・学校や学級の実態に合わせて指導・助言することができる。 ・幼稚園での遊びを通した学びに係る人材育成をすることができる(研修・指導等)。 ・各自の課題に合った指導や助言をすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校や個々の教職員に寄り添うことができる。 ・礼節のある態度で相手に接することができる。 ・モニタリングの結果に基づき、適切なアドバイスをすることができる。 ・課題点だけでなく、よさを評価し、意欲を高めることができる。
			<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園での遊びを通した学びを、学校や学級でモニタリングすることができる。 ・幼稚園での遊びを通した学びや子供の変容を評価することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子供の実態、発達の段階を考慮し、柔軟な態度で接することができる。 ・地域や各学校の特色に応じた指導を行うことができる。

出典：TTCS 報告書

活動 4-3. 研修カリキュラムが、JC により検討され、承認される。

第 4 回および第 5 回の JC 会議において、新規 TO の研修カリキュラム案が提出された。同カリキュラムの一部と年間スケジュール案は以下の図に示すとおり。

表 2-28 : 1年目の TO の研修カリキュラム (一部抜粋)

コース名	ILO	期待される研修効果	研修内容	コースコード
1. EDU2.0 に基づく特活実践ハンドブック	[KT-1,2&3]	本コース受講者は次が出来るようになる。 - エジプトの教育政策を示す鍵となる文書が何かを示す。 - EDU2.0が児童生徒に獲得を目指す必須ライフスキルを示す。 - Tokkatsuの進行学年とカリキュラム時間を示す。	セッション1, 2: - 本コースの目的 - 本コースの構成 - ハンドブック1章:エジプトの学校教育政策とTokkatsu - ハンドブック2章: Tokkatsuの概要 - ハンドブックの該当章を読む - 選択式のテストに解答する	H-001
	[KM-1&2]	本コース受講者は次が出来るようになる。 - 1学校年度の中でTokkatsu導入に必要な作業が何かを示す。 - Tokkatsu実践のための鍵となる(例:教員ガイド等)を示す。 - Tokkatsuを実践している最寄りの学校を示す。 - 自分の学校を管轄するTokkatsuオフィサーが誰かを示す。 - 自校のTokkatsu実践の質を高める方法を示す。	セッション3, 4, 5: - ハンドブック3章: Tokkatsu導入の過程 - ハンドブック4章: 参考資料 - ハンドブック5章: 学校現場での実践の質を高める工夫 - ハンドブックの該当章を読む - 選択式のテストに解答する - コース全体の質疑応答	
2. 学校運営・学級経営	[KM-1&2]	本セッション終了後、受講生は以下のことができるようになる。 - 日本の学校の主な特徴を説明できるようになる。 - 特活とEducation 2.0の目標がどう関連しているかを説明できるようになる。 - 日本式教育で校長は学校をどのように運営するべきかを説明できるようになる。	学校運営学級経営ガイド目次から引用 1. 日本式教育の紹介 1.1 EDU2.0と日本式教育 1.2 エジプト日本学校(Egyptian Japanese School: EJS)の主な特徴 1.3 児童中心の教育 1.4 全人的教育	S-001
			2. 校長による学校運営 2.1 日本式教育における校長の主な役割 2.2 校長は一人で働くべきではありません - 学校の運営体制の整備 2.3 日本式教育の3つのコアチームの設立 2.3.1 学校改善チームのタスク 2.3.2 保護者と地域社会の連携チームのタスク 2.3.3 教員と授業改善チームのタスク	S-002
			3. 教員による学級経営 3.1 学級経営とは何か、そしてなぜそれが重要なのか? 3.2 学級経営をどのように行うか(日本式教育における学級経営に関する教員スタンダード) 3.2.1 児童の理解 3.2.2 集団を通じた学び 3.2.3 良い授業の実施 3.2.4 良い学習環境の整備 3.2.5 他者との協力	S-003

出典: TTCS 報告書

表 2-29 : 1年目の TO の研修スケジュール案

研修	コース名	コースコード
新しいTOの選考		
ICT技術研修 (zoom, learning curve, etc)		
< Tokkatsu+導入研修 > Tokkatsu+ (日本型教育の活動) モニタリングの研修	1. EDU2.0 に基づく特活実践ハンドブック 2. 学校運営・学級経営 3. 特活の理念 4. 特活の実践 5. 遊びを中心とした幼稚園生活	H-001 S-001~S-003 TP-001~TP-003 TA-001~ TA-011 K-001~K-004
EJS教員等の研修を実施する2年目以上のTOの見学 活動やモニタリングについて研修	9. Tokkatsu+の研修等の実務実習 6. モニタリングと指導	CPD-002 M-001~M-004
< 1学期中の研修 > モニタリングと指導のOJT 授業研究 R&Dや技プロチームの学校訪問 モニタリングと評価の研修	7. Tokkatsu+のモニタリングおよび指導の実務実習 8. Tokkatsu+指導員の実務を説明するビデオ講義 (今後開発予定) 9. Tokkatsu+の研修等の実務実習 6. モニタリングと指導	M-005 CPD-001~CPD-002 M-002
< 2学期中の研修 > モニタリングと指導のOJT 地域ごとの授業研究会 R&Dによる学校訪問 モニタリングの評価とワークショップ	7. Tokkatsu+のモニタリングおよび指導の実務実習 8. Tokkatsu+指導員の実務を説明するビデオ講義 (今後開発予定) 9. Tokkatsu+の研修等の実務実習 6. モニタリングと指導	M-005 CPD-001~CPD-002 M-002
県やいくつかの県がまとまったセミナー 全国セミナー	9. Tokkatsu+の研修等の実務実習 9. Tokkatsu+の研修等の実務実習	CPD-002 CPD-002

出典: TTCS 報告書

活動 4-4. 研修実施者になる条件が、JC により検討され、承認される。

第 6 回 JC 会議では、下表のとおり研修実施者としての条件（案）が提示された。

表 2-30 : TO 研修実施機関に対する認証基準案

大項目	小項目	評価の視点
1 Tokkatsuプログラムに関連する組織的経験	1-1 特活あるいは類似プログラムにおける組織としての指導者研修の実績と経験	> 特活における研修や実践の経験（年数/回数） > 非認知教育分野における研修や実践の経験（年数/回数） > その他関連する研修や実践の経験（年数/回数）
	1-2 上記指導者研修におけるマネジメント体制と実績	> 現在組織として出すことが可能な学位やディプロマ、その他資格の名称 > 単位や資格付与基準の厳正な摘要 > 適切な講師数と受講者数の管理
	1-3 関連組織との連携実績	> 関連分野での技術交流等に関する国内外での友好機関の有無（特に日本式の特別活動や幼稚園での遊びを通じた学びの分野で交流が望ましい） > 具体的な協力プログラムの実践事例
2 TokkatsuプログラムのILOやカリキュラムに対応する手法や計画の適切性	2-1 研修実践における技術的アプローチとその手法	> TTCSのカリキュラムポリシーに沿った教育課程の体系的編成 > 特色の明示と変化への対応 > 理論指導と実践アプローチのバランス
	2-2 業務計画	> 研修目的についての具体性と明確性、簡潔な文章化 > 目的に応じた研修理念の設定 > 理論のみではなく、日本式の特別活動や遊びを通じた学びの実践的な研修手法の提供 > 複数年に渡る中長期的な計画への研修目的の反映 > 研修環境の整備と適切な運営
	2-3 講師配置と実施スケジュール	> TTCSの教育目的およびカリキュラムに即した講師の確保と配置 > TTCSに従事する講師の資質・能力向上への機会提供
3 Tokkatsuプログラムに任ずる研修責任者と講師の資格・能力の適切性	3-1 学歴と現在の職位	> 研修責任者と講師の学歴 > 研修責任者と講師の現在のポジション
	3-2 特活に関連する専門性や研修参加・業務経験	> 研修責任者と講師の特活や遊びを通じた学びにおける研修や実践の経験 > TTCS資格保有者の有無 > 特活（あるいは関連活動）に関する有識者との交流経験
	3-3 その他特活に類似する研修参加・実践に関する経験	> 研修責任者と講師の非認知（その他関連）教育分野における研修や実践の経験 > 関連資格の有無
	3-4 コース運営管理に関する研修責任者と講師の資質	> 研修責任者と講師の指導者研修経験（年数） > 講師として過去に担当したコースの概要 > バックアップ体制（他部署の支援があるかどうか）

出典：TTCS 報告書

活動 4-5. 開発された認証のクライテリアを使い、選定された TO を評価した結果が、JC により承認される。

本パイロットプロジェクトでは、9名の TO 候補に対し、2021年4月から9月の間に5種の評価方法を実施した。評価に先立ち、TO 候補者は Learning Curve¹⁸を用いて教員ガイドとモニタリング・マニュアルをオンラインで自己学習を実施した。

評価に際しては、新型コロナウイルスの渡航制限によりエジプトへ渡航できなくなった日本人 JC メンバーに代わって、3名の EJS スーパーバイザーが評価者の役割を担った。また、ビデオ録画や Zoom ビデオ会議、評価プロセスを遠隔で行うための工夫もなされた。

¹⁸ PMU が EJS のために選定した学習管理システムのプラットフォーム。

表 2-31 : TO 評価のための教材及びツール

	評価方法	教材・ツール
0	オンライン自己学習 以下 No.1~No.4 の評価前に、Learning Curve を活用したオンラインで自己学習を実施。	教員ガイド ¹⁹ ビデオ教材 ²⁰ 選択式テスト ²¹ オンライン自己学習のスケジュール
1	EJS 教員研修の評価 JC メンバーと EJS スーパーバイザーで構成された評価者により、TO が EJS 教員を対象に実施する研修セッションを観察、チェックリストに従って評価。	研修能力に関するチェックリストの基準 評価チェックリスト
2	筆記試験 特活プラスの主要 3 分野に関する選択式問題が出題された。	選択式テスト 筆記試験の評価基準
3	小論文作成 TO は特活プラスの主要 3 分野をテーマにそれぞれ 300 語の小論文を作成。	説明文 小論文問題 小論文の評価基準
4	グループ協議 特活プラスの 3 つの大きな分野で設定されたテーマについて、TO のグループ協議を行った。その様子はビデオに録画され、評価者はその中で各候補者を評価した。	説明文 グループ協議のテーマ グループ協議の評価基準
5	個別インタビュー 評価者のグループは、zoom アプリを使ったオンラインミーティングで各 TO にインタビューを行った。	個別インタビューの内容
N/A	ケーススタディ ²²	N/A
N/A	実務研修 ²³	N/A
N/A	学校長からの推薦状 ²⁴	N/A
N/A	モニタリングレポート ²⁵	N/A

出典：本プロジェクトチーム

¹⁹ TTCS 以外で本プロジェクトにて開発された教材。²⁰ 同上。²¹ 同上。²² 新型コロナウイルスの影響により、実施されなかった評価方法。²³ 同上。²⁴ 同上。²⁵ 同上。

表 2-32 : TO 評価の実際のスケジュール

	評価方法	実際のスケジュール
0	オンライン自己学習証明書	2021年3月28日～4月27日
1	TOによるEJS教員研修の評価	2021年4月10日～4月12日
2	筆記試験	2021年8月14日
3	小論文作成	
4	グループ協議	
5	個別インタビュー	2021年9月4日、7日、9日
N/A	ケーススタディ ²⁶	N/A
N/A	実践的な研修	N/A
N/A	校長による推薦状 ²⁷	N/A
N/A	モニタリング報告書	N/A

出典：本プロジェクトチーム



出典：本プロジェクトチーム

図 2-20 : TO 評価の写真

活動 4-6. TTCS パイロットプロジェクトの実施をとおして得られた教訓や提案をまとめ、TTCS パイロットプロジェクトの報告書が作成される。

本報告書作成時点で、JC メンバーにより、TTCS パイロットプロジェクトの実施から得られた教訓と提案をまとめた TTCS パイロットプロジェクト報告書案が纏められている。活動 4-2 の ILO、活動 4-3 の研修カリキュラム、活動 4-4 の研修実施者の条件、活動 4-5 の TO 評価のそれぞれに教訓や提案が挙げられており、特に活動 4-5 は、実施した 5 つの評価方法それぞれについてまとめられている。さらに、新年度からの本格実施に向け、次に挙げる 5 つの全体的視点での提案も加えられた。詳細は TTCS レポート（技術協力成果品 34）を参照。

- 実践的な評価活動の採用
- 評価プロセスの軽量化

²⁶ 同上。

²⁷ 同上。

- 評価人材育成の重要性と専属ユニットの設置
- 認証を受けた TO の役割の明確化
- TTCS 活動を通じた持続的な財源捻出

活動 4-7. TTCS を構築するためのプロポーザルを作成する。

本報告書作成時点で、PMU により新年度の評価対象 TO 候補を 2 年以上の経験を持つ約 70 人とする案が出されている。今後、JC メンバーとの協議を経て、今後の TTCS の構築のための提案書として纏められる予定である。

第3章 プロジェクトの成果

3.1 プロジェクト目標と指標

PDM では、本プロジェクトの目標を「選定された学校で「全人的教育」（特活プラス）モデルが活用される。」とし、OVI は「自分の学校で肯定的な変化を実感する児童の数が増える」と「自分の学校で肯定的な変化を実感する教員の数が増える」としている。

全人的教育モデルの活動は、2021年7月時点で、パイオニア校12校と、新たに設立されたEJS43校で実施されており、来年度にはEJSの数はさらに5校増える予定である。本プロジェクトでは、EJS周辺の既存校に特活プラスの活動を普及させることを計画し、既存校として35校が選ばれたが、新型コロナウイルスの流行とそれに伴う2019/20学校年度後半から2020/21学校年度にかけての学校閉鎖のため、これらの既存校との連携の進捗はまだ見られない。

本プロジェクトの目標の各指標に対する達成度と、パイロット校・パイオニア校およびEJSに関する調査から得られた根拠は以下に示すとおりである。パイオニア校においては、全人的教育の主なターゲットであった小学生児童の91%、教員も同じく91%が、学校に肯定的な変化があったと答えており、プロジェクト目標の選定された学校で全人的教育が活用され、期待された効果が生まれたと考える。EJSでは、学校に肯定的な変化があったとする児童の割合が、2回のエンドライン調査において共に統制校のそれより10%以上高かった。一方、学校に肯定的な変化があったと答えた教員は、最初のエンドライン調査では統制校の方が5%高かったが、2回目の調査では、EJSの方が20%高い結果と逆転している。児童と教員の結果を総合すると、EJSという選定された学校でも全人的教育が活用されて、期待された効果が得られたと考える。

表 3-1 : プロジェクト目標の達成度

OVI	達成度	根拠
1. 自分の学校で肯定的な変化を実感する児童の数が増える	高	<p><u>パイオニア校</u> パイオニア校を対象とした第2回効果測定調査(PS2)の時点で、小学校3年生の児童の91%、中学校1年生の児童の61%が、学年の初めに比べて学校に肯定的な変化があったと回答している。また79%の保護者が、学校教育を通じて子どもに肯定的な変化があったと考えている。</p> <p><u>EJS</u> 効果測定調査の最初のエンドライン調査(PS4)において、学校年度の初めから学校に肯定的な変化があったと考える保護者が、EJSでは84%、統制校では61%を占めた²⁸。最初のエンドライン調査から2年後、同じグループの保護者に同じ質問を聞いた結果(PS5)、EJSでは81%、統制校では70%となった。介入校の結果は3%減少したものの、統制校の割合よりも10%以上高くなった。</p>

²⁸ 調査時点で、EJSにはKG1、KG2、小学校1年生の児童しかおらず、質問紙に適切に回答することが難しいとの判断から、本調査では、児童に代わって保護者がアンケートに回答している。

OVI	達成度	根拠
2. 自分の学校で肯定的な変化を実感する教員の数が増える	高	<p><u>パイオニア校</u></p> <p>最初の 2 回の効果測定調査の結果を見ると、教員が自分の学校に肯定的な変化があったと考えている割合は、2017 年 10 月に実施されたベースライン調査 (PS1) の 93% からエンドライン調査 (PS2) の 91% へとわずかに減少したが依然非常に高い数値を維持している。</p> <p>校長や教員が肯定的な変化があったと回答した主な点は「学校がきれいになった」「児童が協力的になった」「児童が規律を守るようになった」「児童が授業や活動に積極的に参加するようになった」「児童が他人を尊重できるようになった」の 5 項目である。</p> <p><u>EJS</u></p> <p>2019 年と 2021 年に実施した効果測定調査の結果によると、学年の初めから学校に肯定的な変化を感じている教員は、最初のエンドライン調査 (PS4) では統制校で 89% だったのに対し、介入校 (EJS) では 94% を占めている。一方、2 回目のエンドライン調査 (PS5) では、EJS 教員の 90% が肯定的な変化を実感しているのに対し、統制校では 70% であり、EJS では学校に肯定的な変化があったと回答した教員の割合が 4% 減少したものの、依然として非常に高い割合を示している。</p>

出典：効果測定調査進捗報告書

3.2 成果と指標

本プロジェクトでは、以下のような成果と指標が設定された。

表 3-2：プロジェクトの成果

	成果
成果 1	「全人的教育（特活プラス）」モデル導入・普及のためのガイドライン文書・教材が開発される
成果 2	「全人的教育（特活プラス）」モデルを実践する行政官、校長、教員が育成される。
成果 3	全人的教育（特活プラス）」モデルを新設校から既存校に普及するシステムが、試行される。
成果 4	「特活プラスの研修・認証システム（以下、TTCS）」のパイロットプロジェクトの実施をとおして得られた教訓や提案をまとめ、TTCS プロポーザルが作成される。

出典：PDM (Ver.001)

2020 年 11 月 9 日に署名された最新の PDM の OVI と、その最終的な状況は以下に示すとおりである。

その内、成果 1 には 3 項目の OVI が設定されており、全て達成された。

表 3-3 : 成果 1 の達成度

OVI	達成度	根拠
1-1. エジプトにおける全人的教育モデル（特活プラス）の実践基準、研修教材、必須な教材等が準備される。	達成	<ul style="list-style-type: none"> • エジプト版全人的教育（特活プラス）のコンセプトが、2017年のEC1の公式文書として承認された。 • 小学校段階の低学年と高学年を対象に、特活のカリキュラムフレームワークを作成した。 • 教員ガイド（旧「導入ガイド」）が、以下のように発行された。 <ul style="list-style-type: none"> - 2017/18 学校年度（第1版） - 2018/19 学校年度（第2版および第2.5版） - 2019/20 学校年度（第3版） - 2020/21 学校年度（第4版） - 2021/22 学校年度（第5版） • 教員ガイドは第2版から、「学校運営と学級経営」「特活」「幼稚園での遊びを通じた学び」の3つの巻に分けて作成された。小学校の新カリキュラムで必修科目として一部採用された特活の教員ガイドには、児童の評価表が掲載されている。 • さらに、以下の2つの教材を開発した。 <ul style="list-style-type: none"> - EDU2.0における特活実施のためのハンドブック - モニタリング・マニュアル うち、後者には「特活プラス」のルーブリックが含まれている。 • コロナ禍で、エジプト政府が人の移動を制限していたため、上記の教材はオンラインの学習管理システムに搭載された。オンライン学習管理システムとして、最初はGoogle Classroom、次にPMUがEJSのために選定したプラットフォームであるLearning Curveが使用された。
1-2. 新設校建設に必要な基準、ガイドライン、施設や機材の標準設計が準備される。	達成	<ul style="list-style-type: none"> • GAEBにより、EJSの建物の基本原則、EJS設計ガイドライン、EJS標準設計図、42学級・22学級タイプの校舎3Dイメージ、新設EJS100校のデザイン案、設備・備品リスト、EJSの新規建設状況および安全性を確認するためのチェックリストが作成された。 • またEJS施設利用ガイドを作成し、教員ガイド（学校運営・学級経営）の付属資料の一つとした。
1-3. 新カリキュラムの全国研修の中の特活部分の強化にむけて研修教材が準備される。	達成	<ul style="list-style-type: none"> • 研修パッケージが開発されたが、本報告書作成時点では、国定カリキュラムの研修では使用されていない。

出典：モニタリングシート

成果2に設定された2項目のOVIは全てが達成された。ただし、プロジェクト期間終盤のコロナ禍での休校措置の影響で、当初計画した既存校への導入は開始されなかった。そのため、2-2は全人的教育の導入が成された学校に限定される。

表 3-4 : 成果 2 の達成度

OVI	達成度	根拠
2-1. MOETE関係者、県教育局（ムディリヤ）や地区事務所（イダーラ）関係者、校長らが「全人的教育（特活プラス）」に精通する。	達成	<ul style="list-style-type: none"> TOの約75%が筆記試験で十分な理解度を示した。 TOの約半数は、提出したモニタリング報告書の質から、特活プラスのモニタリング業務について十分な理解を示している。 約10名のTOが、本プロジェクトチームの観察によって十分なレベルの研修スキルを示し、後にTTCS合同委員会によって評価され、認証された。 すべての効果測定調査（PS3、PS4、PS5）において、全人的教育を支援するための学校や教員の能力に関する質問に肯定的な回答をしたEJSの保護者と教員の平均スコアは、一般校の保護者の平均スコアよりも有意に高くなっている²⁹。
2-2. 70%のパイロット校、新規校、既存校の教員が「全人的教育（特活プラス）」に精通する。	達成	<ul style="list-style-type: none"> 効果測定調査では、全人的教育を支援するための教員の能力に関する質問が7問あり、この質問に対して「強く同意する」または「同意する」と答えた教員の平均割合が92.28%であった。 しかし、新型コロナウイルスの流行により、既存校には本プロジェクトの介入が行われていない。

出典：モニタリングシート

成果3のOVIはすべて、部分的に達成されている状態、もしくは達成されなかった。この結果の要因は、新型コロナウイルス流行での学校閉鎖により、既存校へのモデル導入ができておらず、EJSで開催された数回の授業研究ワークショップへの参加を除き、期待された普及メカニズムを試行することができなかったためである。

表 3-5 : 成果 3 の達成度

OVI	達成度	根拠
3-1. 普及システムの研修に35校以上の対象校が参加する。	部分的に達成	<ul style="list-style-type: none"> EJSで開催された授業研究ワークショップには、既存校を含む100校以上の学校が参加した。 また、35校の既存校がある21県のムディリヤ関係者を対象としたオリエンテーションが開催され、既存校の校長も参加した。しかし、2020年3月以降、コロナ禍で学校が閉鎖されていたことから、上記以外の研修は開催されていない。

²⁹ 効果測定調査進捗報告（3）、（4）、（5）参照。

OVI	達成度	根拠
3-2.新規校から既存校へ経験共有する機会が少なくとも1回全ての既存校に対し提供される。	部分的に達成	<ul style="list-style-type: none"> EJS では、2018 年から 2019 年にかけて、100 校以上の近隣の一般校が参加する授業研究ワークショップを開催し、このワークショップに参加した学校の中から既存校が選ばれた。
3-3.全ての既存校が少なくとも月に1回、特活オフィサーによりモニタリングされる。	N/A	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスの影響で学校教育が中断されたため、本プロジェクトの既存校への介入は現在まで正式には開始されておらず、モニタリングも行われていない。 特活は EDU2.0 の新しいカリキュラム内容の一部であり、公式には既存校を含むすべての一般校で週に1回この活動を実践することになっているが、特活に関する適切な研修はまだ受けていない状態である。 また、小学校低学年を担当する EDU2.0 担当指導主事が、特活を含む新カリキュラムの科目や活動のモニタリングを行うために、MOETE によって各学校に配置されているが、彼らもこれまで特活に関する適切な研修を受けていない状態である。
3-4. 全人的教育（特活プラス）に関する責任が、関係する MOETE 職員の TOR に明記される。	部分的に達成	<ul style="list-style-type: none"> MOETE 省令 2019 年 8 月 8 日付第 17 号では、MOETE 傘下の複数の組織（ムディリヤやイダラなど）の全人的教育（特活プラス）に関する役割が明記された。 また、MOETE の関係者の TOR が普及戦略として作成されており、MOETE により公式に関係者に通知されることが期待されている。

出典：モニタリングシート

成果 4 には 2 項目の OVI があり、うち 1 項目は達成された。もう 1 項目は、コロナ禍の影響で TTCS の進捗が遅れた結果、本報告書作成時点でまだ作業が進行中であり、未達成である。

表 3-6：成果 4 の達成度

OVI	達成度	根拠
4-1. TTCS パイロットプロジェクトの実施を通じて得られたプロセス、教訓、提案の文書化	達成	<ul style="list-style-type: none"> TTCS パイロットプロジェクト報告書、ILO、TO 研修カリキュラム、TO 評価のための各種ツール、TO 研修機関の条件などが作成された。
4-2. TTCS 提案	進行中	<ul style="list-style-type: none"> 進行中

出典：TTCS 報告書

全体として、本プロジェクトでは、想定されていた成果のうち、達成されなかった項目もあるが、その主因は本プロジェクト後半に発生した新型コロナウイルス流行による活動制限の影響で、計画されていた既存校への介入や全国カリキュラム研修への関与が物理的に実施できなかったためである。

また、PDM には、プロジェクト目標達成の重要な前提条件として「基礎学校教育の方針が変わらない」と示されているが、エジプトの教育システムは、2018 年以降、EDU1.0 から EDU2.0 へと大きく変化していることもあり、本プロジェクトは 2018 年から 2021 年までの間、上記 2 点の大きな不確実性に直面しなければならなかったことに留意する必要がある。

3.3 その他

本プロジェクト期間中、EJS において全人的教育（特活プラス）活動として様々な注目すべき取り組みが提案され、実施された。これらの事例は特活の実践がエジプトにおいて個人レベルや社会レベルに肯定的な影響を与える多面的な可能性を示している。以下に、特記すべき取り組み事例を紹介する。

3.3.1 環境および社会的配慮

(1) 環境

EJS ハルガダでは、学校行事の一環として、児童が、観光業を主要産業とする当該地域で問題となっている、地域のゴミ処理をテーマにした劇を企画・上演することに決定した。この演劇上演会の様子は、保護者や政府関係者など広く一般に公開され、観客からも高い評価を得ており、児童たちだけでなく、地域社会にも環境への意識を促す特活の可能性を示している。

3.3.2 ジェンダー／平和構築等に対する配慮

(1) 包摂性とジェンダー平等

エジプトの一般校では、知的障がいのある児童は特別支援学校に通い、それ以外の児童は普通学校に通うという分離型の教育が行われていたが、EDU2.0 ではすべての学校で普遍的なインクルーシブ教育を目指す方向性を示しており、EJS ではこの方針に従い、EDU2.0 の立ち上げ年である 2018/19 学校年度の初年度から、障がいを持つ児童を限定的に受け入れて、インクルーシブ教育を実践しようとしている。この事実からも EJS は他の公立一般校と比較してインクルーシブな学校であると言える。

ある EJS では、学校での日常的な活動を障がいのある児童にとってより包摂的なものにする取り組みが行われた。学校に日直を導入した際、児童たち自らが、ダウン症の同級生が朝礼の国旗掲揚式中庭に国旗を掲揚する役割から除外されていることに気づき、この同級生にも同様にその役割を担う機会を与えるべきだと教員に提案した。この提案により、ダウン症の同級生は国旗掲揚の主役になることができたという事例が報告された。この取り組みはこの同級生保護者からも高く評価され、クラスや学校の配慮に謝意を表している。上記の例は、特活の実践が、学校内での包括性と多様性の尊重を促進する可能性を示している。

また、日直は当番による交代制であるという点が重要であり、これにより、障がいの有無や性別に関係なく、クラスの児童一人ひとりが順番にクラスのリーダーとして参加する機会が均等に与えられ、包摂性と男女平等を促進されることになる。これは、特活を通してエジプトに導入された教育活動が、包摂性とジェンダー平等を自然な形で実践するものであることを物語っている。

(2) 平和構築

「人類友愛国際デー」（2月4日）は、国籍、宗教、文化の違いを超えた平和と尊敬を促進するために国連が定めた日であるが、この日に多くの EJS が学校行事の一環として国際的な人類友愛をテーマとした様々なパフォーマンスを行い、そのビデオを EJS の公式 YouTube チャンネルに投稿³⁰した。この事例は、平和と寛容の大切さを広めるための特活の実践の可能性を示している。

³⁰ EJS の YouTube 公式チャンネルに掲載されている動画の 2 例は以下のとおり：
<https://www.youtube.com/watch?v=1PqC5upJwLg>
<https://www.youtube.com/watch?v=wWqXzq8r-K4>

第4章 共同レビューの結果

本報告書の作成に際し、PMU と協議し次の共同レビューをまとめた。

4.1 DAC 項目評価の観点からの考察

(1) 関連性

エジプト政府は 2015 年に「持続可能な開発戦略：Egypt Vision 2030」を発表し、その中で社会領域の 4 つの柱の 1 つである「教育とトレーニング」の、基礎教育サブセクターの戦略目標は以下のようになっている。

- 国際的なシステムに適合した教育制度の質の向上
- すべての人に差別のない教育を提供
- 教育制度とその成果の競争力強化

MOETE は 2018 年に EDU2.0 という大規模な教育改革の取り組みを開始し、次世代の若者に包括的な教育を提供することにより、若者が実用的なライフスキルを身につけ、人格を形成することを目指している。EDU2.0 は現在開始から 3 年目を迎え、2020/21 学校年度時点で小学校 3 年生まで導入が進んでおり、新カリキュラムでは、小学校 1 年生から 3 年生までの児童を対象に、日本式の全人的教育モデルの基本的な活動が特活として組み込まれている。このように、本プロジェクトがエジプト政府の政策的優先事項に直接的に貢献していることは明らかである。

学級レベルで見ると、上記 2.4.2 で記したように、特活を通じてエジプトに導入された教育活動は、ジェンダー平等を志向するインクルーシブなものである。また、特活の活動の中には、コロナ禍の生活の中で非常に重要な手洗いなどの衛生的な習慣を児童に教えるものも含まれているため、ポストコロナにおいても、本プロジェクトの妥当性は高い。

そのため、本プロジェクトのエジプト政府の政策との関連性は非常に高いと言える。

(2) 一貫性

エジプトでは、21 世紀の新たな課題に対応するため、2018 年から学校教育を従来のシステム (EDU1.0) から新たな「EDU2.0」に変革する大規模な教育改革に着手しており、世界銀行、ユニセフ、USAID などの開発パートナーは、様々なプログラムやプロジェクトを通じてこの取り組みを支援している。本プロジェクトもこの改革の一環として、EDU2.0 の新カリキュラムにおいて、児童の人格形成や非認知能力の育成を目的とした全人的教育の新しい教育活動を開発しようとしている。

また、日本政府は、学校教育などの社会インフラの海外輸出は相手国の人材を育成するための重要な資産であると位置づけており、これを受けて、文部科学省では、官民一体となって日本の教育を海外に紹介するプロジェクト「EDU-Port ニッポン」を立ち上げ、その開始年に作成された PR 資料に記載されている対象国の一つにエジプトも含まれている。

エジプトと日本は、テロや過激主義と戦い、平和、安定、発展、繁栄を促進するための重要な要素として、エジプトの若者の能力を高めることを目的とした EJET に合意している。EJET は、就学前教育から高等教育までを対象としており、日本政府とエジプト政府が出資するプロジェクトやプログラムが提供されている。本プロジェクトは、EJET の一環のプロジェクトの一つとして、EJET で提案されている次世代のエジプト人青年を輩出するための基礎教育段階での学校教育モデルを構築するものであり、本プロジェクトの一貫性も非常に高いものとなっている。

(3) 有効性

本プロジェクトのモニタリング活動の結果から、EJS では全人的教育モデル（特活プラス）の実践が比較的着実に改善されていることが示されている。これは、EJS の教員が全人的教育モデル（特活プラス）に関する教員ガイドに基づき適切な研修を受け、教員ガイドに示された活動について TO による定期的なモニタリングを受けたものであることがベースライン／エンドライン調査の結果によって裏付けられており、本プロジェクトの効果は非常に高いことが明らかとなっている。さらに、2019年4月と2021年3月の調査では、PS4 と PS5 の両方において、「学校で肯定的な変化が起きているか」という質問に「強くそう思う」「そう思う」と答えた EJS の校長、教員、保護者の割合が、一般校のそれよりも有意に高いことが分かっている。EJS では、統制校よりも多くの保護者や教員が肯定的な変化を実感しており、本プロジェクトの目的である「選定された学校で「全人的教育」（特活プラス）モデルが活用される。」を達成できる可能性が高いことを示している。したがって、本プロジェクトの目標達成のための介入の効果は高いと言ってよい。

さらに、エンドライン調査での分析では、EJS と一般校との比較で、学校・クラスの規模、児童と教員の比率、保護者の教育レベルの違いなどいくつかの条件の制約はあるものの、本プロジェクトの介入と児童の非認知能力の向上との間に強い関連性があることが示されている。

(4) 効率性

PDM の成果 1 に関して、PMU に所属するコア TO の協力により、必要なすべての教員ガイド、マニュアル類、関連教材が開発され、継続的に更新された。本プロジェクトでは、TO に様々な能力開発プログラムを提供し、TO のうち約 10 名が、現在教材開発に従事している。2020年3月から2021年2月にかけて、新型コロナウイルス流行の影響による渡航制限のため、プロジェクト活動の実施が日本からの遠隔作業となったことから、Zoomなどのオンライン会議ツールを使って頻りに事前連絡や調整を行う必要があり、当初の計画よりも本プロジェクトへの投入は増加した。また、本プロジェクト期間が 7 か月延長され、2020/21 学校年度の全学期をカバーすることになったことから、本プロジェクトの投入がさらに増加したが、期間延長により、当初予定していなかった教員ガイドの追加版を作成することとなった。したがって、新型コロナウイルスによる遠隔作業の影響を受けた期間を除いて、効率は比較的妥当なものであったと考える。

成果2については、3回の本邦研修に合計60名の参加者があった。このうち、TOは54名で、その中の約10名が現在カウンターパートとして活躍している。これらTOは現在、本プロジェクト開始当初は日本側が主導で行っていた教員ガイドの開発、新TO・教員の研修、特活のプロモーション活動などに携わっており、TOの能力開発は順調であるといえる。新型コロナウイルス流行前、PMUから、EJSや学校を支援するTOに対するサポートを得るために、学校訪問の分野での日本人専門家の追加投入の要望があったため、JICAでは当初の予定よりも日本人専門家の投入を増やすこととしたが、新型コロナウイルス流行によりこの計画は中断され、同増員分はコロナ禍での遠隔作業に流用されることになった。

本プロジェクトによるEJS校長や教員の能力開発は主にムディリヤとPMUのTOを通して行われたが、エンドライン調査により、全人的教育を支援するための学校と教員の能力は、EJSでは一般校よりも有意に高いことが明らかになっている。

全体を通して、この成果に対する投入は、計画時に期待されていた変化を得るに十分なものであり、この成果の効率性も高いと推測される。

成果3に関しては、2018年から2019年にかけてEJSで開催された授業研究ワークショップに、近隣の学校数校を招待し、このワークショップに参加した学校の中から、既存校を選定した。既存校への導入の準備の一環として2019年11月に既存校を管轄するムディリヤの担当者向けのオリエンテーションを実施したが、新型コロナウイルスの影響により、期待されていたレベルでの全人的教育モデルの実施は具体化していない。このように、成果3の効率性は高くないが、上記の不可抗力的出来事によるものである。

成果4に関するTTCSパイロットプロジェクトは、当初設定された4つのコンポーネントのうち、TOのILO（コンポーネント1）、TOの研修カリキュラム（コンポーネント2）、JCが開発・承認したツールを用いたTOの評価（コンポーネント3）の3つの要素をこれまでに達成している。このパイロットプロジェクトのすべての活動はコロナ禍の下に実施され、新型コロナウイルス感染予防措置をとりながら、このパイロットプロジェクトを運営することは、エジプト側にも日本側にも大きな負担となった。JCメンバーの都合により、本報告書作成時点ではコンポーネント4はまだ最終決定されていないが、新型コロナウイルスの状況を考慮すると、この成果4の達成度は非常に高いといえる。

全体を通じて何度か本プロジェクトの投入量を増やしているが、これは新型コロナウイルスの流行により日本から遠隔で作業をする必要があったことが主な原因である。しかし、この遠隔作業の投入は結果的には、TOのような現地の人材が、教材開発や他のTOや教員の能力強化に積極的な役割を果たすようになるという、良い副次的効果をもたらした。

(5) インパクト

プレ・パイロット段階と本プロジェクト段階で全人的教育モデルを実践した学校の経験により、MOETEはEDU2.0の新カリキュラムの中に「特活」を採用することとし、小学校1年生、2年生、3年生の時間割に週45分間の授業が割り当てられることになった。既存校では、新カリキュラムの活動の実施はまだ観察できていないが、これは、既存校に対する研修、モニタリング、フィードバック・セッションがほとんど行われなかったためだが、EDU2.0の普及に合わせて、今後すべての学校に上記の何らかの資源が割かれていくことで、

上位目標である「エジプトの公立学校が、「全人的教育」（特活プラス）モデルを採用する。」の達成可能性は高まると考える。

EDU2.0 の新カリキュラムは、公立学校だけでなく、私立学校やアズハル機構³¹傘下の学校にも適用されており、これらの学校の中には、新カリキュラムに導入された特活を学ぶことに興味を示した学校もあった。また、エジプトの大学の中には、日本式の全人的教育、特に「特活」に関心を示し、EDU2.0 の新カリキュラムの「特活」を扱うディプロマプログラムの開発に興味を示している大学もあることは特筆すべきである。さらに、アズハル機構も、EJS と同様のモデル校を傘下に置くことに関心を示している。

したがって、本プロジェクトの影響度は高いといえる。

(6) 持続可能性

本プロジェクトの持続可能性は向上していると考えられる。

PDM で設定された「成果 1」に関連して、コア TO は、本プロジェクトの初期段階から行ってきた研修教材の開発に加えて、EDU2.0 カリキュラムフレームワークにおける期待される児童の変化とそれに対応するための児童の評価方法の開発、教員ガイド、学校でのモニタリングのためのルーブリック、好事例の収集など、の教材開発に取り組むようになっており、現在では、全人的教育モデルの新しい活動を追加するにあたり、新しいアイデアを提案できるレベルにまで達している。加えて、今後全国の学校に全人的教育を普及していくことを目的とした普及戦略がまとめられた。

成果 2 については、PMU の能力は確実に強化されている。PMU には 3 名のコア TO が在籍し、上述の教材の開発や教員の能力開発に大きな貢献をしている。さらに、MOETE 本省の教科審議官となった元 PMU 職員や、各県のコア TO も、時間の許す限り本プロジェクト活動を支援している。PMU とコア TO は、特活導入研修やリフレッシュ研修などのセッションの多くを自律的に進行することができるようになっており、2019/20 学校年度の第 2 学期から 2020/21 学校年度末までの間、新型コロナウイルスにより EJS を含むエジプトの全学校が閉鎖されたため、作業が 3 回中断されたものの、多くの TO が平時の EJS の定期的なモニタリングは実施する力がついており、新型コロナウイルスによる中断前の時点で、30 校以上の EJS が特活ルーブリックの小学校段階の「学級会」と「学級指導」、幼稚園段階の「遊びを通じた学び」でステップ 3 以上に達していた。

成果 3 に関して、当初は EJS が近隣の学校のモデルとなって普及を行う仕組みが計画されたが、新型コロナウイルスの流行により、正式に試行されることはなかったが、EJS が授業研究ワークショップを開催し、当時の既存校の候補校を含む近隣の学校を招待した試験的な活動を行った。

成果 4 は、PMU の強い関心を受けて、本プロジェクトの後期に追加された活動であるが、コロナ禍の厳しい状況下で、ドラフト・カリキュラム、オンライン教材、評価ツールなどの必要文書・教材に関しては予定していた成果品のほとんどがこれまでに作成を終えている。これらの資料を活用して、TTCS パイロットプロジェクトで試行したプロセスを実践

³¹ アズハル機構は、スンナ派のイスラムの最高権威とも言われるアズハル大学を擁する公立の教育機関で、その傘下には小学校、中学校、高校も備えている。

することは、研修や評価を行うための十分な財源と人材が確保されれば、エジプトである程度継続することができると考えられる。

懸念されるのは、今後の日本の大学教授等の特活の有識者陣の関与である。もし、将来の TTCS でも、パイロットプロジェクトのように同人材の関与が強く求められた場合、同人材に対するコストをカバーするための財源が必要になる可能性がある。

EJS のように既に特活が導入されている学校に関しては、これまでに実践してきた KG1 から小学校 3 年生までの学年での実績や、同学年での実践に向けて開発された教員ガイドの作成状況などの観点から、本プロジェクトの持続可能性は、非常に高いと思われる。しかし、小学校 4 年生から中学校 3 年生までについては、現時点では持続可能性は不明である。さらに、全人的教育モデル（特活プラス）の実践を全国の一般校に普及させること、及びその持続性が次の段階の課題である。

第5章 プロジェクト実施運営上の工夫、教訓

5.1 プロジェクトの実施に影響を与えた主な課題と運営上の工夫

(1) EDU2.0 教育改革

本プロジェクトが 2018/19 学校年度の開始に向けて準備を進めている中で、2017 年に MOETE の新大臣が就任し、「EDU2.0」と呼ばれる大規模な教育改革が開始された。

本プロジェクトでは EDU2.0 を担当する新大臣のアドバイザーと何度も協議を重ね、その結果、MOETE は小学校低学年向けの EDU2.0 の新カリキュラムの中に、全人的教育モデルを必須活動として週に 45 分を割り当てることが決定された。

(2) PMU の体制・予算・人材育成

上記の EDU2.0 の準備と重なった本プロジェクト実施期間前半に、PMU のスーパーバイザーが 3 回、PMU のディレクターが 1 回変更となった。現在のスーパーバイザーと PMU ディレクターが任命されるまでの 2 年間、エジプト側との意思決定は容易ではなかった。PMU 職員についても、より良い仕事を求めて多くのスタッフが退職したことから、一時、最小人数で 1 人にまで減少した。エジプト大統領が EJS の第一陣の開校を次年度に延期することを決定したのもこの時期であった。

また MOETE の通常の予算配分には PMU の独立した予算枠がないため、本プロジェクトにかかわる PMU の業務運営に必要な費用はすべて MOETE の他の財源か本プロジェクトの財源によって賄われていた。カウンターパート組織のプロジェクトマネジメントの脆弱性は、初期の段階で本プロジェクトに大きな影響を与えた課題であった。

本プロジェクトでは PMU の体制強化に向けて MOETE 関係者に継続的に働きかけ、MOETE は 2017 年に 2 回、2019 年に 1 回、省内における PMU の正当性を高めるための省令を出し、現在のスーパーバイザーとディレクターを PMU に採用して以来、状況が安定している。

また予算措置に関しても、JICA との協議により、EJEP の枠組みで PMU の能力を財政的に支援・強化するカウンターパート基金（750 万米ドル）の提供が、2019 年 5 月に日本大使館、MOETE、エジプト国際協力省の間で合意され、PMU への資金援助が可能となった。

人材育成に関しては、当初 PMU には全人的教育モデル（特活プラス）活動の分野の技術的専門家はいなかったため、本プロジェクトでは国内外の研修プログラムを通じて、MOETE の県レベルの担当者の能力開発を行い、これら人材がのちに教員の能力開発と学校レベルでの全人的教育モデル活動の実践のモニタリングを担当する TO となった。その後、全人的教育モデルの地域研修のトレーナーとして活用できる優秀な TO が数名選ばれた。これらの TO は現在コア TO と呼ばれ、うち数名は現在 PMU の研究開発ユニットに所属し、全人的教育モデルの様々な教材の開発に従事している。

(3) 新型コロナウイルス流行

エジプトでは、2020年2月中旬に外国人旅行者の間で新型コロナウイルスの最初の症例が報告され、政府は3月15日までにEJSを含むすべての学校を閉鎖することを決定した。新型コロナウイルス感染の発生により、エジプトを発着する国際線の運航が停止されるとの発表を受け、本プロジェクトチームの日本人専門家は全員、この措置が取られる前にエジプトから離任した。2020年3月から2021年3月にかけて、エジプトでは2度の学校閉鎖を余儀なくされた。さらに2021年4月末に新型コロナウイルスの第3波の感染増に直面し、その時点で2020/21学校年度を終了することが閣議決定された際にも、同様の措置がとられた。

上記の期間中、児童が学校で教員と直接顔を合わせる機会が極端に少なくなったため、全人的教育モデル（特活プラス）の活動だけでなく、他の教科学習や教科外活動にも大きな影響が出ることになった。また、新型コロナウイルスの影響で、対面式の研修が認められなくなったため、TOや教員の能力開発活動にも影響が出ることになった。既存校に対する介入の開始も新型コロナウイルスの流行の影響を受け、残念ながら本プロジェクト期間終了までに開始することができなかった。さらに、EJSの校長、副校長、教員が日本に渡航し、1か月間の研修を受けるEJEP-HRDプログラムは、新型コロナウイルスの影響によって第2陣以降の渡航は中止を余儀なくされた。そのため、2020年2月以降、校長、副校長、教員、TO等がこの研修を受ける機会はなくなってしまった。

新型コロナウイルス流行影響で、現地渡航が出来なくなった期間中、本プロジェクトではWhatsAppやZoomなどの様々なアプリケーションを通じてPMUやプロジェクト・ナショナルスタッフと密に連絡を取り合い、約1年間にわたり遠隔で本プロジェクトの活動を進めてきた。この遠隔作業の結果、日本人不在期間における現場での活動においてTOのような現地の人材が主体性を発揮し、教材開発や他のTO・教員の能力強化において積極的な新しい提案を行うなどの役割を果たすようになるという、良い副次的効果も見られた。

5.2 教訓

パイオニア校を対象に実施したベースライン・エンドライン調査の結果から、90%以上の校長や教員が、自分の学校で正の変化を感じていた。その理由として、312の回答数の内、116は学校がきれいになったことを挙げ、97は児童が協力的になったこと、93は児童の生活習慣がよくなったこと、同じく93は児童の規律がよくなったこと挙げた。

同様の変化は、EJSを対象としたベースライン・エンドライン調査でも観察されており、一般校と比較して、校長、教員、保護者の全てで肯定的な変化を感じた割合がより大きい結果となった。それらの結果から、全人的教育（特活プラス）モデルが適切に実施されれば、EJSに限らず一般校でも学校に正の変化を生む可能性は非常に高いと言える。

同調査からはまた、EJSではほぼ全ての教員が教員ガイドを入手し、研修に参加する機会を得たと回答した一方、一般校ではその数が非常に限られていた。そこから、適切に研修が行われて情報が伝達されれば、全人的教育モデルが企図するインパクトを全国の一般校にもたらす可能性は高い。

第6章 プロジェクト終了後の上位目標達成に向けた提言

6.1 上位目標達成の見通し

今回の本プロジェクトの上位目標は以下のとおり。

上位目標 エジプトの公立学校が、「全人的教育」（特活プラス）モデルを採用する。

(1) 政策

MOETE には、EJS と全人的教育に関連するいくつかの省令があり、最新の省令（MOETE 省令 2019 年 8 月 8 日付第 17 号）には、「全人的教育モデルを実践するために、県レベルのムディリヤとその関連局イダラのユニットが協力しなければならない」という記述がある。PMU は、EJS だけでなく、他の学校の実践を支援するために、将来的には各ムディリヤに特活ユニットを設置することを検討している。

MOETE は本プロジェクトの継続を提案し、その後、2021 年 5 月に JICA との間で「特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト」と題した新プロジェクト（以下「後継プロジェクト」という。）に合意した。後継プロジェクトの上位目標は、「普及戦略内で 2030 年に目標としている学校数が、全人的な教育モデル（特活モデル）を十分に実践していること」となっており、前プロジェクトの上位目標と一致している。上記の後継プロジェクトが合意された R/D では、普及に関わる SOP を作成することが提案されている。

普及戦略を検討する中で、PMU との間では、普及プロセスにおける作業工程、関係する MOETE の部局や担当者、学校やその教職員などに期待される役割を設定するように努めている。また、普及戦略では、普及対象となる学校数、トレーナー数、教員数などの数値目標についても記載している。

(2) カリキュラム

EDU2.0 の新カリキュラムでは、現時点では小学校 1 年生から 3 年生までと限定的ではあるが、全人的教育のモデルの重要な項目が既に取り入れられており、「特活」の名称で 45 分間が時間割に割り当てられている。特活用のカリキュラムフレームワーク、児童評価フォーマット、教員ガイドが 3 学年分開発され、MOETE は小学校の高学年段階でも特活を継続する意向を示している。

(3) 人的資源

ベースライン調査とエンドライン調査（PS3、PS4、PS5）の結果、上記 2.1.3 節にあるように、一般校の教員は、EJS の教員を除き、特活について適切な研修を受けていないことから、学校での特活を実践できていないことが明らかとなった。今後 MOETE が提供する様々な教員の能力開発の機会の中に、既に関連された教員ガイドや研修教材を有効活用し、

全人的教育の要素を取り入れてもらう必要がある。加えて、コロナ禍で2年弱に渡り休止しているEJEP人材育成プログラムで、EJS教員のみならず、一般校から選ばれている既存校の教員も本邦研修の対象にすること一案である。ただし、当初2回の開催時に課題となった、エジプトの全人的教育の中心を成す特活の理論を学ぶセッションやその実践観察を強化してもらう必要がある。

さらに、TOを認証し、特活の実践・普及に関わる研修プログラムを実施する体制を確立するためのTTCSのパイロットプロジェクトが現在進行中であり、同TTCSのシステムは、今後学校の校長や教員など、全人的教育モデルにおけるTO以外の他アクターにも適用されることが期待されている。

(4) 財源

本事業期間の前半では、PMUがMOETEの恒常的な部署ではなく、予算費目の配置がされないことから、様々な機会に活動に支障が生まれた。その後、円借款事業「エジプト・日本学校支援プログラム（エジプト・日本教育パートナーシップ）」が開始されると、事態は大幅な改善を見せた。そこで、円借款事業で利用可能となる資金を、全国普及で必要となるPMUの活動に振り向けることを、MOETEに提案していくことも一案である。さらに、世銀がエジプトで実施中のプログラムが、特に幼稚園教育の領域で全人的教育に関心を寄せていると聞く。同プログラムの資金を活用したMOETEの施策の中で、本事業が推進してきた幼稚園での全人的教育の手法を普及していくことも検討の価値がある。

(5) 全体

結論として、本プロジェクト終了後、上位目標を以下の理由で達成できる見込みである。

- MOETEは、EJS、パイロット校・パイオニア校、既存校に限らず、全国の一般校へ全人的教育モデルを普及させるために重要な役割を担う関係機関を示した省令を発出している。
- MOETEは、全国の一般校への普及戦略で設定した学校数を目標とする後継プロジェクトについて、既にJICAと合意している。
- MOETEは、EDU2.0の新カリキュラムにおいて、少なくとも小学校高学年までの段階で特活を導入する方針を維持している。
- 本プロジェクトのベースライン調査とエンドライン調査の結果から、一般校の教員は特活に関する十分な研修を受けていないことから特活を実践できていないことが分かったのに対し、特活に関する適切な研修を受けたEJSの教員は、特活を実践するレベルが高いことが明らかになっている。このことから、一般校の教員においても適切な研修を受けることができれば、全人的教育モデルを実践できる可能性が高いことが示されている。

6.2 上位目標を達成するためのエジプト側の活動計画と実施体制

前述のとおり、MOETE と JICA は本プロジェクトの後継プロジェクトについて、以下のとおりの上位目標とプロジェクト目標を設定することに合意した。

上位目標 普及戦略で 2030 年を達成目標として設定した数の公立校において、全人的教育モデルが適切に実施されている。

プロジェクト目標 普及戦略で 2027 年を達成目標として設定した数の公立校において、全人的教育モデルが適切に実施されている。

これらは、「エジプトの公立学校が、「全人的教育」（特活プラス）モデルを採用する。」という本プロジェクトの上位目標に沿ったものである。

(1) 活動計画

2021 年 5 月 4 日付の R/D には、Appendix 3 として以下の「活動計画（PO）」が記載されている。同 PO の中では、7 分野の専門家、PDM 成果 1 に対する活動 8 項目、成果 2 に対する活動 4 項目、成果 3 に対する活動 8 項目が提案されている。

1.7 Provide capacity development program to PMU staffs (on both managerial and technical aspects) to assure quality implementation and the dissemination of the Holistic Education model in liaison with the related institutions.	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
1.8 Provide capacity development program to R&D Team and TOs, referring to TTCS proposal*.	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
Activities	Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				6th Year			
Sub-Activities		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
Output 2: Tokkatsu model curriculum, teachers' guide, and other materials necessary for implementing the Holistic Education model are enriched/extended.																									
2.1 Develop/approve the Tokkatsu model curriculum, teachers' guides and necessary materials to practice the Holistic Education model (for Grades 5 to 9)*.	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
2.2 Revise and approve the Tokkatsu model teachers' guides and materials to practise the Holistic Education model*.	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
2.3 Prepare training modules and materials on Mini-Tokkatsu tailored for the National Curriculum Training conducted under the supervision of MOETE and/or any assigned entities*.	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
2.4 Prepare training modules and materials on Mini-Tokkatsu, tailored for the new CPD program planned by MOETE/PMU and to be organized by Mudirrya/Idarah or any other entity designated by MOETE*.	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
2.4 Provide content (such as training module, teacher's guide etc.) and advice to different sectors (education faculties and private schools) to promote the Holistic Education model.	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
Activities	Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				6th Year			
Sub-Activities		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
Output 3: The human resource to practise the Holistic Education model at the school level is developed.																									
3.1 Conduct training for principals and teachers of EJS, Existing schools and Pioneer schools*.	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
3.2 (TOs) Supervise schools to strengthen the practice of the model at the school level*.	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
3.3 Train the trainers of the National Curriculum Training on Mini-Tokkatsu, in phases and in a decentralized manner	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
3.4 Dispatch TOs to the CPD program organized by Mudirrya/Idarah or any other entity designated by MOETE*	Plan	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							
	Actual	[Gantt chart showing activity from Year 1 to Year 6]																							

出典：R/D（2021年5月4日付）

図 6-2：後継プロジェクトの PO 案（2 ページ目/3 ページ）

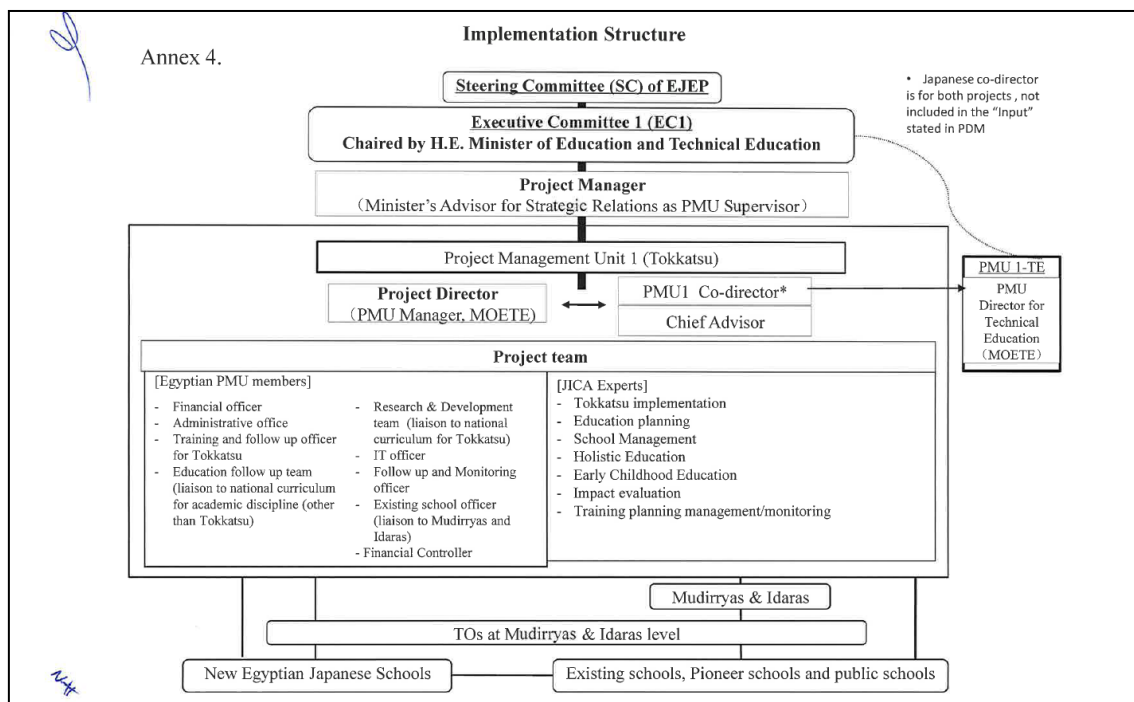
3.5 Conduct regular experience-exchange program with the Mudiriyas and Idaras, in phases and in a decentralized manner*.	Plan																								
	Actual																								
3.6 Conduct training and provide advice to Supervisors for Education 2.0 on Mini-Tokkatsu*.	Plan																								
	Actual																								
3.7 (Supervisors for Education2.0) Supervise schools to strengthen the practice of the model at the school level*.	Plan																								
	Actual																								
3.8 Consider how the TTCS Pilot Project will be reflected to other categories of practitioners (principals, teachers Supervisors for Edu2.0 etc.)	Plan																								
	Actual																								
Duration / Phasing	Plan																								
	Actual																								
Monitoring Plan	Year	1st Year				2nd Year				3rd Year				4th Year				5th Year				6th Year			
		I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV	I	II	III	IV
Monitoring	Plan																								
	Actual																								
Executive Committee 1	Plan																								
Actual																									
Set-up the Detailed Plan of Operation	Plan																								
Actual																									
Submission of Monitoring Sheet	Plan																								
Actual																									
Monitoring Mission from Japan	Plan																								
Actual																									
Joint Monitoring	Plan																								
Actual																									
Post Monitoring (3years after the project completion)	Plan																								
Actual																									
Reports/Documents	Plan																								
	Actual																								
Public Relations	Plan																								
	Actual																								
	Plan																								
	Actual																								

出典：R/D（2021年5月4日付）

図 6-3：後継プロジェクトの PO 案（3 ページ目/3 ページ）

(2) 実施体制

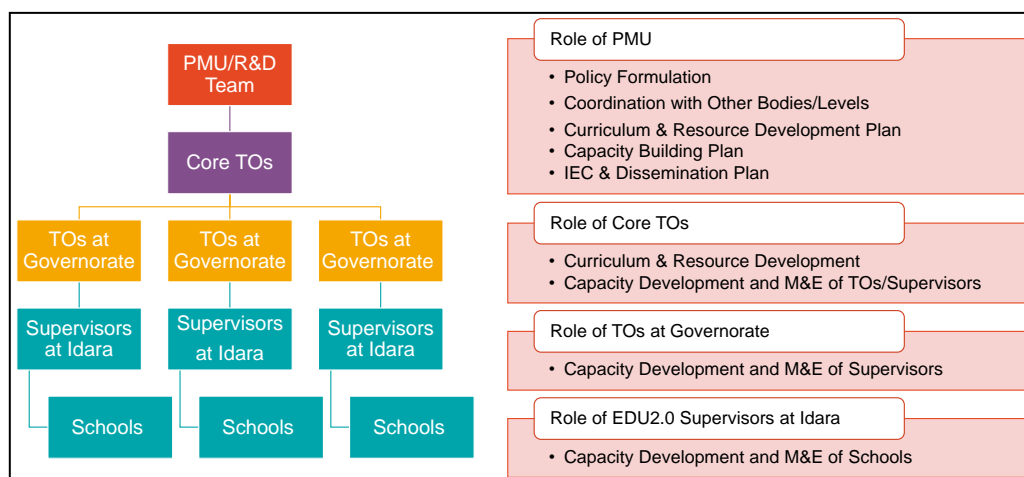
MOETE と JICA は、2021 年 5 月 4 日付の R/D において、下図に示すとおり、後継プロジェクトの実施体制について、PMU 内の R&D チームと既存校担当者が、新カリキュラムに関わるムディリヤおよびイダラとの連絡を担当するという事で合意している。MOETE の地方教育局であるムディリヤとイダラは、PMU とパイロット校やパイオニア校、既存校、その他の一般校などの学校との間に配置されている。



出典：R/D（2021年5月4日付）

図 6-4：後継プロジェクトの実施体制

PMU と共同で作成した普及戦略（ワーキングドラフト）にある下表では、PMU から学校へ、コア TO、ムディリヤの TO、イダラの EDU2.0 担当指導主事を経由して普及に関連するコミュニケーションを行っていくことを提案している。また、全国的な普及活動における学校の能力開発やモニタリング・評価は、イダラの EDU2.0 担当指導主事が担当する。



出典：普及戦略ワーキングドラフト（2021年9月現在）

図 6-5：実施体制

6.3 エジプト側への提言事項

本プロジェクトでの主な重点は、全人的教育（特活プラス）という、エジプトではまったく新しい教育・学習方法を導入する最初の試みとして、エジプトの学校の教育環境や状況に適用・適合できる全人的教育モデルを試験的に開発することであった。MOETEはこの点で大きな前進を遂げ、必要な要素をエジプトの状況に合わせて抽出した特活の活動のセットで構成される「ミニ特活」を「エジプトの特活モデル」のプロトタイプとして開発し、2018/19 学校年度から EDU2.0 カリキュラムの一部として公式に組み込むことに成功した。

上記の本プロジェクトの成果を基盤として、今後全国の学校に全人的教育（特活プラス）の取り組みを普及させる後継プロジェクトにつなげるために、MOETEには、全人的教育（特活プラス）の普及・実施に関わる中央省庁間の横の連携、および県レベル・区レベル・学校レベルとの縦の連携をさらに図ることが強く求められる。

後継プロジェクトでは全国的な普及のための研修の対象となる学校数や教育関係者の数が非常に多いことを考慮すると、エジプトにおける今後の特活導入の推進を持続させるためには、そのためには、地方自治体レベル、特にムディリヤとイダラ、及び学校に権限を委譲し、分権的な実施体制を確立して、各地域での現場の取り組みを促進・加速させることが特に重要である。

そのため、本プロジェクトの後継プロジェクトで作成される予定の SOP は、全人的教育（特活プラス）の普及におけるさまざまな関連組織の役割と責任を明確にするための重要な文書となる。MOETE が、この文書の起草過程において、できるだけ多くの関係者を巻き込んで、関連するすべての関係者が各々の役割を認識し、普及プロセスのために一丸となって協働することができるようにすることが望まれる。

6.4 プロジェクト終了後から事後評価までのモニタリング計画

上記 4.1 および 4.2 で説明したように、「エジプトの公立学校が、「全人的教育」（特活プラス）モデルを採用する。」を上位目標とする現在の本プロジェクトに続いて、2021 年 10 月から「特別活動を中心とした日本式教育モデル発展・普及プロジェクト」と題した 6 年間の後継プロジェクトが開始される予定である。このプロジェクトの上位目標は、「普及戦略で 2030 年を達成目標として設定した数の公立校において、全人的教育モデルが適切に実施されている」ことである。そのため、PMU と協力して、後継プロジェクトで設定された上位目標の達成度を評価するためのモニタリング・評価ツールや手順を設計・開発する必要があり、特にモニタリングの設計・計画は、後継プロジェクトの初期段階で実施されることが期待される。後継プロジェクトでは目標とする学校数が本プロジェクトのものよりはるかに多くなるため、後継プロジェクトではより広範な人的資源をモニタリング作業に活用する必要がある。

後継プロジェクトでは、ベースライン調査（2021 年）、中間調査（2024 年）、エンドライン調査（2027 年）の三回の評価調査を実施する予定であり、同評価調査では、学校での特活の実践状況や、児童や教員への影響を定量的に評価し、また特定の学校の特活の実践状況を一定の間隔で観察することで、特活の質の変化を評価する。

添付資料

添付資料 1

プロジェクトによる投入

		現地人月(Field MM)	国内人月(Home MM)	合計人月 (Total MM)
		計画(Plan)	計画(Plan)	計画(Plan)
		実績(Actual)	実績(Actual)	実績(Actual)
長期専門家 Long-term Expert				
1	PMU1教育アドバイザー 中島基恵	Education Advosor for PMU1 Mr. Nakajima Motoe	28.00 0.00	28.00 28.00
	実績小計 (2021年10月時点)	Total (As of October 2021)	28.00 28.00	28.00 28.00
短期専門家 Short-term Experts				
1	総括・教育計画1 加藤徳夫 / 相馬敬	Chief Advisor / Education Planning 1 Dr.Kato Norio / Mr.Soma Takashi	7.07 5.53	3.20 3.15
2	副総括・教育計画2・学校運営3 瀬戸口暢浩	Deputy Chief Advisor / Educaion Planning 2 / School Management 3 Mr.Setoguchi Nobuhiro	26.50 27.86	8.90 8.90
3	学校運営1・モニタリング3 田中清文	School Management 1 / Monitoring 3 Mr. Taknaka Kiyofumi	16.70 17.17	9.35 9.35
4	学校運営2 南雲達也	School Management 2 Mr. Nagumo Tatsuya	6.97 6.50	0.20 0.20
5	全人的教育 (特別活動) 1 杉田洋	Whole Child Education (Tokkatsu+) 1 Prof. Sugita Hiroshi	3.53 3.54	1.35 1.41
6	全人的教育 (特別活動) 2 齋藤健二	Whole Child Education (Tokkatsu+) 2 Mr. Saito Kenji	12.80 12.60	7.10 7.30
7	教育評価・モニタリング1 渡辺真美	Education Evaluation / Monitoring 1 Ms. Watanabe Masami	13.54 13.14	5.83 6.24
8	教育評価・モニタリング2 青柳 (菊池) 美帆子 / 佐藤浩司	Education Evaluation / Monitoring 2 Ms. Aoyagi (Kikuchi) Mihoko / Mr. Sato Koji	10.17 9.77	9.78 10.18
9	学校施設・機材 磯野哲郎	School Facility and Equipment Mr.Isono Tetsuro	4.00 3.90	0.50 0.60
10	幼児教育 関根令子	Early Childhood Education Ms. Sekine Reiko	13.67 13.77	5.53 5.53
11	研修計画①・全人的教育 (特別活動) 3 都甲貴廣	Training Planning Management 1 Mr. Togo Takahiro	26.00 25.90	10.35 10.45
12	業務調整/研修計画② 石原 (鈴木) 加奈子 / 北林真弓 / 赤崎 (大橋) 悠紀	Project Coordinator / Training Planning Management 2 Ms. Ishihara (Suzuki) Kanako / Ms. Kitabayashi Mayumi / Ms. Ohashi Yuki	4.00 4.00	1.35 1.35
13	研修計画③ 高木宏美	Training Planning Management 3 Ms. Takagi Hiromi	0.00 0.00	1.95 1.95
14	教育政策分析・普及 北館尚子	Education Policy / Dissemination Ms. Kitabayashi Naoko	0.00 0.00	3.25 3.25
15	業務調整②/研修計画④ 岸本	Project Coordinator 2 / Training Planning Management 4 Ms. Kishimoto Saki	0.73 0.73	0.00 0.00
	実績小計 (2021年10月時点)	Total (As of October 2021)	145.68 144.41	68.64 69.86
	実績合計 (2021年10月時点)	Total (As of October 2021)	173.68 172.41	242.32 242.27

No	Position	Feb-17	Jul-17	Feb-18	Jul-18	Feb-19	Jul-19	Feb-20	Jul-20	Note	
Advisor/Supervisor to EJS Project											
1	Advisor for the Minister for EJS Project			Dr. Reda Abouserie (from July 2017) -PT	The advisor for strategic affairs mentioned below has been taking this position also until the time of this report.						
2	Minister's Assistant for National Projects and Supervisor of EJS Project			Ms. Heba Rizk (from July to September 2017) -PT							
				Ms. Hend Galal (from September 2017) -PT							
3	Minister's Assistant for Financial and Administrative Affairs				Gen. Akram El Nashar						
4	Minister's Advisor for Strategic Affairs				Ms.Nevine Hamouda	Ms.Nevine Hamouda	Ms.Nevine Hamouda	Ms.Nevine Hamouda	Ms.Nevine Hamouda		
5	Minister's Advisor	Dr. Rasha sharaf		Ms. Heba M Rizk	Ms. Hend Galal (until Feb 2018)						
PMU											
1	Acting Deputy Manager			Mr. Malek Ahmed (work as Acting from September 2017)	Mr. Malek Ahmad						
2	PMU Director	Mr. Amr Mohamed (resigned in September 2017)	Mr. Amr Mohamed (resigned in September 2017)	Mr. Amr Mohamed (resigned in September 2017)		Mr. Malek Ahmed El Refai	Mr. Malek Ahmed El Refai	Mr. Malek Ahmed El Refai	Mr. Malek Ahmed El Refai		
3	Training Officer	Ms. Azza Khalil	N/A								
4	IT Officer	Mr. Osama Nafady	Mr. Osama Nafady	Mr. Osama Nafady	Mr. Osama Nafady	Ms. Ghada Saeed Abdo	Ms. Ghada Saeed Abdo	Ms. Ghada Saeed Abdo	Ms. Ghada Saeed Abdo		
5	Planning Officer	Mr. Yasser El Gazzar	Mr. Yasser El Gazzar								
6	Activity Officer										
7	Follow up and Activity Officer		Ms. Lamia Hassan								
8	Basic Education Officer										
9	Kindergarten Officer										
10	Administrative Officer				Mr.Mustafa HassanMahamood	Mr.Mustafa Hassan Mahamood	Mr.Mustafa Hassan Mahamood	Mr.Mustafa Hassan Mahamood	Mr. Mustafa Hassan Mahamood		
11	Activities (Tokkatsu+) Monitoring and Evaluation Officer										
12	Training and Capacity Building Officer										
13	Financial officer							Yasser Mohamed Abdel Rahman			
14	Training and follow up officer for Tokkatsu					Ms. Nour El Hoda Ahmed Rashad**	Ms. Nour El Hoda Ahmed Rashad	Ms. Nour El Hoda Ahmed Rashad	Ms. Nour El Hoda Ahmed Rashad		
15	Educational follow up officer							Ms. Azza Mahmoud Hafez	Ms. Azza Mahmoud Hafez		
16	Follow up and Monitoring officer					Eng. Ghada El Maadawi	Eng. Ghada El Maadawi	Eng. Ghada El Maadawi	Eng. Ghada El Maadawi		
17	Tokkatsu Team Leader							Ms. Aziza Ragab Khalifa Mohamed**	Ms. Aziza Ragab Khalifa Mohamed**		
18	Tokkatsu Expert 1							Mr. Ahmed Tawfik Mohamed El Hossiny**	Mr. Ahmed Tawfik Mohamed El Hossiny		
19	Tokkatsu Expert 2								Ms. Sahar Hamed Nasr Eldin		
20	Tokkatsu Expert 3								Mr. Abu Elhassan Abu Elmagd Bakhet		
21	Financial Administration &	Mr. Khaled Abdel Fattah	N/A								
22	Financial Controller							Ms Ola Mohamed Abdel Rahman Ezz	Ms. Ola Mohamed Abdel Rahman Ezz		
23	Legal Officer								Mr. Mahmoud El Gazzar		
									Mr. Mohamed El Debiki		
24	Janitor			Mr. Adel (newly assigned from January 2018)	Mr.Adel Fayea	Mr.Adel Fayea	Mr.Adel Fayea	Mr.Adel Fayea	Mr.Adel Fayea		
25	Interpreter								Ms. Salma Elalfy		

List of National Staff of JICA Technical Cooperatoin Project

Oct-21

	Name	Position	Start	End
1	Ms. Randa Lasheen	Project Coordinator	Feb 2017	Current
2	Ms. Yara Mohamed Aly Awad	Interpreter / Translator (Arabic-English) / Assistant Local Researcher	Feb 2017	Aug 2019
3	Ms. Menna Allah Awad Al-Ghobary	Interpreter / Translator (Arabic-English) / Project Staff for Training	April 2017	Current
4	Mr. Islam Hosni Hussein	Research Monitoring and Evaluation Program Officer	Sep 2017	Nov 2018
5	Ms. Shrouk Salah Bayoumi	Project Staff for Monitoring	Nov 2018	Current
6	Mr. Mohamed Abdelmeguid Said Abdelmeguid	Program Officer (Guideline Development, Training and Monitoring)	Apr 2019	Current
7	Ms. Safaa Mahmoud Mohamed	Program Officer (Dissemination of Early Childhood Education)	Sep 2019	Current

Period	Place	Target group / No. of participants	Remarks
24th June - 9th July, 2017	JICA Tokyo	Master Trainers (later called Tokkatsu Officers) / 20	
24th February - 1st March 2019	JICA HDQs	Invitation of MOETE Minister and his aides / 5 (1 Minister, 2 advisors, and 2 assistants)	Using financial resource other than the Technical Cooperation Project.
6th - 19th October 2019	JICA Kyushu	Tokkatsu Officers / 20 (16 Tokkatsu Officers, 2 specialists from Center for Curriculum and Instructional Materials Development (CCIMD), and 2 Academics from Ain Shams University)	
26th January - 7th February 2020	JICA Yokohama	Tokkatsu Officers / 20 (19 Tokkatsu Officers and 1 PMU officer)	
7th February - 15 February 2020	JICA HDQs	Official mission of Secretary General of EJEP and MOETE Minister's Advisor for Strategic Affairs and EJS Supervisor / 3	

Country: Egypt

Oct-21

Item	Model Number	Qty	Value			Purchase Date	Place of Use	Status	Remark
			Value	Currency	JPY equivalent				
Copier	XEROX WC 7835i	1	145,000	EGP	896,154	2017/5/31	PMU Office	In Use	
Digital duplicator	RISO SF5230	1	89,270	EGP	553,658	2017/7/18, 2017/5/16	PMU Office	In Use	
Laptop PC (Standard)	Laptop-Dell-5559-C17 6500U-1TB-8GB-AMD 4GB R5 M335-DOS	4	47,600	EGP	338,551	2017/3/2, 2017/3/15	PMU Office	In Use	
Laptop PC (Standard)	Laptop-Dell-INS5570-C17 8550U-1TB-8GB-AMD 4GB 530- DOS Black	1	12,500	EGP	77,216	2018/5/7	PMU Office	Out of Order	
Laptop PC (High speck)	Laptop-Dell-Gaming-7577- C17 7700HQ-16GB-1TB+256 SSD-NVIDIA 6G GTX1060- 15.6FULL HD	1	25,500	EGP	157,521	2018/5/7	PMU Office	In Use	
Transmitter and receiver for simultaneous interpretation	Receiver (YT100R) ×14 Transmitter (Alnoran teacher unit) ×2	1	96,900	EGP	614,136	2018/12/12	PMU Office	In Use	
Laptop PC (High speck)	Laptop-Dell-Inspiron7373, C17-8550U1-8GHZ, 8M-16G- 512GB-SSD-Shared	1	26,999	EGP	167,381	2019/1/15	PMU Office	In Use	

添付資料 2

技術協力成果品一覧

List of Deliverables of the Project

01	Tokkatsu+ Project Document Version 1 (5 th June2017)
02	EJS Monitoring Manual (including Egypt Japan School Tokkatsu Rubric)
03-1	Tokkatsu+ Introduction Guidelines 2017/18 (Arabic)
03-2	Tokkatsu+ Introduction Guidelines 2017/18(Japanese)
04-1	Handbook for Tokkatsu Implementation under Education 2.0 (Arabic)
04-2	Handbook for Tokkatsu Implementation under Education 2.0 (English)
04-3	Folded leaflet using some information from the Handbook (Arabic)
04-4	Folded leaflet using some information from the Handbook (English)
05-1	Teacher's Guide of Tokkatsu Activities for EJS 2018/19 (Arabic)
05-2	Teacher's Guide of Tokkatsu Activities for EJS 2018/19 (English)
06-1	Teacher's Guide of Tokkatsu Activities for EDU2.0 National Curriculum 2018/19 (Arabic)
06-2	Teacher's Guide of Tokkatsu Activities for EDU2.0 National Curriculum 2018/19 (English)
07-1	Teacher's Guide of Tokkatsu Activities for EJS 2019/20 (Arabic)
07-2	Teacher's Guide of Tokkatsu Activities for EJS 2019/20 (English)
08	Teacher's Guide of Tokkatsu Activities for EDU2.0 National Curriculum 2019/20 (Arabic)
09	Supplemental Explanation for Teacher's Guide of Tokkatsu Activities (Arabic)
10-1	Teacher's Guide of Tokkatsu Activities for EJS 2020/21 (Arabic)
10-2	Teacher's Guide of Tokkatsu Activities for EJS 2020/21 (English)
11	Teacher's Guide to Special Activities (Tokkatsu) for EJS 2021/22
12	Teacher's Guide to Special Activities (Tokkatsu Basic) applied in EDU2.0 National Curriculum 2021/22
13-1	Teacher's Guide of Japanese-style Education for Students' Character Building (KG) 2018/19 (Arabic)
13-2	Teacher's Guide of Japanese-style Education for Students' Character Building (KG) 2018/19 (Japanese)
14-1	Teacher's Guide: Play-based KG Life 2020/21 (Arabic)
14-2	Teacher's Guide: Play-based KG Life 2020/21 (Japanese)
15-1	Teacher's Guide: Play-based KG Life 2021/22 (Arabic)
15-2	Teacher's Guide: Play-based KG Life 2021/22 (Japanese)
15-3	Teacher's Guide: Play-based KG Life 2021/22 (English)

16-1	School Operation Manual for New EJS 2018/19 (Arabic)
16-2	School Operation Manual for New EJS 2018/19 (English)
16-3	School Operation Manual for New EJS 2018/19 Appendix (English)
17-1	School Operation Manual for EJS 2019/20 (Arabic)
17-2	School Operation Manual for EJS 2019/20 (English)
18-1	School and Class Management Guide for Japanese-style Education 2020/21 (Arabic)
18-2	School and Class Management Guide for Japanese-style Education 2020/21 (English)
19	Primary School Tokkatsu Videos
20	KG Learning through Playing Videos (See the appendix 2 below)
21	A Day at EJS (Primary School Education Stage) https://youtu.be/gAup_K0iBQA
22	A Day at EJS (Kindergarten Education Stage) https://youtu.be/mxhLklLCDys
23	Promotion Video of EJS https://youtu.be/yInFpou6hF8
24	Mathematics Worksheets
25	A Report about Design Alternatives for 100 New Construction Egyptian Japanese Schools
26	Design Standard and Guidelines for EJS
27	EJS Standard Models
28	3D Images of 42- & 22-class type School Building
29	List of Furniture and Equipment
30	EJS Facility Usage Guide
31	Strategy for Nationwide Dissemination of Tokkatsu Programme under Education 2.0
32	Summary of Five Impact Studies
33	Impact Study: Progress Report (5) June 2021
34	Summary of Monitoring Results
35	TTCS Report

添付資料 3

PDM の全バージョン

ANNEX 1: Project Design Matrix (PDM)-.ver000

1/11/2016

Project Title: The Project for Creating Environment for Quality Learning

Cooperation Period: February 2017—January 2021

Target Group: Personnel of MOETE, personnel of Idaras in charge of pilot schools and target schools, 12 pilot schools, 200 target schools.

Target Area: (Pilot schools) Cairo, Giza, Qualiobia

(Target Schools) To be determined.

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
<p>Overall Goal Public schools in Egypt adopt the Whole Child Education (Tokkatsu+) model in their practice.</p>	-		—
<p>Project Purpose The Whole Child Education (Tokkatsu+) model is in operation at selected target schools.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. Number of schools students who observe positive changes in their schools increase 2. Number of teachers who observe positive changes in their schools increase 	<p>Questionnaire</p> <p>Questionnaire</p>	<p>Social and economic conditions are unchanged.</p> <p>Policies of basic school education are unchanged</p>
<p>Outputs 1. Guiding documents/materials for introducing and disseminating the Whole Child Education (Tokkatsu+) model are developed.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1-1. Standards, training materials, and essential teaching & learning materials for introducing the Whole Child Education (Tokkatsu+) model in Egypt are prepared. 1-2. Standards, guidelines, and model designs of facility and equipment are ready to use in new school construction. 	<p>Standards, training materials, teaching & learning material</p> <p>Standards, architectural design of the Whole Child Education (Tokkatsu+) model school</p>	
<p>2. Officials, Principals and Teachers become capable of putting the Whole Child Education (Tokkatsu+) model in practice.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 2-2. Concerned MOE officers, Idarra officers, school principals become familiar with the Whole Child Education (Tokkatsu+). 2-3. XX% teachers in pilot schools and target schools become familiar with how to conduct lessons and activities based on the Whole Child Education (Tokkatsu+). 	<p>Questionnaire</p> <p>Questionnaire</p>	
<p>3. System to disseminate the Whole Child Education (Tokkatsu+) model from the pilot to the target schools is established.</p>	<ol style="list-style-type: none"> 3-1. More than XX schools participate in the training programs in target schools. 3-2. The responsibility about the Whole Child Education (Tokkatsu+) is specified in TOR of concerned MOE officers. 	<p>Project report</p> <p>TOR</p>	

N
 R
 Red-1

ANNEX 1: Project Design Matrix (PDM)-.ver000

<u>Activities</u>	<u>Input</u>	Adequate and qualified counterparts are assigned.
<p>1-1. Defining detail project activities, respective indicators and the concept of the <Egyptian Japanese School > where Tokkatsu + is implemented.</p> <p>1-2. Development of standards and assessment tools for the Tokkatsu + practice in Egypt</p> <p>1-3. Development/revision of Tokkatsu+ practices introduction guidelines and its training materials</p> <p>1-4. Development of supplemental teaching & learning materials</p> <p>1-5. Development of a model school design for the implementation of Tokkatsu + (facility, furniture, & equipment).</p> <p>1-6. Developpement /revision of dissemination guidelines to replicate Tokkatsu+ practice</p>	<p>1. Japanese-side</p> <ul style="list-style-type: none"> - Dispatch of Experts on following fields: <ul style="list-style-type: none"> ➤ Chief Advisor (Education Development) ➤ Deputy Chief Advisor (School Management) ➤ Whole Child Education (Tokkatsu+) ➤ Education Evaluation /Monitoring ➤ School Facility and Equipment (Tokkatsu+) ➤ Early Childhood Education ➤ Training Planning Management Project Coordinator, - Local staff <ul style="list-style-type: none"> ➤ Interpreter ➤ Local administrative coordinator - Trainings in Japan, seminar (local and international) - Teaching and learning materials for the pilot schools - Other essential operations for implementing the project <p>2. Egyptian-side</p> <ul style="list-style-type: none"> - Counterpart Personnel <ul style="list-style-type: none"> ➤ Undersecretary of the Central Administration for Early Childhood and Basic Education (She/he is the member of EC 1 and the project will be implemented within her/his sector of Basic and Early Childhood Education.) ➤ Project / PMU Director ➤ Project Coordinator(s) for Working Group(s) - Facilities <ul style="list-style-type: none"> ➤ Suitable office space and necessary equipment and furniture - Overtime pay for Extended working hours of teachers - Furniture and equipment for the pilot and target schools - Teaching & learning materials for the target schools - Local Trainings (Training site, travel fees and allowance for the participant, necessary materials) - Others 	<p>Sufficient budgets are ensured and disbursed in a timely manner.</p>
<p>2-1. Conduct baseline survey</p> <p>2-2. Conduct training and workshop for pilot schools</p> <p>2-3. Conduct training and workshop for MOETE officials.</p> <p>2-4. Conduct tokkatsu + lessons and activities in pilot schools</p> <p>2-4. Conduct endline survey</p> <p>3-1. Conduct training and workshops for governorate and Idara personnel.</p> <p>3-2. Conduct training and workshops for principals and teachers of selected target schools</p> <p>3-3. Conduct baseline survey</p> <p>3-4. Conduct tokkatsu + lessons and activities in target schools</p> <p>3-5. Conduct endline survey</p> <p>3-6. Conduct seminars (local and international)</p>		<p><u>Pre-conditions</u></p> <p>Social and economic conditions are unchanged.</p> <p>Policies of basic school education are unchanged.</p>

M

R

Reds

Revision of Project Design Matrix

Project Title: The Project for Creating Environment for Quality Learning
Implementing Agency: Ministry of Education and Technical Education (MOETE)

Version: 001
Date: 9 Nov 2020

Cooperation Period: February 2017 – September 2021

Target Group: Personnel of MOETE, Mudirrya, Idara, and schools (such as staff at Project Management Unit, Tokkatsu Officers (TOs), principals and teachers) in charge of pioneer schools¹, new schools, and existing schools (approximately 90 schools in total including EJS²).

Target Area: (Pioneer schools) Cairo, Giza, Qualiobia
 (New and existing schools) All over Egypt³

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicators	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal Public schools in Egypt adopt the Whole Child Education (Tokkatsu+) model in their practice.			
Project Purpose The Whole Child Education (Tokkatsu+) model is in operation at selected schools.	1. Number of students who observe positive changes in their schools increase 2. Number of teachers who observe positive changes in their schools increase	Questionnaire Questionnaire	Social and economic conditions are unchanged. Policies of basic school education are unchanged
Outputs			
Output 1: Guiding documents/ materials for introducing and disseminating the Whole Child Education (Tokkatsu+) model are developed.	1-1. Standards, training materials, and essential teaching & learning materials for introducing the Whole Child Education (Tokkatsu+) model in Egypt are prepared. 1-2. Standards, guidelines, and model designs of facility and equipment are ready to use in new school construction. 1-3. <u>Training materials are prepared to reinforce the Tokkatsu component in the new national curriculum training</u>	Standards, training materials, teaching & learning material Standards, architectural design of the Whole Child Education (Tokkatsu+) model school	
Output 2: Officials, Principals and Teachers become capable of putting the Whole Child Education (Tokkatsu+) model in practice.	2-1. Concerned MOETE officers, <u>Mudirrya and Idarra officers (especially TOs)</u> , school principals become familiar with the Whole Child Education (Tokkatsu+). 2-2. <u>70% teachers in pioneer schools, new and existing schools become familiar with how to conduct lessons and activities based on the Whole Child Education (Tokkatsu+).</u>	Questionnaire Questionnaire	
Output 3: System to disseminate the Whole Child Education (Tokkatsu+) model from <u>new to existing schools is piloted.</u>	3-1. <u>More than 35 schools participate in the training programs through the system</u> 3-2. <u>At least one experience sharing session from new to existing school is organized for all existing schools involved in the system</u> 3-3. <u>All the existing schools involved in the system are monitored at least once a month by TOs</u> 3-4. <u>The responsibility about the WCE (Tokkatsu+) is specified in TOR of concerned MOETE officers</u>	Project report Questionnaire Monitoring report TOR	
Output 4: <u>Lessons learned and suggestions drawn through the implementation of Tokkatsu+ Training and Certifying System (TTCS) pilot project is compiled and a proposal for TTCS is formulated.</u>	4-1. <u>Documentation of the process, lessons learned and suggestions drawn through the implementation of TTCS pilot project</u> 4-2 <u>TTCS proposal</u>	TTCS pilot project report Proposal for TTCS	

¹ Formerly called "pilot schools"

² Newly opened Egyptian Japanese Schools (EJS) are categorized as new schools

³ However, JICA experts are restricted to visit some remote governorates due to JICA security regulations

JK

7

Activities	Inputs		Important Assumption			
	The Japanese Side	The Egyptian Side				
1-1. Defining detail project activities, respective indicators and the concept of the "Egyptian Japanese School" where WCE (Tokkatsu+) is implemented.	<ul style="list-style-type: none"> - Dispatch of Experts on following fields: <ul style="list-style-type: none"> ➤ Chief Advisor (Education Development) ➤ Deputy Chief Advisor (School Management) ➤ Whole Child Education (Tokkatsu+) ➤ Education Evaluation /Monitoring ➤ School Facility and Equipment (Tokkatsu+) ➤ Early Childhood Education ➤ Training Planning Management Project Coordinator, - Local staff <ul style="list-style-type: none"> ➤ Interpreter ➤ Local administrative coordinator - Trainings in Japan, seminar (local and international) - Teaching and learning materials for the pilot schools - Other essential operations for implementing the project 	<ul style="list-style-type: none"> - Counterpart Personnel <ul style="list-style-type: none"> ➤ Project / PMU Director <ul style="list-style-type: none"> ✧ MOE Education related department ✧ MOE Related Centers ✧ Project Coordinator(s) for Working Group(s) ➤ Facilities <ul style="list-style-type: none"> ✧ Suitable office space and necessary equipment and furniture - Additional expenses for the project if necessary. - Equipment and education materials for activity implementation for the schools - Local Trainings (Training site, travel fees and allowance for the participant, necessary materials) - Others 	<p>Adequate and qualified counterparts are assigned</p> <p>Sufficient budgets are ensured and disbursed in a timely manner.</p>			
1-2. Development of standards and assessment tools for the WCE (Tokkatsu+) practice in Egypt.				<p>Pre-Conditions Social and economic conditions are unchanged.</p> <p>Policies of basic school education are unchanged.</p>		
1-3. Development/revision of WCE (Tokkatsu+) practices introduction guidelines and its training materials.						
1-3-2. Development of training materials for the Tokkatsu component in the new national curriculum training.						
1-4. Development of supplemental teaching & learning materials.						
1-5. Development of a model school design for the implementation of WCE (Tokkatsu+) (facility, furniture, & equipment).						
1-6. Development of dissemination strategy to replicate WCE (Tokkatsu+) practice.						
2-1. Conduct baseline survey.						
2-2. Conduct training and workshop for pilot schools and new schools.						
2-3. Conduct training and workshop for MOETE officials.						
2-4. Conduct WCE (Tokkatsu+) lessons and activities in pilot schools and new schools.						
2-5. Conduct endline survey.						
3-1. Conduct training and workshops for Muddyria and Idara personnel (TOs).						
3-1-2. MOETE officials develop plans to introduce WCE (Tokkatsu+) to selected existing schools.						
3-2. Conduct training and workshops for principals and teachers of selected existing schools.						
3-2-2. Experience sharing sessions is conducted at new schools for the selected existing schools.						
3-3. Conduct baseline survey.						
3-4. Conduct WCE (Tokkatsu+) lessons and activities in existing schools.						
3-5. Conduct endline survey.						
3-5-2. Develop TOR of MOETE officials in implementation of WCE (Tokkatsu+).						
3-6. Conduct seminars.						
4-1. TTCS Pilot project Joint Committee (JC) is formed						
4-2. Intended Learning Outcomes(ILO) is examined and approved by JC						
4-3. Training curriculum is examined and approved by JC						
4-4. Conditions for being a training provider is examined and approved by JC						
4-5. Result of the evaluation of selected TOs using the developed certification criteria and tools is endorsed by JC						
4-6. Develop TTCS Pilot project report with the lessons learned and suggestions drawn from the implementation of TTCS pilot project.						
4-7. Develop a proposal of establishing TTCS						

添付資料 4

R/D、M/M、EC1 議事録

(内部資料)

添付資料 5

Project Monitoring Sheet

(内部資料)

添付資料 6

Plan of Operation (version 8)

添付資料 7

Media Appearances Archives

Media Appearances Archives
From September 2018 to October 2021

2018/09/09	Newspaper	Egypt Independent
Egypt's Education Ministry to open 34 Japanese schools nationwide		
https://egyptindependent.com/egypts-education-ministry-to-open-34-japanese-schools-nationwide/		
2018/09/12	Internet news	Veto
Education Minister: President opens schools of excellence and Japanese on Sunda		
https://www.vetogate.com/3300473		
2018/09/13	Internet news	Veto
How Japanese schools prepared for the new year		
https://www.vetogate.com/3301183		
2018/09/19	Newspaper	El Watan News
By Numbers Learn about the largest Japanese schools in Egypt: 42 classes for 1320 students (...President Abdel Fattah Al-Sisi opened the Egyptian-Japanese School in October Gardens, the largest Japanese school in Egypt through video conferencing)		
N/A		
2018/09/19	Newspaper	Ahram online
'I will personally monitor the progress of the new education system,' says Egypt's Sisi		
http://english.ahram.org.eg/NewsContent/1/64/311851/Egypt/Politics-/I-will-personally-monitor-the-progress-of-the-new-.aspx		
2018/09/19	Internet news	El Watan News
Governor of Beni Suef and Deputy Minister of Education open the Japanese school in Beni Suef		
N/A		
2018/09/20	Internet news	The Seventh Day
Japanese school teachers praise training on "Tokatsu" .. The ministry is preparing to study in the operations room to receive complaints .. And Thursday, the end of training the first batch of teachers on the new system ..		
N/A		

2018/09/23	Internet news	The Seventh Day
The new academic year begins in 12 governorates Start of the actual study in the Egyptian-Japanese schools October 7		
N/A		

2018/09/23	Internet news	The Seventh Day
Prime Minister visits the Egyptian-Japanese school in Assiut		
N/A		

2018/09/23	Internet news	The Seventh Day
Governor of Cairo visits the Japanese school of the fifth assembly		
N/A		

2018/09/23	Internet news	Saidi Online
(Governor of Qena) witness the first day of operation of the Egyptian-Japanese school in the housing area		
http://saidyonlion.blogspot.com/2018/09/blog-post_23.html?m=0		

2018/10/03	Internet news	共同通信
エジプトで日本式学校始動・学級活動で「人格形成」		
https://this.kiji.is/420180624884712545?c=39546741839462401		

2018/10/03	Newspaper	東京新聞
エジプトで日本式学校始動 学級活動で「人格形成」		
https://www.tokyo-np.co.jp/article/world/list/201810/CK2018100402000136.html		

2018/10/04	TV	NHK
エジプトで「日本式」学校が開校 学級会や日直など導入		
https://www.nicovideo.jp/watch/sm33962989 (動画を掲載していた NHK のサイトは既に閉鎖されたため、別サイトで示す)		

2018/10/04	TV	NNN
エジプトで「日本式教育」学校・“そうじ”や“手洗い”		
https://www.youtube.com/watch?v=Ywa6a2QINtw		

2018/10/04	Newspaper	日経新聞
エジプトの子供に日本式教育 掃除・学級会で協力学ぶ		
https://www.nikkei.com/article/DGXMZO36104400U8A001C1EAF000/		
2018/10/04	Newspaper	朝日新聞
日直・そうじ・学級会…エジプトで「日本式学校」に注目		
https://www.asahi.com/articles/ASLB401C5LB3UHBI03G.html		
2018/10/05	Internet news	NHK
「学級会・掃除・日直」エジプトで広め育成を外相		
https://www.nhk.or.jp/politics/articles/statement/9524.html		
2018.10.11	Internet news	産経新聞
【千夜一夜】根付くか「トッカツ」 日本の流儀		
https://www.sankei.com/world/news/181011/wor1810110009-n1.html		
2018/10/15	Newspaper	The Seventh Day
Education: We follow the study in Japanese schools and proceed in a disciplined manner		
N/A		
2018/11/09	Newspaper	Al Ahram
Students participate in their school day: Japanese schools		
http://www.ahram.org.eg/NewsPrint/679283.aspx		
2018/11/26	Newspaper	
JICA Delegation Visits Japanese New School in Damietta		
N/A		
2018/12/01	Internet news	Sada Elbalad
Education Minister arrives at Obour to inaugurate Egyptian-Japanese School		
http://en.elbalad.news/2401929		
2018/12/01	Website	MOETE
Shawky and Nasr open the Egyptian-Japanese school by crossing		
N/A (MOETE web site)		

2018/12/01	Internet news	MIIC
Ministers of Investment and Education Inspect the Japanese School in El-Obour City		
http://www.miic.gov.eg/English/MediaCenter/News/Pages/Ministers-of-Investment-and-Education-Inspect-the-Japanese-School-in-El-Obour-City.aspx		
2018/12/01	Newspaper	shorouknews
Minister of Education: Japanese schools invest the Egyptian government .. and grant to the best and sons of the martyrs		
https://www.shorouknews.com/news/print.aspx?cdate=01122018&id=1be020d2-5d55-4cee-8f91-29c7a4377005		
2018/12/06	Newspaper	The Seventh Day
Shawki sows roses at Egyptian-Japanese school: Education is fun for children		
https://www.almasryalyoum.com/news/details/1347571		
2018/12/17	Newspaper	Japan Times
Japanese education for Egyptian kids?		
https://www.japantimes.co.jp/opinion/2018/12/17/commentary/japan-commentary/japanese-education-egyptian-kids/#.XMw2lzD7Tbg		
2018.12.20	Newspaper	産経新聞
宮家邦彦の World Watch : エジプトの日本式教育		
https://www.sankei.com/column/news/181220/clm1812200004-n1.html		
2018/12/23	Internet news	Veto
The Sisi is mandated to govern the management of Japanese schools in Egypt		
https://www.vetogate.com/3384991		
2018/12/24	Newspaper	Ahram online
Sisi discusses developing education in Egypt with minister		
http://english.ahram.org.eg/News/320624.aspx		
2019/01/05	News paper	Egypt Today
Egyptian Japanese Schools bear fruit		
http://www.egypttoday.com/Article/2/63045/Egyptian-Japanese-Schools-bear-fruit		

2018/01/25	TV	dmc
Special dmc - Director of Japanese Tokatsu Program: Cooperation with Egypt will be through the processing of instructors for Japanese schools (2 minutes)		
https://www.youtube.com/watch?v=tYFk2nOjjPg&index=33&list=PLRO77SHVMirJ7iR-JnV3FLWirJYVbtUuWd&t=8s		

2019/01/25	YV	dmc
Special dmc - Japanese-Egyptian cooperation in the field of "education and investment" (40 minutes)		
https://www.youtube.com/watch?v=jo-f4fsOHE4&index=32&list=PLRO77SHVMirJ7iR-JnV3FLWirJYVbtUuWd&t=8s		

2019/02/07	Internet news	NHK News Web
エジプトの先生が日本型授業学ぶ		
N/A		

2019/02/07	TV	福井テレビ
エジプトの教員が視察		
N/A		

2019/02/07	Internet news	El Watan News
Red Sea Education: Application of Japanese Tokatsu in public schools		
https://www.elwatannews.com/news/details/4000628		

2019/02/13	Newspaper	Egypt Today
Minister of education reveals status of Japanese schools		
http://www.egypttoday.com/Article/1/64652/Minister-of-education-reveals-status-of-Japanese-schools		

2019/03/03	Newspaper	信濃毎日新聞
日本の教育 伊那小で興味津々 エジプトから視察団		
https://www.shinmai.co.jp/news/nagano/20190203/KT190202ATI090003000.php (https://www.47news.jp/3234898.html)		

2019/03/03	Internet news	El Watan News
"Education" meets the first mission of the Egyptian-Japanese school officials to Tokyo		
https://www.elwatannews.com/news/details/4036865		
2019/04/03	Newspaper	Al-Ahram
Japanese delegation visits Japanese new school in Damietta		
http://gate.ahram.org.eg/News/2138622.aspx		
2019/04/19	Internet news	El Watan News
"Home" inside a Japanese school .. Year on the experience and "Tokatsu"		
https://www.elwatannews.com/news/details/4114796		
2019/5/2	Newspaper	Ahram online
Egypt to open five new Japanese-style schools as registration starts for coming school year		
https://english.ahram.org.eg/NewsContent/1/64/330907/Egypt/Politics-/Egypt-to-open-five-new-Japanesestyle-schools-as-re.aspx		
2019/05/15	Internet news	Al Ahram
Egyptian-Japanese schools publish video showing students' school day system		
https://gate.ahram.org.eg/News/2154792.aspx		
2019/5/23	Internet news	Youm 7
Education Ministry received 11,000 applications for the EJS		
2019/06/01	Newspaper	Egypt Today
Egypt, Japan sign LE7.5M grant for Egypt-Japan Schools		
https://www.egypttoday.com/Article/1/71078/Egypt-Japan-sign-LE7-5M-grant-for-Egypt-Japan-Schools		
2019/06/29	Newspaper	中日新聞
福井、教育手法導入へ初等教育学ぶ		

2019/07/16	Newspaper	Egypt Today
After taking it to Egypt, a look on 'Tokkatsu' in Japan		
https://www.egypttoday.com/Article/1/72857/After-taking-it-to-Egypt-a-look-on-%E2%80%98Tokkatsu%E2%80%99-in		
2019/07	Japanese government official publication	Highlighting Japan Vol.134
Tokkatsu taking root in Egypt		
https://dwl.gov-online.go.jp/video/cao/dl/public_html/gov/book/hlj/20190701/html5.html#page=1		
2019/09/15	Internet news	Youm 7
The Egyptian-Japanese Schools Unit holds a workshop on learning outcomes		
https://www.youm7.com/story/2019/9/15/%D9%88%D8%AD%D8%AF%D8%A9-%D8%A7%D9%84%D9%85%D8%AF%D8%A7%D8%B1%D8%B3-%D8%A7%D9%84%D9%85%D8%B5%D8%B1%D9%8A%D8%A9-%D8%A7%D9%84%D9%8A%D8%A7%D8%A8%D8%A7%D9%86%D9%8A%D8%A9-%D8%AA%D8%B9%D9%82%D8%AF-%D9%88%D8%B1%D8%B4%D8%A9-%D8%B9%D9%85%D9%84-%D8%AD%D9%88%D9%84-%D9%86%D9%88%D8%A7%D8%AA%D8%AC-%D8%A7%D9%84%D8%AA%D8%B9%D9%84%D9%85/4418141		
2019/11/10	Newspaper	西日本新聞
学校変える「特別活動」＝”Tokkatsu” エジプトが熱視線		
https://www.nishinippon.co.jp/item/n/558334/		
2019/12/19	Internet news	Sada Elbalad
Find out why the Embassy of Japan and JICA visited South Sinai		
https://www.elbalad.news/4101699		
2019/12/19	TV	eXtra news
Egyptian-Japanese schools - a pioneering experience in education		
https://youtu.be/e1I4ibIz1CM		
2020/01/20	Internet news	Al Bawaba News, El Wafd News, Al Shrouk Times
Fayoum Governor attends the closing ceremony of student activities at the Egyptian Japanese School		

2019/01/29	Internet news	Youm 7
The Japanese ambassador in Cairo praises the experience of Japanese schools and stresses: It has 3 advantages		
https://www.youm7.com/story/2020/1/29/%D8%A7%D9%84%D8%B3%D9%81%D9%8A%D8%B1-%D8%A7%D9%84%D9%8A%D8%A7%D8%A8%D8%A7%D9%86%D9%89-%D8%A8%D8%A7%D9%84%D9%82%D8%A7%D9%87%D8%B1%D8%A9-%D9%8A%D8%B4%D9%8A%D8%AF-%D8%A8%D8%AA%D8%AC%D8%B1%D8%A8%D8%A9-%D8%A7%D9%84%D9%85%D8%AF%D8%A7%D8%B1%D8%B3-%D8%A7%D9%84%D9%8A%D8%A7%D8%A8%D8%A7%D9%86%D9%8A%D8%A9-%D9%88%D9%8A%D8%A4%D9%83%D8%AF-%D9%84%D9%87%D8%A7-3/4609948		

2019/4~2021/3	Monthly magazine	月刊道徳と特別活動
世界の Tokkatsu 便り (Vol. 36 No1 から Vol.37 No.12 まで全 24 回掲載)		

2020/01/30	TV	テレ玉
エジプト教育関係者「特別活動」視察/埼玉県		

2020/02/01	Newspaper	福井新聞
エジプト教員、日本の小学校に驚き -福井、教育手法導入へ初等教育学ぶ-		
https://www.fukuishimbun.co.jp/articles/-/1021259		

2020/02/07	Newspaper	タウンニュース高津区版
上作延小学校 エジプトから授業参加 「自主性重視」の利点伝える		
https://www.townnews.co.jp/0202/2020/02/07/516871.html		

2020/02/13	Newspaper	タウンニュース鶴見区版
エジプトの教育関係者ら潮田小・中を訪問 日本式教育を学ぶ		
https://www.townnews.co.jp/0116/2020/02/13/517461.html		

2020/06/12	Internet news	El Watan News
How did Japanese schools deal with the Corona virus crisis?		
https://www.elwatannews.com/news/details/4837688		

2020/02/13	Newspaper	日本教育新聞
エジプトから視察団 規律・協調性の育成、日本の「特活」に学べ！		
https://www.kyoiku-press.com/post-212921/		

2020/02/16	Newspaper	Egypt Today
Education ministry hires Japanese experts to supervise Tokkatsu system		
https://www.egypttoday.com/Article/1/81689/Education-ministry-hires-Japanese-experts-to-supervise-Tokkatsu-system		
2020/06)	Monthly magazine	文溪堂「ひとゆめ」第31号
エジプトの教育訪問団が日本の「Tokkatsu」を視察		
https://www.bunkei.co.jp/school/hitoyume/pdf/20_31_2.pdf		
2020/10/04	Internet news	Al Ahram
The Egyptian-Japanese Schools Project Unit meets with Japanese supervisors to implement "Tokatsu" systems		
https://gate.ahram.org.eg/News/2499011.aspx		
2020/12/11	Internet news	産経新聞
エジプトで日本式教育拡大 200校目標、掃除や学級会など取り入れ		
https://www.sankeibiz.jp/econome/news/201211/eci2012110924001-n1.htm		
2020/12/20	Internet news	Youm 7
An educational session to introduce the “Tokatsu” in Alexandria.. The Education Consultant: Develops a sense of community		
https://www.almasryalyoum.com/news/details/2194059		
2021/01/20	Internet news	Kyodo Nuews
FEATURE: Education adds to Japan's latest exports to developing nations		
https://english.kyodonews.net/news/2021/01/668f35a9c8b3-feature-education-adds-to-japans-latest-exports-to-developing-nations.html		
2021/01/26	Newspaper	読売新聞
元校長100人、招かれエジプトへ…「日本式」学級会や掃除当番制を現地指導		
https://www.yomiuri.co.jp/world/20210126-OYT1T50024/		
2021/01/26	Newspaper	読売新聞
リーダーになれる・家の掃除率先…エジプト、日本式の教育校は難関		
https://www.yomiuri.co.jp/world/20210125-OYT1T50206/		

2021/02/03	Internet news	Akhbar Al Youm
Japanese schools launch “Enjoy our time in our camp” activity for students		
https://m.akhbarelyom.com/news/NewDetails/3248791/1/%D8%A7%D9%84%D9%85%D8%AF%D8%A7%D8%B1%D8%B3-%D8%A7%D9%84%D9%8A%D8%A7%D8%A8%D8%A7%D9%86%D9%8A%D8%A9-%D8%AA%D8%B7%D9%84%D9%82-%D9%81%D8%A7%D8%B9%D9%84%D9%8A%D8%A9-%D9%86%D8%B3%D8%AA%D9%85%D8%AA%D8%B9-%D8%A8%D9%88%D9%82		

2021/02/05	Internet news	Akhbar Al Youm
Minister of Education: The Japanese system has three main advantages		
https://m.akhbarelyom.com/news/NewDetails/3250659/1/%D9%88%D8%B2%D9%8A%D8%B1-%D8%A7%D9%84%D8%AA%D8%B9%D9%84%D9%8A%D9%85--%D8%A7%D9%84%D9%86%D8%B8%D8%A7%D9%85-%D8%A7%D9%84%D9%8A%D8%A7%D8%A8%D8%A7%D9%86%D9%8A-%D9%8A%D8%AD%D9%85%D9%84-%D8%AB%D9%84%D8%A7%D8%AB-		

2021/03/25	Internet news	MOETE
The Minister of Education and the Governor of South Sinai inaugurate the Egyptian-Japanese School in Sharm El-Sheikh		
https://moe.gov.eg/en/what-s-on/news/egyptian-japanese-school/		

2021/09/23	Internet news	El Watan News
What are the activities of the tokatsu for fourth grade students?		
https://www.elwatannews.com/news/details/5707582		

2021/10/10	Internet news	El Watan News
Egyptian-Japanese schools welcome students on the first day of		
https://www.elwatannews.com/news/details/5737357		

2021/10/10	Internet news	El Watan News
“Activating the Mind” .. A New Curriculum in Egyptian-Japanese Schools		
https://www.elwatannews.com/news/details/5737573		

2021/10/11	Internet news	El Watan News
Smart board and skill activities .. Al-Watan inside the Egyptian Japanese School		
https://www.elwatannews.com/news/details/5739181		

2021/10/17	Internet news	El Watan News
Learn about the history of the tokatsu system applied in Egyptian Japanese Schools		
https://www.elwatannews.com/news/details/5749159		

2021/10/18	Internet news	El Watan News
Learn about the characteristics of tokatsu activities and their differences from the basic materials		
https://www.elwatannews.com/news/details/5751892		

2021/10/20	Internet news	El Watan News
Learn about the characteristics of the tokatsu activities applied in Japanese schools		
https://www.elwatannews.com/news/details/5755198		

添付資料 8

**MOETE 省令 2019 年 8 月 8 日付
第 17 号**

Ministerial Decree

Number (17) dated August 8, 2019

Concerning: establishment, operation, management, work organization and admission rules at Egyptian Japanese Schools

Minister of Education and Technical Education:

Having considered the constitution,

And having considered law number (43) for 1979 on local administration system, its implementing regulations and its amendments,

Law number (139) for 1981 on the issuance of the Education law, its implementing regulations and its amendments,

Law number (12) for 1996 on the Children act, its implementing regulations and its amendments,

Law number (81) for 2016 on Civil Service, its implementing regulations and its amendments,

Presidential Decree number (271) for 1997 on the regulation of the Ministry of Education,

Presidential Decree number (207) for 2016 on establishing a steering committee for the Egyptian – Japanese Education Initiative,

Ministerial Decree number (154) for 1989 on admission and enrollment rules, and its amendments,

Ministerial Decree number (313) for 2011, on the reorganization of comprehensive educational evaluation applied on Basic Education grades, and its amendments,

Ministerial Decree number (285) for 2014, on experimental language schools and distinguished experimental language schools, and its amendments,

Ministerial Decree number (13) for 2017, on the establishment of the Program Management Unit for the Egyptian Japanese Schools, amended by the ministerial decree no. (498) for 2017,

Ministerial Decree number (159) for 2017, on the establishment of the Egyptian Japanese Schools,

Ministerial Decree number (224) for 2017,

Ministerial Decree number (421) dated 22/10/2018 on the establishment of Program Management Unit for the Egyptian Japanese Schools at the secretariat of the Ministry of Education and Technical Education,

And the agreement between the Ministry of Education and Technical Education, and the Japan International Cooperation Agency dated 1/11/2016,

Has decided:

Article 1:

For the purpose of applying the provisions of this decree, the following terms refer to the meaning specified:

First – Egyptian Japanese Schools: are Egyptian schools governmental that apply the Developed Egyptian curriculum Education 2.0 through the English language package (Discover), besides teaching the curriculum for high level English language (Connect Plus), as well as a second foreign language which the student selects from the languages the ministry acknowledges for the educational grades applied at each school, and according to the requirements for the new system for curriculum and evaluation until the end of the secondary stage. These schools fully implement the system for the Japanese Tokkatsu activities, according to the Tokkatsu guideline on all educational grades, and include: Existing schools, Pioneer Schools, and new schools.

Second – EJS Program Management Unit (PMU): is a unit established at the secretariat of the ministry and has absolute control over the Supervision, follow-up and management of all affairs concerning EJS, and which operates directly under the office of the minister, and selection of the director of the unit is done by the competent authority.

Third – The Competent Authority: The Minister of Education and Technical Education.

Article 2:

The Egyptian Japanese Schools are considered assets owned by the ministry, and all operating expenses for these schools are borne by the ministry, such as: water usage, electricity, telephone etc, and the approval of any official documents concerning students or teachers is done by the unit.

Article 3:

Intellectual property rights concerning all systems implemented in the Egyptian Japanese schools as well as the Tokkatsu activities are vested solely in the ministry of education and technical education, represented by the PMU, and which includes the school management system, the full system for the Japanese Tokkatsu activities, including the Tokkatsu guidelines both printed and practiced, training programs, and building designs for all the educational grades at the school, with an entitlement to claim exploitation fees as specified by the competent authority, and such proceeds are to be assigned to cover the loan expenses, according to the agreement between the Ministry

of Education and Technical Education, and the Japan International Cooperation Agency dated 1/11/2016.

Article 4:

The Project Management Unit consists of the following:

1. Unit Director
2. Educational Officer
3. Monitoring and Coordination Officer
4. Tokkatsu Activities Training and Trainers' follow-up Officer
5. IT Officer
6. Financial Officer
7. Administrative officer

Also, a sufficient number of personnel is to be added to the unit, and who are chosen from among employees of the MOETE and its affiliated entities, through transfer, delegation, or assignment

The competent authority holds the right to extend further posts or new personnel in case the work requires that, also allowed is the utilization of persons from outside the administrative system to work at the unit through private recruitment in case of necessity, on condition financial resources for that is available, and all that shall be done in accordance to the regulations and legal procedures in that regard.

Article 5:

The EJS – PMU and all affiliated units on educational directorate (Mudireya) level oversee the following roles:

1. Selecting schools to implement the Japanese Tokkatsu Activities, according to criteria that the unit assigns for this purpose, in coordination with the Japanese side and under cooperation with Mudireya and educational departments (Idara) and these standards are to be approved by the competent authority.
2. Working to unify the methods and work process in this type of schools, and prevent the duplication of decision-making, and reach a common understanding concerning implementation of the objectives of the Japanese experiment, through guiding the Mudireya, and Idaras in each governorate, as well as other departments within the secretariat of the ministry that are concerned with all the procedures needed to ensure the success and sustainability of the implementation of the activities.
3. Setting programs and applications necessary for the work of the PMU at the ministry level and its subunits under Mudireyas, such as: “creating web site - data bases - programs...etc.”, however the Central Department for Information Systems and Technology shall provide the infrastructure for that, and work to resolve any obstacles.

4. Recommending the employees required at the PMU and its sub-units after holding the required assessments and personal interviews for the candidates, in order to ensure the sustainability of the PMU in implementing its tasks and different activities on the school level, and that shall be done after the approval of the competent authority.
5. Suggesting, preparing and implementing training programs necessary for employees of the PMU, its sub-units and at schools in cooperation with the Japanese side.
6. Setting the criteria and selecting candidates to benefit from the scholarships provided by the Japanese side to the project, after holding the required assessments and personal interviews for the candidates, in coordination with the Japanese side.
7. Conducting regular follow-up and evaluation for the performance of the school staff and linking the performance to incentives set for the employees at the PMU, its sub-units or at schools, according to regulations set for this purpose.
8. Building partnerships with different parties such as agencies and ministries that are concerned with providing support to the Egyptian Japanese schools.
9. Promoting the Japanese Tokkatsu activities, in a way that ensures proper understanding of such activities and disseminating its implementation in all public schools nationwide.

Article 6:

No party (including departments at the secretariat of the ministry, Mudireya or Idara) is allowed to transfer, delegate, cancel a delegation, or issue any tasks, or take any actions concerning the employees at the PMU, which would in turn cause disruption to the work system at the schools, or waste the capacity-building programs that its staff has received, without consulting the PMU director for approval.

Article 7:

It is allowed to assign any party or entity with managing and operating of the schools, including financial affairs, human resources, and the administrative affairs concerning students and teachers, and this shall be done based on an assignment issued by the competent authority and under the supervision of the PMU, with the assignment defining the roles, tasks and responsibilities of that party or entity.

Article 8:

Admission of Students at EJS is according to the following conditions and regulations:

1. Student must have an Egyptian citizenship, with Egyptian parents,
2. Age of KG grade 1 must not be below 4 years by the first of October and maximum age for each higher grade until the end of grades at the school must not exceed 12 months minus 1 day. The following table specifies the students'

Provisional Translation

age until the academic year 2020/2021, and thereafter age calculations shall follow the same standards.

Grade	Age	
	from	to
KG 1	4 years old	1 day before 5 years old
KG 2	5 years old	1 day before 6 years old
Grade 1	6 years old	1 day before 7 years old
Grade 2	7 years old	1 day before 8 years old

3. Under no circumstances will there be any exceptions concerning the age condition for any grade, where the age of applying students is to be calculated as of 1st of October each year.
4. Comply to the area of residence of the student's guardians.
5. The student's guardian must provide his assent to the following:
 - That his/her child shall apply the Japanese model with all its commitments both inside and outside the school.
 - That he/she shall provide 20 hours annually of volunteering service, based on the rules that the school decides.
 - To sign 2 copies of a declaration of consent regarding the conditions and regulations of the Egyptian Japanese schools, one copy is to be handed to the teacher, and the other to the guardian.
6. Application for EJS shall be via the specified electronic platform, therefore, paper admission is not allowed. The results are to be announced electronically.
7. The final results of admission shall be announced after personal interviews with the students.
8. The accepted students are to enroll at the school through paying the necessary fees according to the regulations concerning this matter.
9. In case during the personal interview it is decided that the applicant requires inclusive education, the screening of the application shall be postponed till after the case is submitted to a special committee for health and psychological evaluation, a committee which is established by the central department for special education, in order to take the proper decisions according to the rules and decisions regulating this matter.

Article 9:

Student admission to Egyptian Japanese schools is through registering with the child / student's information on the electronic platform specified for that purpose. School transfer is complete only after final acceptance. Enrollment or transfer of students to EJS is allowed from private language schools, experimental language schools with its two types, and azhar language institutes, according to the admission regulations to EJS. Also, the students of EJS (language) are allowed to transfer to the equivalent grades in Arabic curriculum schools and experimental language schools if they meet the prescribed conditions for acceptance. In all cases, vacancy availability is required, and

in a way that does not violate the decided student capacity, and within the abovementioned admission rules concerning age limits.

Article 10:

Number of students at EJS is limited to 36 students per class, capacity is allowed to increase with a maximum of 40 students per class, after receiving the PMU approval.

Article 11:

EJS students must conform to a unified uniform approved by the PMU after being presented to and approved by the competent authority. PMU assigns the entity responsible for school management with the procedures for implementing and distributing it to the students.

Article 12:

In the case that guardians fail to pay the school fees by the specified deadline, the student's file is transferred to the Idara whose jurisdiction EJS falls under, in order to be transferred to a public school that does not apply additional activities. And the school can proceed to take legal actions for debt claims according to the civil code provisions, and Civil and Commercial Procedures Law.

Article 13:

Applying for job positions at EJS (principal, vice-principal, teacher, co-teacher, subject teacher or activity teacher or specialist) is through the electronic platform specified for that purpose, and which the MOETE administers, and according to the regulations adopted by the competent authority. Application is allowed for both employees within the MOETE and outside it.

Article 14:

Provisions within this decree apply to all Japanese schools, including pilot phase schools (pioneer schools of applying Tokkatsu activities) with a total of 12 schools within greater Cairo, where implementation has started starting the academic year 2015/2016, or schools that have been established but not yet operated, or schools that will be established and operated thereafter.

Article 15:

Provisions within this decree apply to both public and experimental language schools that will be applying the Tokkatsu activities within the framework of the Japanese loan agreement, with a total of 100 schools nation-wide (called Existing schools), or the schools that are planned to be established or converted thereafter.

Article 16:

Enforcement of the following decrees will be annulled: Decree number (13) dated 17/01/2017, decree number (159) dated 06/05/2017, decree number (224) dated

Provisional Translation

08/07/2017, decree number (498) dated 27/12/2017 and decree number (421) dated 22/10/2018, and any provisions that contradict with this decree shall also cease to have effect.

Article 17:

This decree comes into effect on the date of its issue, and all stakeholders concerned are compelled to implement it.

Minister of Education and Technical Education

Dr. Tarek Shawky



جمهورية مصر العربية
وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني
مكتب الوزير



التاريخ ٢٠٠٧ / ٧ / ٢٢

قرار وزاري

رقم (١٧١) بتاريخ ٢٠١٩/٧/٧

بشأن: إنشاء وتشغيل وإدارة وتنظيم العمل وقواعد القبول بالمدارس المصرية اليابانية

وزير التربية والتعليم والتعليم الفني:

بعد الاطلاع على الدستور،

بعد الاطلاع على قانون نظام الإدارة المحلية الصادر بالقانون رقم (٤٣) لسنة ١٩٧٩، ولائحته التنفيذية، وتعديلاتهما،

وعلى قانون التعليم الصادر بالقانون رقم (١٣٩) لسنة ١٩٨١، ولائحته التنفيذية، وتعديلاتهما،

وعلى القانون رقم (١٢) لسنة ١٩٩٦، بإصدار قانون الطفل، وتعديلاته، ولائحته التنفيذية،

وعلى قانون الخدمة المدنية الصادر بالقانون رقم (٨١) لسنة ٢٠١٦، ولائحته التنفيذية، وتعديلاتها،

وعلى قرار رئيس الجمهورية رقم (٢٧١) لسنة ١٩٩٧، بتنظيم وزارة التربية والتعليم،

وعلى القرار رئيس الجمهورية رقم (٢٥٧) لسنة ٢٠١٦ بتشكيل لجنة تسيير مبادرة التعليم المصرية اليابانية،

وعلى القرار الوزاري رقم (١٥٤) لسنة ١٩٨٩، بشأن قواعد القبول والالتحاق، وتعديلاته،

وعلى القرار الوزاري رقم (٣١٣) لسنة ٢٠١١، بشأن إعادة تنظيم التقويم التربوي الشامل المطبق على

مرحلة التعليم الأساسي بحلقتها، وتعديلاته،

وعلى القرار الوزاري رقم (٢٨٥) لسنة ٢٠١٤ وتعديلاته، بشأن المدارس الرسمية للغات والمدارس

الرسمية المتميزة للغات، وتعديلاته،

وعلى القرار الوزاري رقم (١٣) لسنة ٢٠١٧، بشأن إنشاء وحدة إدارة مشروع المدارس المصرية

اليابانية، المعدل بالقرار الوزاري رقم (٤٩٨) لسنة ٢٠١٧،

وعلى القرار الوزاري رقم (١٥٩) لسنة ٢٠١٧، بشأن إنشاء المدارس المصرية اليابانية،

وعلى القرار الوزاري رقم (٢٢٤) لسنة ٢٠١٧،

وعلى القرار الوزاري رقم (٤٢١) بتاريخ ٢٠١٨/١٠/٢٢ بشأن إنشاء وحدة إدارة المدارس المصرية

اليابانية بديوان عام وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني،

وعلى الاتفاقية المبرمة بين وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني، والوكالة اليابانية للتعاون الدولي

بتاريخ ٢٠١٦/١١/١

القرار
الرقم
١٧١



جمهورية مصر العربية
وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني
مكتب الوزير

التاريخ / / ٢٠٠٠

-٢-

تابع القرار الوزاري رقم (١٧١) بتاريخ ٧/٨/٢٠١٩

قصر:

المادة الأولى:

يقصد في تطبيق أحكام هذا القرار بالعبارات المعنى المبين قرين كل منها:
أولاً- المدارس المصرية اليابانية: هي مدارس مصرية حكومية تطبق المناهج المصرية المطورة (٢٠٠) باللغة الإنجليزية الباقية (Discover)، ويدرس بجانبها منهج المستوى الرفيع للغة الإنجليزية (Connect Plus) كما يتم تدريس لغة ثانية يختارها الطالب من بين إحدى اللغات التي تقرها الوزارة للمراحل الدراسية بالمدرسة، وفق متطلبات المنظومة الجديدة للمناهج، ونظم التقويم حتى نهاية المرحلة الثانوية، وتقوم هذه المدارس بتطبيق منظومة أنشطة التوكاتسو اليابانية الكاملة، وفق دليل أنشطة التوكاتسو على كل المراحل التعليمية بالمدرسة، وتشمل: المدارس القائمة، والمدارس الزائدة، والمدارس الجديدة.
ثانياً - وحدة إدارة المدارس المصرية اليابانية: هي وحدة منشأة بديوان عام الوزارة وصاحبة الولاية الكاملة في الإشراف والمتابعة والإدارة لكافة شؤون المدارس اليابانية، وتتبع تلك الوحدة مكتب الوزير مباشرة، ويتم اختيار مدير الوحدة بمعرفة السلطة المختصة.
ثالثاً - السلطة المختصة: وزير التربية والتعليم والتعليم الفني.

المادة الثانية:

تعد المدارس المصرية اليابانية أصولاً مملوكة للوزارة وتكفل الوزارة كافة مصاريف تشغيل تلك المدارس، مثل: استهلاك المياه، والكهرباء، والتليفونات..... إلخ، ويتم اعتماد الأوراق الرسمية الخاصة بالطلاب والمعلمين بمعرفة الوحدة.

المادة الثالثة:

تتول حقوق الملكية الفكرية لكافة النظم المتبع العمل بها في المدارس المصرية اليابانية، وكذا أنشطة التوكاتسو لوزارة التربية والتعليم والتعليم الفني دون غيرها، وتتمثل في وحدة إدارة المدارس، وتشمل نظام الإدارة المدرسية، ومنظومة أنشطة التوكاتسو اليابانية الكاملة، بما فيها دليل أنشطة التوكاتسو المطبوعة والممارسة، وبرامج وجهات التدريب، وتصميم الأبنية على كل المراحل التعليمية بالمدرسة، ويحق المطالبة برسوم استغلال تحددها الجهة المختصة، وتكون هذه الحصيلة موجهة لتغطية مصروفات القرض، وفق الاتفاقية المبرمة بين وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني، والوكالة اليابانية للتعاون الدولي بتاريخ ١/١١/٢٠١٦.

المادة الرابعة:

تشكل وحدة المدارس المصرية اليابانية على النحو التالي:

١. مدير الوحدة.
٢. مسئول تعليمي.
٣. مسئول متابعة وتنسيق.
٤. مسئول تدريب ومتابعة مدربي أنشطة التوكاتسو اليابانية.
٥. مسئول تكنولوجيا المعلومات.
٦. مسئول مالي.
٧. مسئول إداري.



أحمد
الوزير



جمهورية مصر العربية
وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني
مكتب الوزير

التاريخ / / ٢٠٠

-٣-

تابع القرار الوزاري رقم (١٧١) بتاريخ ٧/٨/٢٠١٩

ويلحق للعمل بالوحدة عدد كاف من العاملين يتم اختيارهم عن طريق النقل أو الندب أو المأمورية من بين العاملين بوزارة التربية والتعليم والتعليم الفني والجهات التابعة لها. ويجوز للسلطة المختصة إلحاق وظائف أخرى جديدة أو أشخاص جدد في حالة حاجة العمل لذلك، كما يجوز الاستعانة بأشخاص من خارج الجهاز الإداري للعمل بتلك الوحدة عن طريق التعاقد الخاص في حالة الاحتياج، بشرط توافر الموارد المالية اللازمة لذلك، ويكون ذلك كله وفقاً للقواعد والإجراءات القانونية المقررة في هذا الشأن.

المادة الخامسة:

تتولى وحدة إدارة المدارس المصرية اليابانية والوحدات التابعة لها على مستوى المديرية التعليمية

القيام بالمهام التالية:

١. اختيار المدارس التي يتم تطبيق أنشطة التوكاتسو اليابانية بها، وفق معايير تضعها الوحدة لهذا الغرض، وذلك بالتنسيق مع الجانب الياباني وبالتعاون مع المديرية والإدارات التعليمية، ويتم اعتماد هذه المعايير من السلطة المختصة.
٢. العمل على توحيد أسلوب وآليات العمل بتلك النوعية من المدارس، ومنع ازدواجية اتخاذ القرارات، والوصول إلى فهم عام موحد حول تنفيذ أهداف التجربة اليابانية، من خلال التوجيه للمديرية والإدارات التعليمية بالمحافظات، وكذلك الإدارات المعنية بديوان عام الوزارة بكافة الإجراءات التي تكفل نجاح واستمرارية تنفيذ الأنشطة.
٣. إعداد البرامج والتطبيقات اللازمة للعمل بالوحدة على مستوى ديوان عام الوزارة والوحدات التابعة لها بالمديرية التعليمية مثل: (إنشاء موقع إلكتروني - قواعد بيانات - برامج إلخ)، على أن تتولى الإدارة المركزية لنظم وتكنولوجيا المعلومات توفير البنية الأساسية لذلك، وتذليل أية عقبات.
٤. ترشيح العاملين المطلوبين للوحدة وأفرعها بعد إجراء الاختبارات، والمقابلات الشخصية اللازمة لهم؛ بهدف تمكين الوحدة من الاستمرار في أداء مهامها، وتغطية أنشطتها المختلفة على مستوى المدارس، وذلك بعد موافقة السلطة المختصة.
٥. اقتراح وإعداد وتنفيذ البرامج التدريبية اللازمة للعاملين بالوحدة وأفرعها وبالمدارس، بالتعاون مع الجانب الياباني.
٦. وضع المعايير واختيار المرشحين للاستفادة من المنح التي يوفرها الجانب الياباني للمشروع، بعد إجراء الاختبارات والمقابلات اللازمة لهم، بالتنسيق مع الجانب الياباني.
٧. المتابعة المستمرة وتقويم أداء العاملين بالمدارس، وربط الأداء بالحوافز المقررة للعاملين بالوحدة أو أفرعها أو المدارس، وفق القواعد التي يتم وضعها لهذا الغرض.
٨. بناء الشراكات مع الجهات المختلفة من الهيئات والوزارات المعنية بدعم المدارس المصرية اليابانية.
٩. الترويج لأنشطة التوكاتسو اليابانية، بما يساعد على فهم الأنشطة، وتعميم تنفيذها على جميع مدارس الجمهورية.



جمهورية مصر العربية
وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني
مكتب الوزير

التاريخ / / ٢٠٠

-٤-

تابع القرار الوزاري رقم (١٧١) بتاريخ ٧/ ٨/ ٢٠١٩

المادة السادسة:

لا يجوز لأية جهة: (إدارة بديوان عام الوزارة - مديرية أو إدارة تعليمية) نقل أو نذب أو إلغاء نذب أو إصدار مأموريات عمل أو اتخاذ أي إجراءات بشأن العاملين بوحدة المدارس المصرية اليابانية، من شأنها الإخلال بمنظومة العمل داخل هذه المدارس، وإهدار برامج بناء القدرات التي حصل عليها العاملون بها، دون الرجوع لمدير وحدة إدارة المدارس للموافقة على القرار.

المادة السابعة:

يجوز تكليف أية جهة أو كيان بإدارة وتشغيل المدارس المصرية اليابانية، بما في ذلك الشؤون المالية والموارد البشرية والشؤون الإدارية للطلاب والمعلمين، ويكون ذلك بناء على تكليف من السلطة المختصة، وإشراف وحدة المدارس المصرية اليابانية، على أن ينص هذا التكليف على تحديد الأدوار والمهام والمسئوليات لهذه الجهة أو الكيان.

المادة الثامنة:

يقبل الطلاب بالمدارس المصرية اليابانية وفقاً للشروط والقواعد التالية:

١. أن يكون الطالب مصري الجنسية ومن أبوين مصريين.
٢. ألا تقل السن في أول أكتوبر عن (٤) أربع سنوات في مرحلة رياض الأطفال (المستوى الأول) وألا تزيد السن عن ١٢ (اثني عشر) شهراً، عدا يوم واحد لكل مستوى أعلى حتى نهاية الصفوف بالمدارس، والجدول التالي يحدد جدول السن للطلاب حتى العام الدراسي ٢٠٢٠/٢٠٢١، ويتم احتساب السن مستقبلاً بنفس المعايير:

السن		الصف الدراسي
من	إلى	
٤ سنوات	٥ سنوات عدا يوم واحد	المستوى الأول لرياض أطفال
٥ سنوات	٦ سنوات عدا يوم واحد	المستوى الثاني لرياض أطفال
٦ سنوات	٧ سنوات عدا يوم واحد	الصف الأول الابتدائي
٧ سنوات	٨ سنوات عدا يوم واحد	الصف الثاني الابتدائي

٣. لا يجوز الاستثناء من شرط السن بأي حال من الأحوال لكل مرحلة أو صف دراسي، على أن يكون حساب سن الأطفال المتقدمين بالمدارس، اعتباراً من الأول من أكتوبر في كل عام.
٤. الالتزام بالمربع السكني لولى أمر الطفل.
٥. موافقة ولي الأمر على ما يلي:

- أن يطبق ابنه النموذج الياباني بكافة أعبائه داخل وخارج المدرسة.
- خدمة ولي الأمر للمدرسة لمدة عشرين ساعة سنوياً، وفقاً للقواعد التي تضعها المدرسة.
- التوقيع على إقرار بالموافقة على الشروط والقواعد الخاصة بالمدارس المصرية اليابانية من نسختين نسخة تسلّم للمدرسة، ونسخة لولى الأمر.



جمهورية مصر العربية
وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني
مكتب الوزير

التاريخ / / ٢٠١٩

-٥-

تابع القرار الوزاري رقم (١٧١) بتاريخ ٢٠١٩/٨/٧

٦. يفتح باب التقدم للمدارس المصرية اليابانية عن طريق المنصة الإلكترونية المخصصة لذلك، ولا يجوز التقدم ورقياً، وتعلن نتيجة التنسيق إلكترونياً.
٧. تعلن النتيجة النهائية للتنسيق بعد عقد مقابلة شخصية للطلاب.
٨. يسجل الطلاب المقبولون بالمدرسة بعد سداد الالتزامات المالية، وفق القواعد المنظمة لذلك.
٩. حالات الدمج التي يتم اكتشافها أثناء المقابلات الشخصية، يتم تأجيل البت في قبولها لحين عرض الحالة على لجنة خاصة للتقييم الصحي والنفسي تشكل بمعرفة الإدارة المركزية لشئون التربية الخاصة؛ تمهيداً لاتخاذ القرار المناسب في ضوء القواعد والقرارات المنظمة لهذا الشأن.

المادة التاسعة:

يكون الالتحاق بالمدارس المصرية اليابانية من خلال تسجيل بيانات الطفل/ الطالبة على المنصة الإلكترونية المخصصة لذلك، ويتم التحويل أو النقل بعد القبول بشكل نهائي، ويجوز قبول أو نقل أو تحويل الطلاب من المدارس الخاصة للغات والمدارس الرسمية للغات بنوعيتها، والمعاهد الأزهرية للغات إلى المدارس المصرية اليابانية، وفق قواعد التقدم للمدارس المصرية اليابانية، كما يجوز لطلاب المدارس المصرية اليابانية (لغات) التحويل إلى الصفوف المناظرة بمدارس المناهج العربية والرسمية للغات إذا استوفوا الشروط المقررة للقبول بها، وفي جميع الأحوال يشترط وجود أماكن شاغرة، وبما لا يخل بالكثافة المقررة، وفي حدود قواعد القبول الخاصة بالسنة سالفه الذكر.

المادة العاشرة:

يحدد عدد الطلاب في المدارس المصرية اليابانية بعدد ٣٦ (سنة وثلاثون طالباً) في الفصل الواحد، مع جواز زيادة الكثافة المقررة، بما لا يزيد عن (٤٠) أربعين طالباً في الفصل الواحد، بعد الحصول على موافقة وحدة المدارس المصرية اليابانية.

المادة الحادية عشرة:

يلتزم طلاب المدارس المصرية اليابانية بارتداء زي موحد توافق عليه الوحدة بعد العرض وموافقة السلطة المختصة، وتكلف الوحدة الجهة المسؤولة عن إدارة المدارس بإجراءات تنفيذه وتوزيعه على الطلاب.

المادة الثانية عشرة:

إذا أخل ولى الأمر بسداد المصروفات الدراسية في المواعيد المحددة يتم تحويل ملف الطالب إلى الإدارة التعليمية التابع لها المدرسة المصرية اليابانية لنقله إلى مدرسة حكومية لا تطبق أنشطة إضافية، وللمدرسة اتخاذ إجراءات المطالبة القضائية بالدين وفقاً لأحكام القانون المدني، وقانون المرافعات المدنية والتجارية.

المادة الثالثة عشرة:

يتم التقدم لشغل الوظائف الخاصة بالمدارس المصرية اليابانية (مدير ووكيل ومعلم ومعلم مساعد ومعلم تخصص أو نشاط أو إخصائي... إلخ) عن طريق المنصة الإلكترونية المخصصة لذلك، والتي تديرها وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني، وفقاً للقواعد المعتمدة من السلطة المختصة، ويسمح بالتقدم للعاملين بوزارة التربية والتعليم والتعليم الفني، أو من خارجها.

رصد
مكتب



جمهورية مصر العربية
وزارة التربية والتعليم والتعليم الفني
مكتب الوزير

التاريخ / / ٢٠٠

-٦-

تابع القرار الوزاري رقم (١٧١) بتاريخ ٢٠١٩/٨/٧

المادة الرابعة عشرة:

تسري أحكام هذا القرار على جميع المدارس اليابانية، سواء مدارس التجربة الأولية (المدارس الرائدة في تنفيذ أنشطة التوكاتسو)، وعددها (١٢) اثنتا عشرة مدرسة في نطاق القاهرة الكبرى، والتي بدأ العمل بها اعتبارًا من العام الدراسي ٢٠١٥/٢٠١٦، أو ما تم إنشاؤه ولم يتم تشغيله أو ما سوف يتم إنشاؤه وتشغيله مستقبلاً.

المادة الخامسة عشرة:

تسري أحكام هذا القرار على المدارس الحكومية والرسمية للغات التي سيتم تطبيق أنشطة التوكاتسو بها تحت مظلة اتفاقية القرض الياباني، وعددها (١٠٠) مائة مدرسة على مستوى الجمهورية (تحت مسمى المدارس القائمة) أو المدارس التي المزمع إنشاؤها أو تحويلها مستقبلاً.

المادة السادسة عشرة:

يلغى العمل بالقرارات الوزارية أرقام: (١٣) بتاريخ ٢٠١٧/١/١٧، و(١٥٩) بتاريخ ٢٠١٧/٥/٦، و(٢٢٤) بتاريخ ٢٠١٧/٧/٨، و(٤٩٨) بتاريخ ٢٠١٧/١٢/٢٧، و(٤٢١) بتاريخ ٢٠١٨/١٠/٢٢، كما يلغى كل ما يخالف هذا القرار من أحكام.

المادة السابعة عشرة:

يعمل بهذا القرار من تاريخ صدوره، وعلى جميع الجهات المعنية - كل فيما يخصها - تنفيذه.

وزير التربية والتعليم والتعليم الفني

أ.د/ طارق شوقي



添付資料 9

Google フォトアルバム一覧

URL of Google Photo Albums

202110

Pre-study survey at Al Galaa pioneer school

<https://photos.app.goo.gl/KczxYEomwNLVHX658>

Grade 4 Orientation@MOETE HDQs

<https://photos.app.goo.gl/aUzLxCiT4mKk4hbE8>

New TO Training@Ed. City (02/Oct/2021~06/Oct/2021)

<https://photos.app.goo.gl/ZKeDG8M3CXmrfzxm7>

EJS New Teachers Training 11~16/Sep/2021@Mubarak Education City

<https://photos.app.goo.gl/Mufbicq7rH6LG3238>

TTCS Individual Interview

<https://photos.app.goo.gl/MgQYhk5RBb2WaS6cA>

202108

EJS Principals and V.Principals Training 2021/22

<https://photos.app.goo.gl/Awq3TSpfb5zLQZCK8>

Prof.Sugita in Egypt Aug 2021

<https://photos.app.goo.gl/KY42fg8MELJqnDiy5>

TO training 2021/22

<https://photos.app.goo.gl/GppfN8w5cG8HZ3qp9>

Good practice samples

<https://drive.google.com/drive/folders/1qrQJv3MAI0K6m0dfo0h44iaO6gTof18h>

202103

Video Shooting at Sara Taqy Allah

<https://photos.app.goo.gl/fK9n43d6248wJM1B8>

202011

All TO training at Mubarak City

Day 1:

<https://photos.app.goo.gl/eK8FhTmpVpZ91abu5>

Day 2:

<https://photos.app.goo.gl/2dZ7vp7sgS6VFkTK9>

202010

Training at Mubarak City New TOs from 03-07 Oct.2020

Day 1:

<https://photos.app.goo.gl/BwNBjxHzrHmLQFjv7>

Day 2:

<https://photos.app.goo.gl/9TPzg6xGq4m9PnUW7>

Day 3:

<https://photos.app.goo.gl/U9c2eMpingauEj6d9>

Day 4 :

<https://photos.app.goo.gl/xcpUBSbRCACQ2tbt7>

Training at Mubarak City New teachers 08-11 Oct.2020

Day 1:

<https://photos.app.goo.gl/mqaKRxmMH4aQ9HoX9>

Day 2:

<https://photos.app.goo.gl/dbyqmjmQ1yQcEseu7>

Day 3:

<https://photos.app.goo.gl/MxDj9YXuGfxpH7K28>

Day 4 :

<https://photos.app.goo.gl/ADR9iouqZBjPKo247>

20200207 Training of Egyptian TOs in JICA Yokohama (Day 12) - JICA Yokohama

<https://photos.app.goo.gl/fxmuPJHcdm7HmAxx6>

20200201 Training of Egyptian TOs in JICA Yokohama (Day 7) - Egypt-Japan Tokkatsu Workshop @ JICA Yokohama

<https://photos.app.goo.gl/9pNZzn2zqxT2FqMY7>

20200203 Training of Egyptian TOs in JICA Yokohama (Day 8) - JICA Yokohama

<https://photos.app.goo.gl/RqdWLX3EqvCRVy638>

201912

36) EJS Kafr El Bateekh, Damietta (12 Dec 2019)

<https://photos.app.goo.gl/yvDCuWu9aEwcBf6t7>

37) EJS Tamai El Amdeed, Daqahleya (17 Dec 2019)

<https://photos.app.goo.gl/QQEaeXa6qVM2m7tZ9>

38) EJS Biyala, Kafr-El Shiekh (11 Dec 2019)

<https://photos.app.goo.gl/RDKW1iNBgvieVWWEA>

20191223 EJS Shrouk 1, Cairo (with Sugita Group)

<https://photos.app.goo.gl/98Eya9oKzGcdYFE96>

20191224a EJS Akkad, Aswan (with Sugita Group)

<https://photos.app.goo.gl/wqfXLWkLUiEX85Gs6>

20191225a Seminar @ Tolip Hotel, Aswan (with Sugita Group)

<https://photos.app.goo.gl/gYhuu2cQ6RNfcb3V6>

20191226a EJS Redesia, Aswan (with Sugita Group)

<https://photos.app.goo.gl/yo1jdem9xcCqxnvh8>

20191229 EJS Shrouk 2, Cairo (with Sugita Group)

<https://photos.app.goo.gl/UxA3U8Fc13ya4csR6>

201911

EJS Kafr El Bateekh

<https://photos.app.goo.gl/mKB6Y4CvmePcJk8w7>

EJS Obour

<https://photos.app.goo.gl/kd7X7jKT7ymauBas9>

EJS 10th Ramadan1

<https://photos.app.goo.gl/6Z5ZxdocEgpjBWYi7>

砂場あそび WS@EJS Obour

<https://photos.app.goo.gl/ZtzsadyHmXpWneD4A>

中東欧州部 ミッション

<https://photos.app.goo.gl/jvKjhh38KjfSRGAf7>

人間開発部 ミッション

<https://photos.app.goo.gl/GwNm8bmge2zVCHf37>

EJS Tanta

<https://photos.app.goo.gl/BE16hmjuaoA2gpim6>

EJS Port Said

<https://photos.app.goo.gl/8qjWxd6qvR99TjBk8>

EJS New Damietta

<https://photos.app.goo.gl/zrproBVwBHG3ScAx9>

EJS Gamasa

<https://photos.app.goo.gl/Yc7aSrkt4G3bXCij8>

EJS New Fayoum

<https://photos.app.goo.gl/fuT1jfU2tGAMcLXz6>

EJS Snouras

<https://photos.app.goo.gl/ZJY546roiQBJawJ87>

EJS Borg El Arab1

<https://photos.app.goo.gl/rytufFpNhgK9i9Kf6>

EJS Borg El Arab2

<https://photos.app.goo.gl/bn5dzBtQv41Z8Cia7>

20191014 Fukuoka University of Education (福岡教育大学)

<https://photos.app.goo.gl/uwxPDcVEkpTmLDGy6>

20191015 Fukuma-minami Primary School in Fukutsu City, Fukuoka

<https://photos.app.goo.gl/fMn3i6GXs2DnmU989>

20191014 Fukuoka University of Education

<https://photos.app.goo.gl/uwxPDcVEkpTmLDGy6>

20191007 Hachiya Primary School in Buzen City

<https://photos.app.goo.gl/AfmsPxsFZADa8Y2r9>

20191008 Katakasu Primary School in Fukuoka City

<https://photos.app.goo.gl/PTczTuDoj8v8XS8d6>

20191009 Genkai Yurinoki Nursery in Munakata City

<https://photos.app.goo.gl/uvwWQBHAA9fQ8gnv7>

20191010 Koishi Primary School in Kita-kyushu City

<https://photos.app.goo.gl/T9SQUprR4EckNB8qH8>

20191011 Kato-nishi Primary School in Munakata City

<https://photos.app.goo.gl/6Z9iLirPuM6pXk7S6>

Tokkatsu Conference@ASU (28/SEP/2019)

<https://photos.app.goo.gl/BsCFMBTFkoMopgpL7>

TO training to prepare for 2nd batch EJS training@Mubarak Education City
(25/Sep~27/Sep/2019)

<https://photos.app.goo.gl/GEfDTv5pT4bA52ybA>

Monitoring training@Mubarak Ed. City (22nd~24th Sep 2019)

<https://photos.app.goo.gl/3yEbCMTBRs3FgJTw6>

EJS new teachers interview@Triumph hotel (15~18/Sep/2019)

<https://photos.app.goo.gl/T6wYxWZx3EQhp8P18>

Training for EJS 2nd year teachers (KG) (12th~14th Sep 2019@Mubarak Ed. City)

<https://photos.app.goo.gl/ARRE9oDifWvyGm4n6>

Training for EJS 2nd year teachers - Primary (9th~11th Sep 2019@Mubarak Ed. City)

<https://photos.app.goo.gl/qCTwUnCWcAV2rdYHA>

Training with Prof.Sugita for TOs, Principals & STU teachers from EJS & Pioneer Schools
(7/Sep/2019 & 8/Sep@Mubarak Ed.City)

<https://photos.app.goo.gl/dBDUDic5AXXhgcyE8>

Meeting with Prof.Hassan Bilani@ACCD (5/Sep/2019@Nasr City)

<https://photos.app.goo.gl/QN5eseVi4B61gYbk9>

TO training AUG2019

<https://photos.app.goo.gl/2qffMDM52n6qkEeo8>

TICAD 用

<https://photos.app.goo.gl/e1SEZYHggYD5w4ze7>

201907

<https://photos.app.goo.gl/Xq2d8iHM7t9y96559>

EJEP HRDP 研修

<https://photos.app.goo.gl/3odehk9XMaUE8UwL7>

201906

<https://photos.app.goo.gl/Zd8hZbbhRrjEcuC9>

TO material development 201906

<https://photos.app.goo.gl/Pg9Bq5v1QUMgFqik9>

Ain Sham Seminar 201904

<https://photos.app.goo.gl/rLpsxpqaBJfF87qKA>

201904

<https://photos.app.goo.gl/v3K7ayF32usVEHWVA>

201903

<https://photos.app.goo.gl/PZtsH4EZPcRzhnaG6>

EJS Principals meeting

<https://photos.app.goo.gl/6tkHqxY8JvgdrQ818>

2 Day Mini Tokkatsu Introduction Session (4th & 5th Feb)

<https://photos.app.goo.gl/kz1j9gvg8x8ucYFa8>

EJS Principal Meeting & Training (24th - 28th Jan

<https://photos.app.goo.gl/izG4HmEz3j6vVpJg9>

Ain Shams 201812

<https://photos.app.goo.gl/rBorCzdfnQ3BECik6>

Opening Event at EJS Obour (1st Dec 2018)

<https://photos.app.goo.gl/EBRjZaFmiT7vpMsK9>

201811

<https://photos.app.goo.gl/S6eV5p5XBeAVcHAL9>

201810

<https://photos.app.goo.gl/sVd6Fe9eDzMrgPtP9>

201809

<https://photos.app.goo.gl/8E5ph92ETa7c4bpz7>

201808

<https://photos.app.goo.gl/YN91cmXov5QS6Lmj6>

Tokkatsu Officer Training July 2018

<https://photos.app.goo.gl/FdtAxZXR1T6KKJty8>

201805

<https://photos.app.goo.gl/PFf1byXHfsN514YU7>

201804

<https://photos.app.goo.gl/irAn7fgvB2eMo9nL6>

201802

<https://photos.app.goo.gl/ZgUgJUax79i8tWJV8>

201712

<https://photos.app.goo.gl/XWCq4swszFmUJnRi7>

プレパイロット活動

<https://photos.app.goo.gl/3ZKoxTcdfNiaxiAC7>

パイロット校

<https://photos.app.goo.gl/q2tADHsvheUrQSVa9>

201711

<https://photos.app.goo.gl/JL3QxDLR1ohWMY2U8>

201710

<https://photos.app.goo.gl/JmtinU9Ne8N5FWEy8>

201708

<https://photos.app.goo.gl/bb1hCTNTF8ysRtbHA>

201707

<https://photos.app.goo.gl/ocPhAp4GdaMZYnMe9>

201706

<https://photos.app.goo.gl/63mbTWxRZam5mCQJ8>

201705

<https://photos.app.goo.gl/1KaZejb1t3PLC3Z37>

201704

<https://photos.app.goo.gl/F87JbNauK6JjL9eCA>

201703

<https://photos.app.goo.gl/dwAv7tmw7FzBQoKG6>

201612

<https://photos.app.goo.gl/39XFNEaHpgt5g19q8>

201611

<https://photos.app.goo.gl/CnuQwBWH3iMR2qtu7>

201606

<https://photos.app.goo.gl/Z6vgj5bWQWjqyg357>

201605 本邦招聘

<https://photos.app.goo.gl/Ry2RYgFJ1P91ENkA6>

201604

<https://photos.app.goo.gl/MHyZVuGkSbEc8e6u7>

201601

<https://photos.app.goo.gl/y4HC7XnXcCWEAADKA>

201512

<https://photos.app.goo.gl/Pvz1GCqF7JSSTeCj6>

201511

<https://photos.app.goo.gl/4ZwDvgHoqu47KbBF6>

201510

<https://photos.app.goo.gl/yZmyurASAbEyM2dXA>

201509

<https://photos.app.goo.gl/KFy3rNoyS21Bmu1H7>

201508

<https://photos.app.goo.gl/q6B46Huk3aTbWqke8>